

然ノコトニ屬スルヲ以テ改正令ニ於テハ特別ノ事情アリ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ徵收スル場合ヲ除キ尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スルコトヲ得スト規定セラレタリ蓋就學ノ督促ヲ爲シ義務教育ノ普及ヲ圖ランカ爲ニハ授業料ヲ徵收セサルハ其ノ方法ノ一タラサルヲ得ス然レトモ授業料ノ收入ヲ以テ學校維持費ノ重要ナル財源ト爲シタル地方ニ在リテ遽ニ之ヲ廢止セントシテ其ノ經濟上ニ大ナル影響ヲ生スルカ如キハ亦深ク戒メサルヘカラサル所ナリ宜ク土地ノ情況ヲ察シ緩急ヲ量リテ適當ノ施設ヲ爲シ小學校教育ノ實效ヲ擧クルヲ以テ旨トナサ、ルヘカラス

小學校圖書審查委員會ニ於テハ其ノ組織ヲ改正シ從來加ヘタル所ノ府縣參事會員及小學校教員ヲ除キ新ニ府縣書記官、府縣立高等女學校校長及郡視學ヲ加フルコト、セラレタリ蓋府縣參事會員ハ府縣ノ經濟ノ情況ニ通スルヲ以テ圖書審查ノ際成ルヘク府縣經濟ノ實況ニ伴ハシムル爲從來ハ之ヲ加ヘタリシモ多年ノ經驗ニ依リ今日ニ至リテハ最早參事會員ヲ加フルノ必要ナキヲ以テ之ヲ除カレタリ又從來小學校教員ヲ加ヘタリシハ圖書審查ノ際小學校ノ學科程度ニ適セシムルヲ要スルカ爲ナリシモ郡、府縣ニ視學ヲ置カレ之ヲ審查委員會ニ加ヘラレタル今日ニ於テハ最早教授ニ餘暇少キ小學校教員ヲ強テ加フルノ必要ナキニ至レルヲ以テ之ヲ除カレタリ而シテ更ニ府縣書記官ヲ加ヘラレタルハ之ヲシテ審查委員會ノ委員長ニ充テ審查會ヲ統轄セシムルノ必要アルヲ以テナリ高等女學校校長及郡視學ヲ加ヘラレタルハ師範學校長、中學校長、及府縣視學等ト同様ノ職務上關係アルヲ以テナリ又施行規則ニ於テハ審查ノ旨趣ヲ明ニシ學校ノ種類、男女ノ區別又ハ學校所在地ノ情況ニ依リテ各別ニ適切ナル圖書ヲ選定スルコトヲ得シメ全府縣ヲ通シテ同一種類ノ圖書ヲ三種以上併用スルカ如キコトナカラシメントス然レトモ市街地ト村落トノ如キ或ハ山間ト海邊

トノ如キハ成ルヘク各、其ノ土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ選ヒテ之ヲ用フルヲ可トス又府縣知事ニ於テ採定シタル圖書ハ之ヲ使用セントスル學年ノ開始ヨリ少クモ九十日以前ニ其ノ採定シタル圖書ニ關スル必要ノ事項ヲ公布セシムルコト、シテ學年開始ニ至リ採定シタル圖書ノ供給ヲ關キ教授ニ支障ヲ來スカ如キ憂ナカラシメント期シタリ

小學校ノ職員ニ於テハ正准教員ノ外代用教員ヲ認メラレタリ是レ實際ノ情況ニ願ミテ今日ノ時宜ニ應セラレタルニ外ナラス現在資格アル正教員ノ不足數夥シキ際ニ當リテハ代用教員即チ從來ノ雇教員ヲ採用シテ之ヲ補充セサルヘカラス是レ今日ニ在リテハ已ムコトヲ得サル所ナリ而シテ又學校編制ノ規定ニ於テモ最モ教員ノ配置ニ注意シ小學校ニ於テハ單級小學校ト雖モ必ス正教員ヲ置クヲ本體トシ多級小學校ニ於テハ正教員ヲ得難キトキハ必スシモ學級毎ニ正教員ヲ置カスニ學級毎ニ一人ノ割合ヲ以テ之ヲ置クヲ得ルコト、シテ平均ニ資格アル正教員ノ配置ヲ爲スヲ得シメタリ故ニ能ク注意シテ獨リ都會ノ地ニ在ル小學校ニ資格アル教員集注シテ僻陬ノ地ニ在ル小學校ハ資格ナキ者ノミヲ以テ充タサル、カ如キ弊ナカラシメント期シタリ

改正小學校令中以上ニ示ス所ノ外猶從來ノ實驗ニ徵シ時勢ノ進步ニ考ヘ必要ノ改正ヲ施サレタルモノ多シ然レトモ以上示ス所ノ如キハ其ノ最モ主要ナルモノナリ殊ニ改正小學校令ニ於テハ意ヲ用ヒテ從來ノ施設ヲ改造スルノ方法ヲ避ケ之ヲ補綴改善スルノ方針ヲ取ラレタリ蓋往往改正ニ伴フ通弊タル從前ノ施設ヲシテ無効ニ歸セシメ經濟上大ナル變動ヲ生スルニ鑑ミタルナリ而シテ其ノ施行上ノ手續ノ如キハ之ヲ從來ノ經驗ニ徵シ務メテ簡便ニ從ハンコトヲ期セリ

小學校教育ノ事タル其ノ實效ヲ奏セント欲スレハ單ニ法規ノ整備ニノミ賴ルコトヲ得ス必スヤ小

學校教員ニ其ノ人ヲ得學事ノ監督其ノ宜キヲ得サルヘカラス而シテ小學校教員ニ其ノ人ヲ得ント欲スレハ之ヲ優待スルノ道ヲ講スルト之ヲ鼓舞獎勵スルノ法ヲ設クルヲ要ス近年市町村ハ概テ教員ヲ優遇セントスルノ狀アリ政府モ亦年功加俸ノ制ヲ改メ特別加俸ノ制ヲ新設シ且教育資金ノ一部ヲ以テ教員獎勵ノ費ニ充ツルコトヲ許シタリ府縣知事ニ於テハ能ク教員ノ選任ニ注意シ有能ヲ獎メ有功ヲ推シ小學校教員ヲシテ各ニ樂ミテ其ノ職ニ勵精セシメンコトヲ期圖スヘシ又學事ノ監督ニ關シテハ曩ニ地方官官制ノ改正ニ依リ郡府縣ニ視學ノ官ヲ置カレタルヲ以テ學事監督ノ機關略ニ備ハリタリ今ヤ小學校令ノ改正發布セラレ又小學校令施行規則ヲ發布シタルニ依リ府縣知事ハ能ク其ノ旨趣ヲ體認スルト共ニ深ク小學校教員ノ選任ト學事ノ監督トニ注意シ以テ小學校ノ教育ヲシテ益々實用ニ適セシメ國民教育ノ實效ヲ舉グルニ於テ遺算ナカラシムコトヲ務ムヘシ

○小學校令中改正ノ要旨及其施行上注意要項

明治四十年三月二十五日  
文部省訓令第一號

北海道廳 府 縣

今般勅令第五十二號ヲ以テ小學校令中ニ改正ヲ加ヘラレ文部省令第六號ヲ以テ小學校令施行規則ノ一部ヲ改正セリ今左ニ改正ノ要旨ヲ舉ケ且其ノ施行上特ニ注意ヲ要スル事項ノ大要ヲ示サン義務教育ノ年限即チ尋常小學校ノ修業年限ヲ六箇年ニ延長スルハ改正令ノ主眼トスル所ナリ蓋シ

從來ノ修業年限ヲ以テ義務教育ノ本旨ヲ全ウスルコトハ頗ル困難ナルニ因リ明治三十三年現行小學校令制定ノ際既ニ其ノ年限ヲ延長スルノ必要ヲ認メタルモ當時四箇年ノ義務教育スラ尙未タ普及スルニ至ラザリシカ故ニ將來ニ之カ實行ヲ期スルコトトシ其ノ準備トシテ尋常小學校ニ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ併置スルコトヲ獎勵スルニ止メタリ爾來義務教育ハ著シク普及スルニ至レルノミナラス尋常小學校ニ高等小學校ヲ併置シタルモノ亦大ニ増加シ今ヤ改正ノ時機既ニ熟セルヲ認ムルト共ニ戰後益々國民ノ智徳ヲ上進スルノ必要アリ是レ義務教育ノ年限ヲ延長セラレタル所以ナリ固ヨリ今回ノ改正ハ未タ之ヲ以テ足レリトスルニアラスト雖モ我國現下ノ情況ハ遽ニ之ヲ六箇年以上ニ延長スルコトヲ許ササルヲ以テ暫ク之ニ満足シ其ノ完成ハ更ニ之ヲ他日二期セントス

尋常小學校修業年限ノ延長ハ現在ノ高等小學校第一學年第二學年ヲ尋常小學校ノ範圍内ニ移シタルニ外ナラス故ニ其ノ教科目ニ關シテハ多少ノ取捨ヲ爲シタリト雖モ概テ高等小學校第一學年第二學年ノ教科目ヲ加ヘラレタルニ過キス而シテ此等ノ教科目中手工ハ從來教育上ノ效果顯著ニシテ將來ハ必設ノ科目ト爲スノ期至ルヘキヲ以テ務メテ其ノ加設ヲ獎勵センコトヲ望ム

高等小學校ハ現在ノ第三學年第四學年ヲ其ノ第一學年第二學年トシテ仍之ヲ存續シ土地ノ情況ニ依リテハ三箇年ニ延長スルヲ得ルコトナレリ蓋シ義務教育ハ他日再ヒ其ノ年限ノ延長セララルコトアルヘク又本來高等小學校ハ義務教育ヲ終リタル兒童ニ一層精深適切ナル普通教育ヲ施スヲ主トスルモノナレハ其ノ目的トスル所自ラ中學校高等女學校等同シカラス故ニ義務教育ヲ終リ尙二三箇年間教育ヲ受ケントスル者ニシテ中學校若ハ高等女學校等ニ入り半途ニ退學スルカ如キ者

ニアリテハ寧ロ初ヨリ高等小學校ニ入學シ適切ニシテ且完結セル教育ヲ受クルヲ以テ優レリトス  
 若シ夫レ此ノ際義務教育年限ノ延長ニ伴ヒ既設ノ高等小學校ヲ廢止セントスルカ如キハ毫モ理由  
 ナキコトナルノミナラス更ニ必要アル場合ニ於テハ却テ之カ新設ヲ躊躇スヘカラサルナリ  
 義務教育年限ノ延長ハ全國一齊ニ之ヲ實施スルハ固ヨリ望ム所ナレトモ市町村ノ情況ニ依リ違  
 之ヲ實行シ難キモノアラシクテ特別ノ事情アルモノハ當分仍從前ノ規定ニ依ルコトヲ許サ  
 レタリ是レ市町村ノ經濟ヲ斟酌シ成ルヘク便宜ノ處置ヲ許スノ旨趣ニ外ナラス  
 此ノ如ク義務教育年限ノ延長ハ其ノ時機既ニ熟シ加フルニ市町村ノ情況ニ依リ仍從來ノ規定ニ依  
 ルコトヲ得シムル等便宜ノ處置ヲ許スヲ以テ改正令ノ實施ハ甚シキ困難ナキヲ信スルモ之ニ伴ヒ  
 學級數ヲ増シ隨テ校舍ノ増築ト教員ノ増加トヲ要シ經費ノ増額ヲ來スハ免レサルノ數ナリ然ルニ  
 市町村ノ經濟ハ十分ノ餘裕アリト云フコトヲ得ス加フルニ時勢ノ進步ニ伴ヒ市町村ノ事業モ漸次  
 多キヲ加フヘク單ニ教育上ノミニ就テ之ヲ見ルモ教員優待等經費ノ増加ヲ要スヘキモノアルヲ以  
 テ此ノ改正令ヲ實施スルニ當リテハ務メテ節約ノ方法ヲ講スルコトヲ怠ルヘカラス即チ或ハ學級  
 ノ編制ヲ整理シ或ハ二部教授ヲ施シ以テ校舍及教員ノ不足ヲ補フカ如キ適宜ノ方法ヲ設ケ改正令  
 ノ實施ヲ圓滑ニスルコトヲ期セサルヘカラス蓋シ二部教授ハ之ヲ近年ノ研究ニ徵スルニ尋常小學  
 校第一學年第二學年等幼年兒童ノ學級ニ行フトキハ其ノ教育上ノ效果ハ幾ント通常ノ教授ニ讓ラ  
 サルヲ見ル故ニ改正令實施ニ際シ經濟上必要アル場合ニ於テ一部ノ兒童ニ之ヲ行フハ時宜ニ適シ  
 タルモノタルヲ信ス殊ニ六箇年ノ單級教授ニ至リテハ若シ通學路程等ノ關係上格別ノ支障ナキ場  
 合ニ於テハ之ヲ二部教授ト爲スヲ以テ却テ利アリトスヘシ

補習教育ハ從來常ニ獎勵シタル所ナレトモ未タ十分ニ其ノ目的ヲ達スルニ至ラザリシハ遺憾トス  
 ル所ナリ今ヤ尋常小學校ノ年限ヲ延長スルモ之ニ接續シテ設クヘキ普通ノ補習教育及實業補習教  
 育ハ益々之ヲ獎勵スルコトヲ怠ルヘカラス今回補習科ノ教授時數ノ制限ヲ廢止シタルハ畢竟之カ  
 施設ヲシテ一層地方ノ情況ニ適切ナラシメシカ爲ニ外ナラス  
 尋常小學校教員ノ試驗檢定ニ就テハ其ノ程度ヲ進メ且試驗ヲ闕クコトヲ得ル科目ノ數ヲ減シタリ  
 是レ修業年限ノ延長ニ伴ヒ其ノ學力ノ程度ヲ進メサルヲ得サルニ至リタルヲ以テナリ而シテ從來  
 四箇年ノ尋常小學校ノ教員タルヘキ資格ヲ有スル者ヲ以テ改正後直ニ六箇年ノ尋常小學校ノ教員  
 タルヘキ資格ヲ認メタルカ故ニ之ニ對シテハ適當ノ方法ヲ設ケ理科其ノ他必要ナル學科目ヲ講習  
 セシメ以テ其ノ學力ヲ補習セシメンコトヲ努ムヘシ  
 尋常小學校ニ於テハ授業料ヲ徵收セサルヲ本體トシ特別ノ事情アルカ爲之ヲ徵收スル場合ト雖モ  
 學年ニ依リ其ノ額ニ差等ヲ設ケサルヲ原則トスルハ勿論ナリ然レトモ從來高等小學校ニ關シテハ  
 授業料ノ收入ヲ以テ重要ナル財源ト爲セル地方少カラサルヲ以テ改正令實施ノ際高等小學校ニ於  
 テ徵收スル授業料額ヲ超エサル限リハ尋常小學校ノ第五學年第六學年ニ於テ特ニ當分ノ内之ヲ徵  
 收スルコトヲ許セリ是レ經濟上洵ニ已ムコトヲ得サルニ出テタルナリ而シテ之カ施行上ニ就キテ  
 ハ慎重ノ查覈ヲ遂ケ適應ノ措置ヲ爲サンコトヲ要ス代用私立小學校ハ之ヲ既往ノ實驗ニ徵スルニ  
 其ノ成績公立學校ニ比シ著シク劣ルモノアルノミナラス今ヤ全國ヲ通シテ市町村立學校ノ施設普  
 及セルカ爲ニ其ノ數實ニ多カラスシテ僅ニ一地方ニ偏在スルニ過キス故ニ特ニ之ヲ一ノ制度トシ  
 テ存續スルノ必要ヲ認ムル能ハサルニ至レリ是レ今回ノ改正令ニ於テ此ノ制ヲ廢セラレタル所以

ナリ  
本大臣ハ各地方長官カ能ク改正ノ旨趣ヲ體シ國運ノ發展ニ鑑ミ地方經濟ノ狀況ニ應シ施設誘導宜シキヲ得テ益ニ國民教育ヲ進歩セシメンコトヲ望ム

○地方學事通則

明治二十三年十月二日  
法律第八十九號

第一條 町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第十七條ヲ適用ス

(參照)

町村制

第十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第十六條第一項)組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ

支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整

ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條 市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス

(明治三十五年  
法律第七號ヲ

以テ)

改正)

前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ市制第十三條町村制第十四條ノ

規程ヲ適用ス  
一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滞在シ又ハ土地

家屋ヲ所有シ營業(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ  
所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ(明治三十五年法律  
市制第六十條町村制第六十四條ノ區長並其代理者ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ其區ニ屬スル國ノ教  
育事務ヲ補助執行ス

(參照)

市制

第十三條 市内ノ一區ニシテ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スル

トキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設ケルコトヲ得其會

議ハ市會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

町村制

第十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲

スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其

町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設ケルコトヲ得其會議ハ町村

會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第三條 教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關ス

ル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條 町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區

ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條 町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若

干校ノ設立維持ヲ一町村限り負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限り負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ  
兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條 府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ  
市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條 市町村立學校長其他校員學務委員及區長並其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

(參照)

市制

第三十一條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス

町村制

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス

第八條 府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ學校幼稚園圖書館ノ爲基本財產又ハ積立金ヲ設クルコトヲ得(明治三十五年法律第七號ヲ以テ改正)

基本財產及積立金ハ單ニ某學校幼稚園圖書館ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校幼稚園圖書館ノ爲之ヲ設クルコトヲ得(上同)  
基本財產及積立金ノ設置及處分ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ(上同)  
但積立金ヲ其目的ノ爲支出スル場合ハ此限ニ在ラス(上同)

基本財產ヨリ生スル收入ハ教育ニ關スル目的ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス(上同)  
積立金ヨリ生スル收入ハ其積立金ニ編入スヘシ(上同)

第十條 府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ基本財產トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス(上同)  
公立ノ學校幼稚園圖書館ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ基本財產又ハ積立金トナスコトヲ得(上同)

府縣郡市町村學校組合及市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ基本財產又ハ積立金トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ増加シテ學校基本財產トナスコトヲ得(上同)

第十一條 從前學校ノ爲設ケタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ク之ヲ區分シテ學校基本財產トナスコトヲ得

(參照)

市制

第八十一條 市ハ其不動産、積立金穀等ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

町村制

第八十一條 町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第十二條 府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル内務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キ

テハ内務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條 本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具

申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

注意

明治三十五年法律第七號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

○寄附財産ヲ以テ設置スル官立公立學校ニ關スル規定

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百三十六號

第一條 學校ヲ設置維持スル爲メ財産ヲ國府縣郡又ハ市町村ニ寄附シ學校ノ設置維持ヲ願出テタル者アルトキハ國府縣郡又ハ市町村ハ其ノ寄附財産ヲ受ケ寄附者ノ指定シタル學校ヲ設置維持スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ設置スル公立學校ノ會計ハ特別會計ト爲スヘシ

第三條 本令ニ依リ設置スル學校ハ寄附者ノ志望ニ依リ名稱ヲ付スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費豫算ニ關シテハ調製前寄附者又ハ其ノ相續人ノ意見ヲ聞クヘシ

第五條 本令ニ依リ設置シタル學校ニ於テハ寄附者又ハ其ノ相續人ニ特別ノ關係アル生徒ニ對シ試驗料入學料又ハ授業料ヲ減額シ又ハ免除スルコトヲ得但シ第六條ニ依リ一般會計ヨリ補足ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 國府縣郡又ハ市町村ハ本令ニ依リ設置シタル學校ノ毎年度經費中職員ノ俸給ニ要スル費用ニ充ツル爲メ一般會計ヨリ補足ヲ爲スコトヲ得

第七條 前項ノ補足金ハ毎年度經費中寄附財産ヲ以テ支辨スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 本令ニ依リ設置シタル學校ヲ廢止シタル場合ニ於テ寄附者又ハ其ノ相續人アルトキハ殘餘財産ヲ之ニ還付スヘシ

附則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 諸學校通則ハ之ヲ廢止ス但シ同令第一條ニ依リ設置シタル學校及書籍館ハ仍一箇年以内存續スルコトヲ得

第十一條 前條但書ニ依リ存續シタル學校及書籍館ハ其ノ寄附者ニ於テ前條但書ノ期間内ニ本令

ノ規定ニ依リ更ニ出願シタルトキハ繼續ト看做スコトヲ得

○普通教育施設ニ關スル文部大臣ノ意見

明治二十四年十一月十七日  
文部省訓令第五號

府 縣 沖繩縣  
ヲ除ク

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ爲メ要スル所ノ諸規則ハ今回悉ク之ヲ發布シタリ依リテ茲ニ普通教育ノ施設ニ關スル本大臣ノ意見ヲ表示スルコト左ノ如シ  
普通教育ノ要ハ人ヲシテ人ノ人タル道ヲ知ラシメ日本國民タルノ本分ヲ辨ヘシメ社會及國家ノ福祉ト品位トヲ増進セシムルニ在レハ人トシテ此國ニ生活スル者ニハ何人ト雖モ普通教育ヲ受ケシメサルヘカラス是レ國家ノ當ニ爲スヘキ所ノ責任タリ各人ノ當ニ盡スヘキ所ノ義務タリ而シテ市町村ニ命ジテ公費ヲ以テ小學校ヲ設置セシメ各人ヲ督責シテ兒童ヲ就學セシムル所以ナリ  
國家ノ精神風俗貧富強弱等皆此普通教育ニ淵源セサルハナシ國家永遠ノ基礎ヲ堅固ニセント欲スル者須ク茲ニ留意シ國家百年ノ長計ヲ誤ルヘカラス  
小學校ニ於テハ徳性ヲ涵養シ人道ヲ實踐セシムルヲ以テ第一ノ主眼トシ殊ニ尊主愛國ノ志氣ヲ發揚シ兒童ヲシテ實業ヲ勵ミ素行ヲ修メ忠良ノ民タラシメンコトヲ務ムヘシ  
身體ハ百事ヲ爲スノ根源ナリ幼時身體發育旺盛ノ時ニ在リテ之カ培養ヲ忽ニスルトキハ成長ノ後遂ニ羸弱ノ民トナルヘシ小學校ニ於テハ殊ニ茲ニ留意セサルヘカラス  
小學校ノ修身ハ教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ヲ奉體シ本邦有固ノ道ヲ基礎トシテ萬國普通ノ事理ヲ

酌量シ窮行實踐ヲ務メ常ニ社會全般ノ徳義ニ背クコトナキヲ期スヘシ  
小學校ノ讀書作文習字算術ハ主トシテ修身日本地理日本歴史及日常必須ノ事ヲ材料トシ務メテ切實ノ方法ニ依リ教授スヘシ  
此等ノ諸教科目ニ於テハ皆適實善良ナル教科書ヲ撰定スルヲ要ス殊ニ修身ニ於テ多數ノ教員ノ腦裏ニ一任シテ教科書ヲ定メサルカ如キハ其當ヲ得サルモノトス  
小學校ノ教科書ハ教育上ニ經濟上ニ殊ニ至大ノ關係ヲ有スルモノナレハ其編纂採擇ノ方法最モ深ク考究セサルヘカラス  
人ノ入タル所ノ道國民ノ國民タル所ノ義及日常必須ノ事ニ關シ教育スルノ基ハ尋常小學校ニ在レハ其教科目ハ此旨趣ニ依リ之ヲ教授シ濫リニ科目ヲ増サス務メテ簡易ニシテ能ク理會セシメンコトニ注意スヘシ  
小學校ニ於テ往々教育ノ道ヲ誤リ其弊ヤ子弟ヲシテ家業ヲ忌ミ父兄ヲ侮リ徒ニ衣食ノ美ヲ欲シ安逸ヲ希ヒ勞働ヲ避クシムルカ如キ結果ヲ生シ又貧弱ノ者モ唯々學問ニ從事スルトキハ一身ノ榮達期スヘシト信シ其資力ヲ計ラシテ歲月ヲ徒費シ其極一身一家ノ不幸一國ノ不利ヲ釀スニ至ルハ目下教育上ノ通弊ナリ又女子ニ在リテハ往々濫順貞淑ノ美風ヲ損シ洒掃應對ノ實務ニ疎ク長シテ家事ヲ處理スルノ能ニ乏シキ者アリ大ニ之カ矯正ノ道ヲ計畫セサルヘカラス  
教員ハ教育ノ主腦ナレハ小學校教員ハ須ク其撰擇ヲ慎ミ其待遇ヲ厚クシテ永ク其職ニ安ンシ其誠ヲ盡サシムルノ方法ヲ求メサルヘカラス  
小學校教員ノ現數六萬有餘ニシテ正當ノ資格アル者未タ其半ニ達セス而シテ資格ヲ與フルノ方法

主トシテ學術試験ニ依ルヲ以テ經驗ニ富メル老成者少クシテ少年ノ輩多シ教育ノ良果ヲ得ルニ於テ憂慮スヘキモノアリ須ク檢定ノ法ヲ改メ任用ノ法ヲ正シ老成ニシテ經驗アリ著實ニシテ善良ナル正教員ヲ増加スルノ法ヲ講セサルヘカラス

普通教育ノ施設ハ少數ノ兒童ヲシテ完全ノ教育ヲ受ケシメンヨリ寧ロ多數ノ兒童ヲシテ國民必須ノ教育ヲ受ケシメサルヘカラス苟モ此教育ヲ受ケサレハ人其人ニ非ス民其民ニ非サルナリ方今全國學齡兒童ノ就學未タ其半ニ達セス而シテ其殘レルモノハ貧民ノ兒童多キニ居ル之ヲ就學セシムルノ方法大ニ熟慮セサルヘカラス

普通教育モ亦完全ヲ望ムハ固ヨリナリト雖モ貧富ヲ論セス一般人民ノ兒童ヲ督責シテ就學セシムルモノナレハ其施設ハ宜シク國家經濟ノ狀ヲ顧ミ人民貧富ノ度ヲ考ヘ之ニ適合シタルモノタラサルヘカラス

私立小學校及之ニ類スル各種ノ私立學校ハ教育ヲ普及スルニ於テ其關係少カラス苟モ教育ノ目的ヲ誤ラサランニハ當ニ設備不完全等ノ點ヲ以テ弊害アリト論定スヘカラス之ヲ使用シテ世教ヲ補益スルノ一助トナスヘシ

學政施設或ハ完全ヲ期シテ國度民情ニ適セス却テ教育ノ普及ヲ妨クルノ傾ナキニ非ス教育上ニ經濟上ニ其弊害免カレサルモノアリ將來ノ施設上宜シク注意セサルヘカラス殊ニ學校ノ編制建築等ニ至リテハ民度ニ適合セサルモノ少シトセス須ク簡略質素ノ方向ニ改メサルヘカラス

此方案タル外形ニ於テハ或ハ教育ノ程度ヲ下シ教育ノ規模ヲ縮ムルノ觀ナキニ非ス然レトモ實際教育ヲ普及シテ大ニ就學人員ヲ増加スヘキカ故ニ縱令其厚サニ於テ減縮スルコトアルモ其幅ニ於

テハ擴張スルニ至ルヘシ學政ノ大體ニ就キテ之ヲ觀察スレハ利アリテ害ナシト謂フヘシ又此方案ハ現今ノ國度民情ニ照ラシテ處分スルニ出タルモノナレハ自今而後國力ノ上進ニ伴ヒ漸次ニ歩ヲ進ムヘキハ固ヨリ言ヲ待タサルナリ

以上述フル所ハ主トシテ一般ニ就學ヲ督責スル尋常小學校ノ教育ニ關スルモノトス其他中人以上ノ子女ニシテ進ミテ中等若クハ高等ノ教育ヲ受クヘキ者ノ初等教育ニ至リテハ其方法ヲ異ニスヘキモノ多シ注意セサルヘカラス

地方ノ學事ニ關スル普通ノ行政事務ハ成ルヘク地方官ニ委任シテ其責任ヲ重ンセシムヘシ然レトモ教育上特ニ慎重ヲ要スヘキ事項即チ教育ノ目的方法教科書教員生徒等ニ關スルモノハ充分ニ文部省ニ於テ之ヲ表示スヘシ

法令條規煩細ニ過ルトキハ却テ實行ノ障礙ヲナスモノアリ自今學政上ノ諸法規ハ成ルヘク簡約ニシテ要領ヲ舉ケ其ノ細目ニ至リテハ地方當局者ニ運用ノ便ヲ與ヘ實際圓滑ニ行ハレンコトヲ期スヘシ

法令具備シ設備宜シキヲ得ト雖モ苟モ監督其方ヲ得サレハ實效ヲ奏スルコト能ハス教育ノ事殊ニ然リトス宜シク監督ノ方法ヲ嚴正ニシ學政ノ實效ヲ舉クルコトニ深ク注意セサルヘカラス

本大臣ノ普通教育施設ニ關スル意見概テ此ノ如シ而シテ今回發布シタル諸規則ハ一ニ此旨趣ニ依リテ制定セリ府縣知事ニ於テ今後規定セラル、所ノ諸規則竝萬般ノ處分等總テ前陳ノ旨趣ニ依遵セラレンコトヲ希望ス



○市町村立小學校費府縣郡費補助注意方

明治三十年二月十六日  
文部省訓令第二號

北海道廳 府 縣

尋常小學校ノ設置上市町村ノ資力其負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣郡ヨリ補助ヲ與フヘキコトハ小學校令第四十六條乃至第四十九條ノ規定スル所ナルヲ以テ必要ニ應シ之ヲ適用スルコトヲ怠ラサルヘキハ勿論ナリト雖モ殊ニ今般勅令第二號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給ニ關スル件ヲ發布セラレタルニ付テハ此規定ニ基キ負擔スヘキ適當ノ俸給額ヲ支出スルニ堪ヘスト認定スルトキハ右小學校令ノ規定ニ依リ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ

○私立學校令

明治三十二年八月二日  
勅令第三百五十九號

- 第一條 私立學校ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外地方長官ノ監督ニ屬ス
- 第二條 私立學校ヲ設立セントスル者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 私立學校ノ廢止及設立者ノ變更ハ監督官廳ニ開申スヘシ
- 第三條 私立學校ニ於テハ校長若ハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 本令中校長ニ關スル規定ハ之ヲ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ニ適用ス
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ私立學校ノ校長又ハ教員ト爲ルコトヲ得ス

- 一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
  - 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
  - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
  - 四 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレ二箇年ヲ經過セス又ハ懲戒ヲ免除セラレサル者
  - 五 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者
  - 六 性行不良ト認ムヘキ者
- 第五條 私立學校ノ教員ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ除ク外其ノ學力及國語ニ通達スルコトヲ證明シ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教員ニ在リテハ地方長官其ノ他ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ專ラ外國語、專門學科又ハ特種ノ技術ヲ教授スル教員及專ラ外國人ヲ入學セシムル爲ニ設立シタル學校ノ教員ハ國語ニ通達スルコトヲ證明スルコトヲ要セス
- 前項ノ認可ハ當該學校在職間有効ノモノトス
- 第六條 前條ノ證明ヲ不充分ト認メタルトキハ監督官廳ハ本人ノ志望ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ
- 第七條 私立學校ノ校長又ハ教員ニシテ不適當ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ其ノ與ヘタル認可ヲ取消スコトヲ得
- 第八條 私立學校ニ於テハ公立學校ニ代用スル私立小學校ヲ除ク外學齡兒童ニシテ未タ就學ノ義務

務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ小學校令第二十一條及第二十二條ニ依リ市町村長ノ許可ヲ受ケタル兒童ヲ入學セシムルハ此ノ限ニ在ラス

第九條 私立學校ノ設備授業及其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキハ監督官廳ハ之ヲ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條 左ノ場合ニ於テハ監督官廳ハ私立學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

一 法令ノ規定ニ違反シタルトキ

二 安寧秩序ヲ紊亂シ又ハ風俗ヲ壞亂スルノ虞アルトキ

三 六箇月以上規定ノ授業ヲ爲サ、ルトキ

四 第九條ニ依リ監督官廳ノ爲セル命令ニ違反シタルトキ

第十一條 監督官廳ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ關係者ニ通告シ本令

ノ規定ニ依ラシムヘシ

第十二條 第十條ニ依ル處分ニ對シテハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ通告ヲ受ケ第二條第一項ノ手續ヲ爲サ、ル者及第二條第二項ノ規定ニ違反

シタル者並第十條ニ依リ閉鎖ヲ命セラレタル後尙私立學校ヲ繼續スル者ハ五圓以上百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第十四條 第三條又ハ第五條ノ認可ヲ得シテ私立學校ノ校長又ハ教員タル者及第七條ニ依リ認

可ヲ取消サレタル後尙私立學校ノ校長又ハ教員タル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

情ヲ知リテ之ヲ使用シタル者亦同シ

第十五條 第八條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本令ノ規定ハ私立幼稚園ニ準用ス

第十七條 文部大臣ハ本令施行ノ爲メ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得 (明治三十二年文部省令第三十八號ヲ以テ施行規則公布)

附 則

第十八條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

第十九條 既設ノ私立學校ニシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内

ニ本令ノ規定ニ依リ認可ヲ受クヘシ

第二十條 本令施行ノ際現ニ私立學校ノ校長又ハ教員タル者ニシテ引續キ當該學校ノ校長又ハ教

員タラシト欲スル者ハ相當學校ノ教員免許狀ヲ有スル教員ヲ除ク外本令施行ノ日ヨリ三箇月以

内ニ其ノ旨ヲ監督官廳ニ開申スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條又ハ第五條ノ認可ヲ受クルヲ要セ

ス

○私立學校令施行規則

明治三十二年八月三日 文部省令第三十八號

明治三十二年勅令第三百五十九號私立學校令第十七號ニ依リ私立學校令施行規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立學校令施行規則

第一條 私立學校令第二條ニ依リ私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル

- 書類ニ校地、校舎、寄宿舎ノ圖面ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ
- 一 目的
- 二 名稱
- 三 位置
- 四 學則
- 五 經費及維持方法
- 前項第一乃至第三號及校地、校舎、寄宿舎ノ變更ハ監督官廳ニ開申シ第四號ノ變更ハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ
  - 一 修業年限、學年、學期休日ニ關スル事項
  - 二 學科課程、授業時間ニ關スル事項
  - 三 試験ニ關スル事項
  - 四 入學退學ニ關スル事項
  - 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
  - 六 賞罰ニ關スル事項
  - 七 寄宿舎ニ關スル事項
  - 八 職員ノ職務ニ關スル事項
- 第三條 私立學校令第三條第一項又ハ第五條第一項ニ依リ私立學校ノ校長、學校代表者又ハ教員

- タルノ認可ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ監督官廳ニ申請スヘシ
- 第四條 私立學校令第六條ニ依リ施スヘキ試験ハ小學校、盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校教員ニ在リテハ小學校教員檢定委員、其ノ他ニ在リテハ師範學校、中學校、高等女學校教員檢定委員又ハ文部大臣ノ特ニ選定シタル委員ヲシテ之ヲ行ハシム
- 第五條 私立學校ノ種類ニ依リ別段ニ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル
- 附 則
- 第六條 明治十四年文部省達第十五號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○官立公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テ宗教上ノ教育儀式施行禁止

明治三十二年八月三日  
文部省訓令第十二號

北海道廳 府縣  
文部省直轄學校

一般ノ教育ヲシテ宗教ノ外ニ特立セシムルハ學政上最必要トス依テ官立公立學校及學科課程ニ關シ法令ノ規定アル學校ニ於テハ課程外タリトモ宗教上ノ教育ヲ施シ又ハ宗教上ノ儀式ヲ行フコトヲ許サ、ルヘシ

○市町村ノ廢置分合等ニ因リ消滅スヘキ學校幼稚園及兒童教育事務委託ノ存續ニ關スル件

明治三十四年十月二十五日  
勅令第百九十七號

- 第一條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ尋常小學校及兒童教育事務ノ委託ハ府縣知事ノ定ムル期間内ニ於テ之ニ代ルヘキ施設ヲ終ル迄仍存續セシム
- 第二條 市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因リ消滅スヘキ高等小學校及其ノ他ノ學校、幼稚園ニ付テハ府縣知事ニ於テ期間ヲ定メテ之ヲ存續セシムルコトヲ得
- 前項ノ期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第三條 本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校及幼稚園ノ管理者ハ監督官廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 前項管理者ノ職務ニ關シテハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條 本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關スル費用ハ從來其ノ費用ヲ負擔シタル區域ノ屬スル市町村ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
- 前項ノ費用ヲ數町村ニ於テ負擔スヘキ場合ニ在リテハ郡長ニ於テ郡參事會ノ意見ヲ聞キ市町村トニ於テ負擔スヘキ場合ニ在リテハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ其ノ豫算及分擔額ヲ定ムヘシ
- 本令ノ規定ニ依リ存續シタル學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關スル收入ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
- 第五條 本令ノ規定ハ市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲町村組合、町村學校組合ノ解散スル場

合ニ於テ消滅スヘキ學校、幼稚園及兒童教育事務ノ委託ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

- 第六條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第七條 本令ハ市制町村制ヲ施行シタル地ニ之ヲ施行ス

○在外指定學校規程

明治三十八年十一月八日  
文部省令第二十一號

在外指定學校ニ關スル規程左ノ通相定ム

在外指定學校ニ關スル規程

- 第一條 在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第一條ニ關シ指定ヲ受ケントストキハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ外務文部兩大臣ニ申請スヘシ
- 一學校ノ名稱 二學校ノ沿革 三學則 四職員ノ氏名及其ノ履歷書 五現在生徒學年別及學級別人員 六校地校舍及附屬舎等ノ平面圖 七學校經費ニ關スル收入支出豫算
- 前項第一號第三號ノ變更ハ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 學則ニ規定スヘキ事項概テ左ノ如シ
- 一修業年限、學年、學期休日ニ關スル事項 二學科課程教授時數ニ關スル事項 三生徒ノ入學退學、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項 四授業料入學料等ヲ徵收スルトキハ之ニ關スル事項 五寄宿舎ヲ設クルトキハ之ニ關スル事項

- 第三條 第一條ノ申請ニ基キ外務文部兩大臣ニ於テ指定ヲ爲スヘキ學校ハ其ノ管理及維持ノ方法確實ニシテ所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ相當ノ教員及設備ヲ具フルモノニ限ル
- 第四條 第一條ニ依リ指定セラレタル學校ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由竝ニ生徒ノ處分方法ヲ具シ外務文部兩大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 小學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ訓導ニハ小學校ノ正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ准訓導ニハ小學校ノ准教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ
- 第六條 中學校、高等女學校ノ教科ヲ授クル在外指定學校ノ教諭、助教諭ニハ小學校ノ教員免許狀又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ヲ採用スヘシ但シ高等女學校ノ教科ヲ授クル學校ニ於テハ第二學年以下ノ教授ヲ擔任セシムル爲小學校本科正教員タルヲ得ヘキ免許狀ヲ有スル者ヲ採用スルコトヲ得
- 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ何等ノ名稱ヲ以テスルモ在外指定學校ノ職員ニ採用スルコトヲ得ス
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス
  - 二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ
  - 三 懲戒ニ依リ免官若ハ免職ニ處セラレタル後二箇年ヲ經過セサル者
  - 四 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ二箇年ヲ經過セサル者
  - 五 明治二十九年法律第八十號ニ依リ在留禁止ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ解禁後二箇年ヲ經過セサル者

セサル者

- 六 性行不良ト認ムヘキ者
- 第八條 在外指定學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ解カレタルモノトス
  - 一 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
  - 三 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
  - 四 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 第九條 居留民團ノ設立ニ係ルモノヲ除ク外在外指定學校ノ職員ノ採用、解職、増俸、減俸、其ノ他ノ進退ヲ爲スニハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ於テ所管領事官ノ認可ヲ受クヘシ但シ第十九條ノ命令ニ基キ解職スル場合ハ此ノ限ニアラス
- 第十條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭訓導舎監及書記ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所管領事官ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ就キテハ外務文部兩大臣ノ指揮ヲ受クヘシ
  - 一 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其人ヲ要セサルトキ
  - 二 傷痍若ハ疾病ニ罹リ職務ヲ行フニ妨アルトキ
  - 三 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ
- 第十一條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長教諭、助教諭、訓導、舎監及書記ニシテ

- 戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス
- 第十二條 休職ノ期間ハ第十條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ第十一條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後向三箇月トス、休職ノ期間滿チタルトキハ當然退職者トス
- 第十三條 休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサルノ外總テ本職者ト異ルコトナシ
- 第十四條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ職員ニシテ服務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ所管領事官ハ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ懲戒ハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第十五條 懲戒ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス
- 第十六條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校職員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ
- 第十七條 減俸ハ一箇月以上一箇年以下俸給月額三分ノ一以下ヲ減ス
- 第十八條 第十四條乃至第十七條ノ規定ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校ノ職員ニハ之ヲ適用セス
- 第十九條 第十四條規定以外ノ在外指定學校ノ職員ニシテ同條ニ該當セル所爲アリト認メタルト

- キハ所管領事官ハ學校ノ設立者又ハ其ノ代表者ニ對シ其ノ解職ヲ命スルコトヲ得
- 第二十條 領事官ハ第十四條又ハ前條ニ依リ免職又ハ解職セラレタル者アルトキハ其ノ氏名、職名及事由ヲ具シ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ但シ免職又ハ解職セラレタル者ニシテ教員免許狀ヲ有スルモノナルトキハ其ノ免許狀ノ寫ヲ添付スヘシ
- 第二十一條 在外指定學校職員ノ職務並ニ服務及俸給ニ關スル規程ハ所管領事官之ヲ定メ外務文部兩大臣ニ報告スヘシ
- 第二十二條 在外指定學校職員ノ旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者之ヲ定メ所管領事官ニ報告スヘシ
- 第二十三條 在外指定學校ハ居留民團法ニ依ル監督ノ外所管領事官及外務文部兩大臣ノ監督ヲ受ケヘキモノトス
- 第二十四條 在外指定學校ニシテ第三條ノ要件ヲ失ヒ又ハ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ニ於テ外務文部兩大臣又ハ所管領事官ノ爲メ命令ニ違背スルトキハ其ノ指定ヲ取消スコトアルヘシ
- 第二十五條 本令ニ依リ學校ノ設立者若ハ其ノ代表者ヨリ外務文部兩大臣ニ提出スヘキ書類ハ總テ所管領事官ヲ經由スヘシ
- 附 則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○關東州小學校官制

明治四十年三月十九日 勅令第四十九號

第一條 關東州小學校ハ日本人ノ兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス  
第二條 關東州小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

訓導

准訓導

第三條 學校長ハ民政署長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 訓導ハ判任トス生徒ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條 准訓導ハ判任官ノ待遇トス訓導ノ職務ヲ助ク

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州小學校兒童及卒業者他ノ學校へ入學轉學ニ付取扱方

明治四十年五月十四日 文部省令第十五號

關東州小學校兒童及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百四十四號  
小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ兒童及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

○私立學校心得

明治二十三年一月三十一日 愛媛縣令第十二號

明治十五年(三月)甲第六十八號達私立學校心得左ノ通改正ス

私立學校心得

第一條 私立學校ハ縣官郡市町村吏員ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス

第二條 私立學校ニシテ其設置ノ趣旨教則若クハ校則ニ違犯シタルトキハ直ニ改正セシメ又ハ其  
學校ヲ廢止セシムルコトアルヘシ

第三條 私立學校ハ不都合ノ行爲アリテ官公私立學校ニ入學スルコトヲ禁止セラレタル者ノ入學ヲ  
許スヘカラサルハ勿論小學校ハ均シキ普通教育ヲ施サ、ル學校ニ於テハ學齡兒童ヲ入學セシム  
ルヲ得ス

但シ學齡兒童ト雖モ小學科業ノ餘暇又ハ事故理由等アリテ市町村長ニ於テ支障ナキ旨ヲ証明  
シタル者ハ此限ニ非ス

第四條 私立學校生徒ノ學年末若クハ學期末試験ヘ其施行期日前豫メ郡役所又ハ市役所へ届出ツ  
ヘシ

但シ私立小學校ハ本文届出ト全時ニ郡市吏員ノ臨監ヲ請フヘシ

第五條 私立小學校ノ教員及助手ハ其郡又ハ市ニ於テ施行スル學事會(教務研究會等)ニ參列スヘシ

第六條 私立學校ノ建築副築又ハ改修ハ豫メ郡役所又ハ市役所ノ調査ヲ受クヘシ

第七條 私立學校ノ建築副築又ハ改修ハ豫メ郡役所又ハ市役所ノ調査ヲ受クヘシ

二十五年八月  
月令第四  
十二號參看

全令ニ依リ  
第五條消滅

第八條 私立學校ハ所定ノ學事表ヲ調製シ期限アルモノハ其都度郡役所又ハ市役所へ差出スヘシ

○小學校ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ニ關スル規程

明治三十三年十二月十三日  
愛媛縣令第九十九號

小學校令施行規則第二十五條乃至第二十七條ニ依リ小學校ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ニ關スル規程左ノ通り之ヲ定ム

小學校ノ學期、教授終始ノ時刻及休業日ニ關スル規程

第一條 學期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ (明治三十五年縣令第七號ヲ以テ改正)

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ (同上)

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテ (同上)

第二條 毎日ノ教授終始ノ時刻ヲ定ムルコト左ノ如シ

四月一日ヨリ六月十五日マテ午前八時始業午後二時終業

六月十六日ヨリ九月十五日マテ午前七時始業正午十二時終業

九月十六日ヨリ十月三十一日マテ午前八時始業午後二時終業

十一月一日ヨリ三月三十一日マテ午前九時始業午後三時終業

但一日ノ教授時數五時間以下ノ場合ニ於テハ之ニ應ジテ終業時ヲ短縮スヘシ

平日學校其他土地ノ情況ニ依リ前項ノ時間ニ依リ難キ場合ニ於テハ適宜之ヲ定メ學校長管理者連署ノ上監督官廳ノ許

可ヲ受クヘシ

第三條 祝日、大祭日、日曜日ノ外休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

夏季休業日 八月一日ヨリ八月三十一日マテ

冬季休業日 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

學年末休業日 一週間

學校所在地鎮守祭日

入學式運動會其他特別ノ必要アリテ臨時休業若ハ定例休業繰換ヲ要スルトキハ學校長及管理者

又ハ設立者連署ノ上豫メ監督官廳へ開申スヘシ其二日以上ニ涉ルトキハ監督官廳七日以上ニ涉

ルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ (明治三十六年愛媛縣令第十八號ヲ以テ改正)

第四條 小學校令第二十七條第三項ニ依リ閉鎖シタル學校アルトキハ郡長ハ遲滞ナク其事由ヲ具

シテ知事ニ報告スヘシ

○小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校

及諸學校設置廢止等ニ關スル規程 明治三十七年六月七日  
愛媛縣令第四十號

明治三十四年(二月)愛媛縣令第十三號小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及諸學校設置廢止等ニ關スル規程左ノ通改正ス

小學校幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及諸學校設置廢止等ニ關スル規程



第一條 町村立尋常小學校ノ校數並ニ位置ヲ指定セントスルトキハ郡長ニ於テ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ其之ヲ變更指定セントスルトキモ亦同シ

一 町村又ハ町村學校組合ノ地圖

但山嶺、田野、國縣、郡里道、鐵道、河海、池沼人家町村役場、小學校ノ位置大字通學區域等ヲ記入スヘシ

二 校地實測圖 但小學校設備規程ニ依ル

三 通學區域内ノ戶數 學齡兒童數(男女別)

四 町村又ハ町村學校 組合意見ノ要領

町村小學校(高等小學校ヲ除ク)分教場ノ位置ヲ指定若クハ變更セントスルトキハ郡長ニ於テ前項ニ準シ申請スヘシ

第二條 町村立尋常小學校ノ校數並ニ位置確定シタルトキハ町村又ハ町村學校組合ハ設備ニ關スル申請ヲナシ同時ニ左ノ事項ヲ開申スヘシ

一 學校ノ名稱

二 學年別兒童數

三 學級數

四 開校ノ豫定期日

町村立小學校(高等小學校ヲ除ク)分教場位置ノ確定シタルトキハ町村又ハ町村學校組合ハ前項ニ準シ申請及開申スヘシ

第三條 郡長ハ町村學校組合設置若クハ小學校令第十一條第二項ニ依リ使用スヘキ小學校ヲ指定セントスルニ當リ知事ノ認可若クハ指揮ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

但指揮ヲ受ケントスル場合ニ限リ第一號ヲ缺クコトヲ得

一 關係町村區ノ地圖、各町村區別ノ最近戶數人口、反別、地租、縣稅、負擔額、町村區費豫算及過去三ケ年間各町村區費并ニ教育費支出額

二 各町村學齡兒童數(男女別)

三 關係町村及區意見ノ要領

四 學校組合規約

郡長ハ町村學校組合解除若クハ前項ニ依リ指定シタル小學校ヲ止メトスルニ當リ知事ノ認可若クハ指揮ヲ受ケントスルトキハ其事由及關係町村及區意見ノ要領ヲ具スヘシ

第四條 郡長ハ小學校令第十二條ニ該當スヘキモノアリト認ムルトキハ其事由ヲ詳具スヘシ

第五條 市町村立高等小學校ヲ設置セントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

但小學校設備規程ニ依リ校舍ノ建築ヲ伺出ツルモノハ第一號ヲ缺クコトヲ得

一 校地實測圖校舍平面圖及ヒ校舍設計ノ要領

但小學校設備規程ニ依ル

二 學校ノ名稱

三 學年別兒童數(男女別)

四 學級數

五 修業年限

六 開校ノ豫定期日

七 經常費見込額

八 通學區域戶數學齡兒童數(男女別)

前學年尋常小學校卒業者數(男女別)

市町村立高等小學校分教場ヲ設置セントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ前項ニ準シ申請スヘシ

第六條 市町村立尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置セントスルトキハ市町村又ハ町村學校組合ハ前項ニ準シ申請スヘシ

第七條 市町村立高等小學校ヲ廢止シ若クハ市町村立尋常高等小學校ニ於ケル高等小學校ノ教科ヲ廢止セントスルトキハ其事由及期日ヲ具シ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ申請スヘシ

第八條 私立小學校ヲ設置シ若クハ私立尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置セントスルトキハ設立者ハ第五條ニ準シ申請シ且左ノ事項ヲモ併セ具スヘシ

一 學校維持ノ方法

二 設立者ノ履歷書

第九條 私立小學校ヲ廢止シ若シクハ私立尋常高等小學校ニ於ケル高等小學校ノ教科ヲ廢止セントスルトキハ設立者ハ其事由及期日ヲ具シ開申スヘシ

第十條 補習科ヲ設置セントスルトキハ市町村立小學校ニ係ルモノハ市町村又ハ町村學校組合ニ於テ左ノ一號乃至三號私立小學校ニ係ルモノハ設立者ニ於テ左ノ各號ヲ具シ申請スヘシ

一 教場ノ圖面

二 修業年限

三 兒童數(男女別)

四 教科目

五 教授日每週教授時數毎日ノ教授終始ノ時刻前項ノ場合ニ於テ市町村立小學校管理者ハ全時ニ前項第四號及第五號ニツキ申請スヘシ

第十一條 學校設置ノ認可ヲ受ケ開校シタルトキハ管理者ハ其年月日ヲ知事ニ開申スヘシ

第十二條 幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及諸學校ノ設置廢止ニ關シテハ特ニ規程アルモノ、外尙本規程ニ準用ス

◎ 教 則 附生徒訓練

○ 小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル注意方

明治廿七年八月廿九日  
文部省訓令第六號  
北海道廳 府縣

小學校ハ小學校令第一條ノ示ス所ニ依リ兒童ノ體育ニ留意シ教育ノ完成ヲ期セサルヘカラス我國

舊來弓馬劍鎗ノ武藝盛ニ行ハレ體育ノ道ニ於テ缺クル所ナカリシモ維新後兵制變革ノ爲或種ノ武藝ハ其ノ必要ヲ失ヒタルト同時ニ體育ノ衰頹ヲ致セル事又教員及生徒カ學問知識ノ進歩ニ急ニシテ動モスレハ智育ノ一方ニ偏嚮セル事及社會一般ノ衛生ノ必要ヲ感スルコト未タ深切ナラサル事是等數多ノ原因ハ爲ニ各般ノ學校ニ於ケル體育及衛生ノ方法ハ仍不完全ナルヲ免レス殊ニ小學教育ノ時ハ方ニ身體發育ノ期ニ當リ一タヒ傷害ヲ受クルトキハ其ノ患ハ終身ニ及ヒ哀ムヘキノ情況ヲ呈ヒントス今小學校ニ於ケル體育衛生ニ關シ訓令スルコト左ノ如シ

- 一 體育ハ及フタケ活潑ナル運動ヲ課スルヲ要スヘク普通體操ニ於テモ亦兵式體操ト同ク手足及全身筋力ノ運動ヲ活潑ニシ氣血ノ代謝ヲ促スト同時ニ生徒自個ニ於テ意氣快活ヲ覺ユルノ效果アラシムルヘシ體操ノ弊ハ或ハ死法ニ流レ態勢ヲ整ヘ並列ヲ正スカ爲ニ許多ノ時間ヲ費シ却テ生徒ヲシテ厭倦ノ氣ヲ生セシムルニ至ル此ノ如キハ却テ體操ノ精神ヲ失フモノナリ
- 二 高等小學校男生徒ニハ兵式體操ヲ課スルノ際軍歌ヲ用キ體操ノ氣勢ヲ壯ニスルコトアルヘシ又隨意科トシテ簡單ナル器械體操ヲ授クヘシ
- 三 小學校生徒ハ活潑ナル運動ニ便スル爲ニ不得已場合ノ外學校内ニ於テハ洋服又ハ和服ヲ問ハズ都テ筒袖ヲ用キシムヘシ
- 四 放課時間ニ於テ佇立閑語シテ經過スルニ終ラシムヘカラス男女トナク成ルヘク活潑ニ大氣中ニ運動スルノ遊戲ヲ誘フヘシ或ハ大聲急走嬉戲ノ態ヲ以テ生徒ノ不良事トナシ沈靜ヲ以テ品行點ニ加フルカ如キハ當ヲ得タルモノニアラス

- 五 生徒ヲシテ筆記及誦誦ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ外之ヲ用キザランコトヲ要ス
- 六 小學校ノ課業ノ中生徒ノ尤困難ヲ感スル者ハ作文トス初級ノ生徒ニハ作文ヲ授クヘカラス若シ簡單ナル作文ヲ授クルモ此ヲ以テ試驗ノ問題トスヘカラス
- 七 小學校ニ於テ施行スル所ノ試驗法ハ或ハ褒貶ノ意味ニ偏シ點數ニ依リテ每期席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺衝スルノ弊アリ此レ獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スル者ナリ自今各學校ハ試驗ニ依レル席順ノ上下ヲ廢スヘシ但各級ニ優等生若干人ヲ撰拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ
- 八 小學校ニ於テ生徒ハ喫烟スルコト及烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ
- 九 華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ都會ノ生徒ノ學校ニ往來スル者或ハ車ニ乘ルカ如キハ學校紀律ノ外ニ係ルト雖校長及教員ハ注意ヲ加ヘテ成ルヘク歩行セシムルコトニ誘導スヘシ

### ○小學校修身科教授上ニ關スル注意方

明治二十六年八月二十三日  
文部省訓令第九號

北海道廳 府縣

第一 修身科ノ教育ニ於ケルハ神經ノ全身ニ貫通シ其ノ作用ヲ靈活ナラシムルニ同シク他ノ科目ト例視スヘキニアラス教員タル者ハ時ヲ以テ諄々訓告シ兒童ノ年齢及男女ノ別ニ從ヒ都鄙ノ風

習各地人文ノ發達及ヒ生活ノ程度ヲ察シ又各人各個ノ性質ニ依リ精密ナル注意ヲ用キ此ノ重要ナル教科ノ目的ヲ達スルコトヲカムヘシ故ニ修身ノ教ハ專ラ師道ニ由テ舉ルコトヲ得ヘク一篇ノ教科書ニ依頼シ數時間ノ誦讀ヲ以テ満足スヘキニアラサルナリ因テハ教科書ハ教員ノ資料ヲ助クル爲ニ必要トスヘシト雖地方ノ情況ニ從ヒ或ハ生徒ノ繁費ヲ省ク爲ニ尋常小學校ニ在リテハ各市町村學務委員ノ意見ニ依リ生徒用教科書ヲ用キスシテ專ラ口授法ヲ用キルコトヲ妨ケサルヘシ

第二 教科書中ニ參照トシテ引舉スル所ノ古今ノ人ノ善行ハ兒童ヲシテ觀感興起セシムルノ益アリト雖或ハ矯激ニ流レ中庸ヲ失ヒ又ハ變ニ處スルノ權道ニシテ歷史上ノ美談ト爲スヘキモ以テ教育上ノ常經ト爲スヘカラサル者アリ各教員ハ教授ノ際普通教育ノ適當ナル範圍ニ注意シ及フタケ偏弊ヲ避グルヲ要ス

### ○學校生徒喫煙禁止方

明治三十三年三月二十六日  
文部省訓令第五號

北海道廳 府縣  
文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年

者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外ト問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

### ○學生生徒身體檢查規程

明治三十三年三月二十六日  
文部省訓令第四號

第一條 學生生徒ノ身體檢查ハ每年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ(明治三十七年文部省令第十八號ヲ以テ改正)  
學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第二條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢查ヲ行ハサルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

- 第四條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ
- 一 身長
  - 二 體重
  - 三 胸圍
  - 四 脊柱
  - 五 體格
  - 六 視力
  - 七 眼疾
  - 八 聽力
  - 九 耳疾
  - 十 齒牙
  - 十一 疾病

(明治三十七年文部省令第十八號ヲ以テ第一項削除)

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ檢查スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認ムル者ハ此限ニ在ラス

第五條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス
- 二 檢查ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルヘシ
- 三 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ鬢アル者ハ小髻ヲ鬢下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 四 体重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ(明治三十七年文部省令第十九號ヲ以テ改正)
- 五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ充盈、空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス
- 六 背柱ハ正、左彎、右彎、後屈及彎屈ノ程度ヲ檢查シ強中弱ノ三種ニ區別スヘシ
- 七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
- 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ檢查スヘシ
- 九 聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ檢查スヘシ
- 十 齒牙ハ齶齒ノ有無ヲ檢查スヘシ
- 十一 疾病ハ腺病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、衄血、神經衰弱其ノ他慢性疾患等

檢查ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スヘシ

前各號ノ外身體檢查上必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フヘシ

第六條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體檢查票ヲ調製スヘシ

身體檢查票 (男)

校名		何科		姓名		出生年月		學年		出生地					
體	脊	胸	體	身	體	視力	右	左	疾	齒	耳	聽	眼	備考	檢查醫姓名印
格	柱	常	重	長	盈	力			病	牙	疾	力	疾		
查	年	月	年	月	差										
年	月	月	月	月	時										
月	月	月	月	月	差										

第七條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限リ文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ  
 地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ年六月限リ文部大臣ニ報告スヘシ  
 (明治三十七年文部省令第十八號ヲ以テ改正)

校名 學生生徒身體檢查統計表 (男)

明治 年 月 検査

年 齡	身體		胸圍		脊	柱	體格	視		力	眼	耳	齒	牙	疾	病	總	備	
	長	重	常	盈				左	右										左
何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均
何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均	何年	總數	最大	最小	平均

一本表ノ年齡ニ於テ何年ト稱スルハ一箇月ヨリ十二箇月ニ至ル迄ヲ云フ例ハ七年前ト稱スルハ六年一箇月以上滿七年迄ヲ指スカ如シ

一本表ノ平均ハ最大最小ノ平均ニアラス總數ノ平均ナリ  
 一本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スヘシ (明治四十年三月十日文部省令第二三號ヲ以テ改正)  
 一 検査スヘキ科目ノ全部ヲ検査セサルモノハ表中之ヲ記入スヘカラス

第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體檢查ニ關スル規定ヲ準用ス  
 附 則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○學校生徒禮式要項

明治二十一年九月二十一日  
 愛媛縣達甲第二十三號

郡 役 所  
 戶 長 役 場  
 公立私立學校

禮節ハ風教ノ興廢ニ關スルモノニシテ教育上殊ニ緊要ノ儀ニ付學校生徒禮式要項自今左ノ通相心得一層行届候様取計フヘシ  
 但兵式上ノ禮式ハ此限ニアラス  
 學校生徒禮式要項  
 一 尊長ニ對スルトキハ直立シテ姿勢ヲ正シク手ヲ前ニ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ以テ體ノ上部

ヲ少シク前ニ傾ク(敬禮スヘキ人ニ後方ノ襟ヲ見セシメサルヲ度トス)ヘシ  
帽ヲ冠スルトキハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見ハサ、ル様ニシテ左手ト共ニ前ニ垂ルヘシ  
其他前ニ同シ

但女子ハ帽ヲ脱スルヲ要セス

行進中ニアリテハ其敬禮スヘキ人トノ距離凡ソ五步前ニ於テ先歩ヲ止メ側ニ避ケ前ノ如ク敬禮  
スヘシ

教室内ニ敬禮スヘキ人ノ入り來ルトキハ教師ノ指揮ニ從ヒ直ニ業ヲ止メ其席ニテ直立シ前ノ如  
ク敬禮スヘシ敬禮了レハ一旦直立ニ復シ後席ニ就クヘシ

一同輩ニ對スルトキハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ帽ヲ冠スルトキハ帽ヲ脱スルニ止ムヘシ

但女子ハ帽ヲ冠シタル儘頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ

行進中ニアリテハ行進シナカラ前ノ如ク敬禮スヘシ

### ○小學校ニ於ケル體育及衛生ニ關スル注意方

明治二十八年二月十七日  
愛媛縣訓令第廿二號

郡市町村

尋常師範學校

小學校

小學校生徒ノ體育ニ就テハ小學校令第一條及明治廿七年文部省訓令第六號ヲ以テ小學校ニ於ケル

體育及衛生ニ關スル訓令ノ旨趣ヲ承ケ今般教則ノ一部ヲ加除シタリ猶其遺漏ヲ補足センカ爲メ訓  
令スルコト左ノ如シ

但シ本訓令第二項ノ旨趣ニ抵觸スル從前ノ指令ハ自今無効トス

一 生徒ヲシテ筆記及誦讀ヲ務メシムルハ過度ニ腦力ヲ勞セシムルモノナレハ特ニ必要ノ場合ノ  
外之ヲ用キサランイテ要ス

二 小學校ニ於テ施行スル試驗ノ目的ハ教則第三章第廿五條ノ旨趣ニ外ナラス之ヲ以テ或ハ褒貶  
ノ具トナシ點數ニ依テ每週席順ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フル等過度ニ生徒ノ神經ヲ刺衝スルハ  
獨リ普通教育ノ主義ヲ誤ルノミナラス亦生徒ノ體育ヲ害スルモノナリ自今試驗ニ依リテ席順  
ヲ上下シ又ハ賞與ヲ予フルコトヲ爲スヘカラス

但シ各級ニ優等生若干人ヲ選拔シ以テ獎勵ヲ示スコトヲ妨ケサルヘシ

三 小學校ニ於テ生徒ハ喫烟スルコト及烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘシ

四 華奢安逸ハ自然ニ軟弱ヲ招クモノナリ小學校ニ於テハ務メテ儉素ヲ守リ勞働ニ堪ユルノ習慣  
ヲ養成センイテ要ス

### ○學校生徒喫烟禁止ニ關シ注意

明治三十三年四月十二日  
愛媛縣訓令第三十一號

郡市町村

學校

學校生徒ノ喫烟ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十八年愛媛縣訓令第二號ヲ以テ生徒ノ喫烟ス

ルコト及烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニアリテモ實際喫烟ヲ禁止セルモノアリシ蓋シ學校生徒ノ喫烟ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫烟禁止法ノ發布アリタルニ就テハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トヲ問ハス喫烟シ及烟草烟器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメンコトヲ期スヘシ

○體操ノ課程準據方

明治三十四年四月十二日  
愛媛縣訓令第十五號

郡 小學校

小學校令施行規則第十條第十七條及第十八條ニ依リ小學校兒童ニ授クヘキ體操ノ課程ハ左表ニ準據スヘシ

科	尋常	每週全回数		遊	戲	普通體操	兵式體操
		回数	時間				
第一學年	四以上	六回	毎回三十分若ハ一時			毎回三十分 復習、啞鈴	毎回三十分 各個教練 復習
第二學年	四以上	六回	毎回三十分若ハ一時			毎回三十分 體操準備	全
第三學年	四以上	六回	毎回三十分若ハ一時			毎回三十分 整容法、呼吸運動、 身體矯正術	全
第四學年	四以上	六回	毎回三十分若ハ一時			徒手體操第一演習(啞鈴初歩)	全

科	尋常	每週全回数		遊	戲	普通體操	兵式體操
		回数	時間				
第一學年	三	三	毎回三十分若ハ一時			毎回三十分 復習、啞鈴	毎回三十分 各個教練 復習
第二學年	三	三	全			全	全
第三學年	三	三	全			復習、球竿初歩	全
第四學年	三	三	全			復習、球竿初歩	全
第一學年	三	三	毎回三十分若ハ一時			復習、啞鈴	全
第二學年	三	三	全			復習	全
第三學年	三	三	全			復習、球竿初歩	全
第四學年	三	三	全			復習、球竿初歩 豆菴體操	全

- 一 兵式體操ニ於テハ兒童ヲシテ銃ヲ執ラシムルヲ要セス
- 一 二學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第二學年マテヲ課シ三學年ノ高等小學校ニ在リテハ本表高等科第三學年マテヲ課スヘシ
- 一 戶外運動又ハ水泳ヲ授クルトキハ本表時間ノ内外ニ於テ之ヲ課スヘシ

○小學校教科目ノ加除授業時數ノ増減半日小學校ノ設置及補習科ノ教授日等認可申請ニ關スル取扱方心得

明治三十四年九月十四日  
愛媛縣訓令第二十九號

郡 市 町 村  
小 學 校



小學校教科目ノ加除授業時數ノ増減半日小學校ノ設置及補習科ノ教授日等認可申請ニ關スル取扱方心得左ノ通之ヲ定ム (明治三十六年愛媛縣訓令第八號ヲ以テ改正)

小學校教科目ノ加除授業時數ノ増減半日小學校ノ設置及補習科ノ教授日等認可申請ニ關スル取扱方心得 (上)

第一條 小學校合施行規則第十九條ニ依リ毎週教授時數ヲ増減セントスルトキハ各學年各教科目ノ毎週教授時間表ヲ添へ申請スヘシ

第二條 半日小學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ各號ヲ具シ申請スヘシ

- 一 設置ヲ要スル理由
- 二 在學兒童數 學年及男女ニヨリ區別スヘシ
- 三 期間
- 四 毎週教授時數 第一號表若クハ第二號表ニ依ルヘシ但之ニ依リ難キトキハ別ニ之ヲ定メ其事由ヲ附記スヘシ

五 校舍平面圖 小學校設備規程第十九條第二號ニ依ルヘシ

第三條 補習科ノ教授日ヲ定ムルニ當リテハ併セテ休業日ヲ定ムルヲ要ス

第四條 補習科ノ兒童ト正教科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制セントスルトキハ學事表乙號第一式ニ依リ全校學級編制表ヲ添へ申請スヘシ

第五條 補習科ノ教科用圖書ヲ定メントスルトキハ三號表ヲ添へ申請スヘシ

第一號表

教科目	第一學年 毎週教授時數	第二學年 毎週教授時數	第三學年 毎週教授時數	第四學年 毎週教授時數
修身	二	二	二	二
國語	八	八	八	八
算術	五	五	五	五
體操	三	三	三	三
計	一八	一八	一八	一八

第二號表

教科目	第一學年 毎週教授時數	第二學年 毎週教授時數	第三學年 毎週教授時數	第四學年 毎週教授時數
修身	一	一	二	二
國語	六	六	八	八
算術	三	三	五	五
體操	二	二	三	三
計	一二	一二	一八	一八

第三號表 教科用圖書表

所別	圖書名	發行年月日	檢定年月日	各卷冊數	著者	發行者
區別	記號			價	筆	

第六條 教科目ヲ加除セントスルトキハ左ノ各號ヲ具シ學校長連署ノ上申請スヘシ (明治三十六年愛媛縣訓令第八號ヲ以テ追加)

- 一、加除スヘキ教科目
- 一、正教科、或ハ隨意科ノ別

- 一、修業年限
- 一、各學年(男女別)各教科目每週教授時數表
- 一、實施期
- 一、擔任教師ノ配當方法

### ◎教科書

#### ○教科用圖書檢定制規則

明治二十年五月七日  
文部省令第一二號

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定制條例ヲ廢シ師範學校小學校及中學校教科用圖書ノ檢定制ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

#### 教科用圖書檢定制規則

- 第一條 教科用圖書ノ檢定ハ師範學校令中學校令高等女學校令及小學校令教則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス(明治二十五年文部省令第三號同三十二年文部省令第二十三號ヲ以テ改正)
- 本規則ニ於テ教科用圖書ト稱スルハ師範學校中學校高等女學校ニ關シテハ生徒用圖書トシ小學校ニ關シテハ教師用圖書及兒童用圖書トス(明治四十年文部省令第三十一號ヲ以テ改正)
- 前項ノ教師用圖書トハ教授スヘキ事項教授上ノ注意及應用ニ關スル事項等ヲ記載シタル圖書又ハ該圖書ニ附屬シテ兒童ニ示スヲ目的トスル掛圖類ヲ云フ(上)
- 第二條 圖書ノ發行者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

外國ニ於テ發行シタル圖書ハ左ノ各號ノ一ニ當ルモノニ限り發行者ニ於テ其圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

- 一 師範學校中學校又ハ高等女學校ニ於ケル英語獨語佛語ノ教科用ヲ目的トスルモノ
- 二 小學校ニ於ケル英語ノ教科用ヲ目的トスルモノ(明治三十二年文部省令第四十號ヲ以テ本條改正)
- 第三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ第一條第二項ノ掛圖類ハ二部ノ定價其他ハ二十部ノ定價ニ等シキ手数料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ文部省ニ納ムヘシ但檢定ヲ得タル後定價ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ(明治三十二年文部省令第四十號同三十九年同第十二號同四十年同第三十一號ヲ以テ改正)
- 第四條 第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑣少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其廉ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ
- 第五條 檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校並學科ノ種類、發行ノ年月日並該圖書記載スル所ノ著譯者及發行者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ(上)
- 第六條 檢定ノ効力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス
- 第七條 第五條ニ依リ廣告シタル定價、發行ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ効力該圖書ニ及ハサルモノトス(上)
- 第八條 檢定出願者ニシテ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ知ラントスルトキハ指令到達ノ日ヨリ六

十日以内ニ願出ツヘシ(同上)

第九條 檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手  
數料ノ半額ヲ納ムヘシ但第四條ノ指示ヲ受ケテ修正ヲ加フル場合ハ此限ニアラス (明治四十年文  
部省令第三十  
一號ヲ以  
テ改正)

第十條 圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣  
告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條 檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手數  
料ハ之ヲ還付セサルモノトス (明治三十五年文部省令  
第五號ヲ以テ改正追加)

第十二條 本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ増減若クハ校訂シ又  
ハ枚數行數字體畫形ヲ變更シ又ハ檢定願書ニ添ヘ差出シタル圖書ニ比シ紙質印刷ヲ粗惡ニシ又  
ハ註解附録序跋ヲ加除若クハ變更スル場合ヲ包含スルモノトス (明治三十年文部省令第十八號同三十  
二年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

第十三條 第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ一箇年間に其廉ヲ修正シテ該  
圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス (明治三十五年文  
部省令第四十號ヲ以テ改正)

第十四條 檢定ヲ得タル圖書ハ每冊見易キ所ニ明治何年何月何日文部省檢定濟何學校何學科用ノ  
文字ヲ記載スヘシ但小學校教科用圖書ニ在リテハ仍兒童用教師用ノ別ヲ附記スヘシ (明治三十五年  
文部省令第五  
號同二十八  
年文部省  
令第三號ヲ  
以テ改正)

第十五條 檢定ヲ得サル圖書若クハ第六條第七條ニ依リ檢定ノ効力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定

濟其他之ニ類スル文字ヲ記載シテ販賣シ又ハ情ヲ知リテ其圖書ヲ受託販賣スルコトヲ得ス (明治  
八年文部省令第三號ヲ以テ追加同三  
十年文部省令第十八號ヲ以テ改正)

第十六條 第十五條ニ違背シタル者ハ二十五圓以内ノ罰金又ハ二十五日以下ノ禁錮ニ處ス(同上)

第十七條 圖書ハ其全部揃ヒタルモノニアラサレハ檢定セス (明治三十九年文部省  
令第五號ヲ以テ追加)

第十八條 第六條第七條ニ依リ檢定ノ効力ノ及ハサル圖書ニ文部省檢定濟其他之ニ類スル文字ヲ  
記載シテ販賣シタルトキハ其檢定ノ効力ヲ取消スコトアルヘシ (明治三十二年文部省令第十八號ヲ以テ追加  
同三十二年文部省令第四十號ヲ以テ改正)

第十九條 第二條第二項ニ依リ檢定ヲ請フ者ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ檢定ニ關スル  
一切ノ事項ヲ代理セシメンカ爲ニ帝國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ (明治三十二年  
文部省令第四  
十號ヲ以テ以  
下四條追加)

第二十條 代理人ヲ置ク場合ニ於テハ檢定出願ノ際委任狀寫ヲ差出スヘシ其外國語ヲ以テ認メタ  
ルモノニハ譯文ヲ添附スヘシ

第二十一條 第三條第一項及第九條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ (明治三十九年文部省令  
第十二號ヲ以テ改正)

第二十二條 檢定ヲ得タル圖書ノ出版ヲ止ムルカ爲ニ需要者ニ對シ次學年ニ供給スル能ハサル事  
情アルトキハ發行並ニ檢定濟年月日ヲ具シ其ノ前年十月末日迄ニ文部省ニ届出ツヘシ  
前項本文ノ届出ナクシテ圖書ノ供給ヲ怠ル者ハ供給スヘキ學年ノ始ヨリ起算シ五箇年間其ノ者  
ノ發行ニ係ル圖書ノ檢定ヲ行ハサルコトアルヘシ (明治四十年文部省令第  
三十一號ヲ以テ改正)

第二十三條 第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ甲號書式ニ依リ第十三條ニ依リ追願スル者ハ乙號書式  
ニ依リ又檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ丙號書式ニ依リ願出ツヘシ

(甲號書式)

檢定願

(印紙貼附ノ場所)

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號 頁數	著譯者ノ族 簿氏名	發行者ノ族 簿氏名	發行ノ 年月日	目的トスル學校 或學科ノ種類
-------	-------------	--------------	--------------	------------	-------------------

右ノ圖書御檢定相成度該圖書……部及手數料金……相添へ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏

名印

(乙號書式)

檢定追願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號 頁數	著譯者ノ族 簿氏名	發行者ノ族 簿氏名	修正發行ノ 年月日	目的トスル學校 或學科ノ種類
-------	-------------	--------------	--------------	--------------	-------------------

右ハ年月日附檢定願出候處年月日ノ御指示ニ基キ今般修正發行致候間尙御檢定相成度該圖書……部相添へ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏

名印

(丙號書式)

修正檢定願

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號 頁數	著譯者及發行 者ノ族籍氏名	修正發行ノ 年月日	目的トスル學校 或學科ノ種類	修正事項 ノ要領
-------	-------------	------------------	--------------	-------------------	-------------

右ハ年月日檢定済ノ處修正發行致候間御檢定相成度該圖書……部相添へ此段相願候也

年月日

文部大臣宛

住所

氏

名印

附則

第二十二條ハ明治三十三年三月末日前ニ檢定ヲ受ケタル圖書ニハ之ヲ適用セス

(明治四十年文部  
省令第三十一號  
ヲ以テ追加)

○明治三十年文部省令第十八號教科用圖書檢定規則中改正追加ハ同令施行前發行ノ教科用圖書ニ適用方

明治三十二年四月五日 文部省令第二十六號

明治三十年文部省令第十八號ハ同令施行前ニ發行シタル教科用圖書ニ關シテモ之ヲ適用ス但此省令ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス

說明

教科用圖書ノ紙質印刷ハ檢定出願ノモノヲ以テ標準トスヘキハ當然ノ事項ナレニ拘ハラズ之ヲ供給販賣スルニ當リ紙質印刷ナ粗惡ナラシムルコト益々甚シキヲ加フルカ故ニ明治三十年文部省令第十八號ヲ以テ是等弊害ノ重疊ニ關シ嚴重ナル制裁法(罰金禁錮等)ヲ設ケタリ然レニ尙同令施行前ノ檢定ニ係ル教科用圖書ノ紙質印刷ヲ粗惡ニシ檢定出願ノ圖書ニ比シテ別本ノ製アルモノヲ供給販賣セルモノ少カラス是レ蓋シ同令既往ニ週リテ効力ヲ有セサルカ爲ナラン而シテ今日府縣ニ於テ採用セル小學校教科用圖書ハ第十八號施行前ニ檢定ヲ得タルモ其ノ大半ヲ占メ紙質印刷等ニ對スル苦情益々甚キニ際シ斯レ不正ノ所業ヲ防遏シ依テ教科用圖書ノ改良ヲ圖ルコトヲ得サルハ法令ノ效用ヲ完カラシムル所以ニアラス是レ此省令ヲ發布スルノ已ムコトヲ得サル所以ナリ然レトモ一朝俄ニ此弊害ヲ除カントモ爲ニ供給ノ不足ヲ來シ却テ弊害ヲ著大ナラシムルノ憂ナシトセス即チ適當ノ猶豫ヲ與ヘテ此省令ヲ施行スル所以ナリ

(參照)

明治三十年文部省令第十八號ハ教科用圖書檢定規則中第十二條第十五條改正第十八條追加ナリ

○小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關スル制限

明治二十七年十二月二十八日 文部省訓令第七八號

北海道廳 府縣

小學校ニ於テ唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ本大臣ノ檢定ヲ經タル小學校教科用圖書中ニ在ルモノ又ハ文部省ノ撰定ニ係ルモノ及地方長官ニ於テ本大臣ノ認可ヲ受ケタルモノ、外ハ採用モシムヘカラス但他ノ地方長官ニ於テ一旦本大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

○小學校教科用圖書發行者圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ拒否シタルトキ處置方

明治三十五年二月十四日 文部省令第四號

小學校教科用圖書ノ發行者ニ於テ探定セラレタル圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ之ヲ拒否シタル事實アルトキハ其ノ情狀ニ依リ文部大臣ハ發行者ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ノ全部ノ檢定ヲ無効トシ又其ノ發行ニ係ル小學校教科用圖書ヲ檢定セザルコトアルヘシ

○教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項

明治三十八年十二月二日 文部省告示第五百五十八號

教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項ヲ定ムルコト左ノ如シ  
文法上許容スヘキ事項

第一編 教科書

(小學校唱歌用歌詞及樂譜ノ採用ニ關ルニ制限) (小學校教科用圖書發行者圖書ノ供給ヲ怠リ又ハ拒否) (教科書ノ檢定又ハ編纂ニ關シ文法上許容スヘキ事項)

- 一 「居リ」「恨ム」「死ヌ」ヲ四段活用ノ動詞トシテ用キルモ妨ナシ
- 二 「シク、シ、シキ、」活用ノ終止言ヲ「アシシ」「イサマシシ」ナト用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ
- 三 過去ノ助動詞ノ「キ」ノ連體言ノ「シ」ヲ終止言ニ用キルモ妨ナシ  
例 火災ハ二時間ノ長キニ亘リテ鎮火セサリシ、金融ノ靜謐ナリシ割合ニハ金利ノ引弛ヲ見サリシ
- 四 「コトナリ」(異)ヲ「コトナレリ」「コトナリテ」「コトナリタリ」ト用キルモ妨ナシ
- 五 「、セサス」トイフヘキ場合ニ「セ」ヲ略スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ  
例 手習サス、周旋サス、賣買サス
- 六 「、セラル」トイフヘキ場合ニ「、サル」ト用キル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ  
例 罪サル、評サル、解釋サル
- 七 「得シム」トイフヘキ場合ニ「得セシム」ト用キルモ妨ナシ  
例 最優等者ニノミ褒賞ヲ得セシム、上下貴賤ノ別ナク各其地位ニ安ニスルコトヲ得セシムヘシ
- 八 左行四段活用ノ動詞ヲ助動詞ノ「シ、シカ」ニ連テテ  
「暮シシ時」過シシカバ「ナトイフヘキ場合ヲ「暮セシ時」「過セシカバ」ナトトスルモ妨ナシ  
例 唯一遍ノ通告ヲ爲セシニ止マレリ、攻撃開始ヨリ陥落マテ僅ニ五箇月ヲ費セシノミ
- 九 テニヲハノ「ハ」動詞、助動詞ノ連體言ヲ受ケテ名詞ニ連續スルモ妨ナシ

- 例 花ヲ見ルノ記、學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ、市町村會ノ議決ニ依ルノ限リニアラス
- 十 疑ノテニヲハノ「ヤ」ハ動詞、形容詞、助動詞ノ連體言ニ連續スルモ妨ナシ  
例 有ルヤ、面白キヤ、父ニ似タルヤ母ニ似タルヤ
- 十一 テニヲハノ「トモ」ノ動詞、使役ノ助動詞、及、受身ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ  
例 數百年ヲ經ルトモ、如何ニ批評セラルルトモ、強ヒテ之ヲ遵奉セシムルトモ
- 十二 テニヲハノ「ト」ノ動詞、使役ノ助動詞、受身ノ助動詞、及、時ノ助動詞ノ連體言ニ連續スル習慣アルモノハ之ニ從フモ妨ナシ  
例 月出ツルト見エテ、嘲弄セラルル思ヒテ、終日業務ヲ取扱ハシムルトイフ、萬人皆其德ヲ稱ヘケルトソ
- 十三 語句ヲ列舉スル場合ニ用キルテニヲハノ「ト」ハ誤解ヲ生セサルトキニ限り最終ノ語句ノ下ニ之ヲ省クモ妨ナシ  
例 月ト花、宗教ト道德ノ關係、京都ト神戸ト長崎ヘ行ク  
最終ノ「ト」ヲ省クトキハ誤解ヲ生スヘキ
- 例 史記ト漢書(ト)ノ列傳ヲ讀ムヘシ、史記ト漢書ノ列傳(ト)ヲ讀ムヘシ
- 十四 上ニ疑ノ語アルトキニ下ニ疑ノテニヲハノ「ヤ」ヲ置クモ妨ナシ  
例 誰ニヤ問ハン、幾何ナルヤ、如何ナル故ニヤ、如何ニスヘキヤ

十五 テニヲハノ「モ」ハ誤解ヲ生セサル限リニ於テ「トモ」或ハ「ドモ」ノ如ク用キルモ妨ナシ  
 例 何等ノ事由アルモ(アリトモ)議場ニ入ルコトヲ許サス、期限ハ今日ニ迫リタルモ(タレドモ)準備ハ未タ成ラズ、經過ハ頗ル良好ナリシモ(シカドモ)昨ヨリ聊カ疲勞ノ狀アリ  
 誤解ヲ生スヘキ例 請願書ハ會議ニ付スルモ(ストモ、スレドモ)之ヲ朗讀セス給金ハ低キモ(クトモ、ケレドモ)應募者ハ多カルヘシ  
 十六 「トイフ」トイフ語ノ代リニ「ナル」ヲ用キル習慣アル場合ハ之ニ從フモ妨ナシ  
 例 イハユル哺乳獸ナルモノ、顔回ナルモノアリ

理由書

國語文法トシテ今日ノ教育社會ニ承認セラルルモノハ徳川時代國學者ノ研究ニ基キ專ラ中古語ノ法則ニ準據シタルモノナリ然レトモ之ニノミ依リテ今日ノ普通文ヲ律センハ言語變遷ノ理法ヲ輕視スルノ嫌アルノミナラスコレマテ破格又ハ誤謬トシテ斥ケラレタルモノト雖モ中古語中ニ其用例ヲ認め得ヘキモノ尠シトセス故ニ文部省ニ於テハ從來破格又ハ誤謬ト稱セラレタルモノ、中慣用最弘キモノ數件ヲ擧ケ之ヲ許容シテ在來ノ文法ト並行セシメンコトヲ期シ其許容如何ヲ國語調査委員會及高等教育會議ニ諮問セシニ何レモ審議ノ末許容ヲ可トスルニ決セリ依テ自今文部省ニ於テハ教科書檢定又ハ編纂ノ場合ニモ之ヲ應用セントス

○小學校教科用圖書及其配當表ノ一部新定又ハ更定

明治二十九年三月六日 受據縣令第三十號

小學校教科用圖書及其配當表ノ一部ヲ左ノ通新定又ハ更定ス

但本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

小學校教科用圖書表

尋常科

唱歌

圖書名	區所別	冊數	發行年月日	定價	著者	發行者
小學唱歌集	本科 教師用	初稿 二篇 三篇 三冊	明治十八年五月 三版	貳拾九錢五厘	文部省	文部省藏版

裁縫

小學裁縫教授書	全	上卷一冊	明治廿八年三月 廿一日訂正再版 發行	拾錢	波佐谷美智 松島華子	東京府東京市日本橋區 通油町十八番地 三徳建
---------	---	------	--------------------------	----	---------------	------------------------------

手工

手工篇	全	全一冊	明治廿五年六月 八日出版	四拾錢	永江正直	東京府東京市日本橋區 本町四丁目十六番地 小林正則
-----	---	-----	-----------------	-----	------	---------------------------------

高等科

算術

圖書名	所別	冊數	發行年月日	定價	著者	發行者
小學簿記學	本科 生徒用	全一冊	明治廿五年五月 三十一日再版	拾八錢	森島修太郎	東京府東京市日本橋區 本町三丁目十七番地 金港堂發行會社
實地家計簿記法	本科(女) 全	全一冊	明治廿年十二月 二十七日訂正	四拾錢	藤尾錄郎	東京府下本郷區湯島天 神町三丁目一番地 藤尾錄郎
實地家計簿記法例題	本科(女) 全	全一冊	明治廿年八月出 版	拾錢	藤尾錄郎	東京府下本郷區湯島天 神町三丁目一番地 藤尾錄郎
小學唱歌集	本科 教師用	初稿 三篇三冊	明治十八年五月 三日三版	貳拾九錢五厘	文部省編纂	文部省
裁縫	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫	裁縫
小裁縫教授書	本科 教師用	下卷一冊	明治廿八年三月 廿一日訂正出版 發行	拾五錢	波佐谷美智 松島華子	東京府東京市日本橋區 通油町十八番地 三樓健進
手工	手工	手工	手工	手工	手工	手工
手工篇	本科 教師用	全一冊	明治廿五年六月 八日出版	四拾錢	永江正直	東京府東京市日本橋區 本町四丁目十六番地 小林義則
農業	農業	農業	農業	農業	農業	農業
小農業道まゐるべ	本科 教師用	上中三冊	明治廿年七月出 版	四拾四錢	小花春吉	東京府下日本橋區本町 三丁目十七番地 原亮三郎
商業新書	本科 教師用	全二冊	明治廿七年十二 月十五日訂正再 版發行	參拾九錢	山本邦之助	東京府東京市日本橋區 旅籠町十一番地 小林八郎

尋常小學校教科用圖書配當表

科目	年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
唱歌	小學唱歌集	全上	全上	全上	全上
手工	手工篇 第一章	全上	第二章	全上	第三章
裁縫	裁縫	全上	第二章	全上	第三章
備考	備考	備考	備考	備考	備考

一本配當ハ四年程ノ小學校ニ就キ之ヲ定ム故ニ三年程ノ小學校ニ於テハ裁縫ヲ除クノ外本表第三學年迄ノ配當ヲ適用スルモノトス

一裁縫ヲ第一學年又ハ第二學年ヨリ課スル場合若ハ唱歌手工ノ諸科ヲ第二學年又ハ第三學年ヨリ



課スル場合又單ニ四學年ノミニ課スル場合ニハ其小學校ニ於テ本配當ニ準シ適宜之ヲ配當スルモノトス

但修業年限ノ長短ニ應シ教授上自ラ精粗ノ別アリト雖モ各圖書ノ全部ヲ修了セシムヘキモノトス

一三年程ノ小學校ニ於テ第一學年若ハ第二學年ヨリ裁縫ヲ課スル場合ニハ小學校裁縫教授書上卷全部ヲ適宜配當シテ之ヲ課シ四學年程ノ小學校ニ於テ單ニ第四學年ノミニ課スル場合ニハ其全部ヲ配當スルモノトス

高等小學校教科用圖書配當表

科	日	年			
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
算術					實地應用家計簿記法 小學校簿記學上卷
唱歌	小學唱歌集 <small>初稿 二稿 三稿</small>	全上	全上	全上	全上
裁縫	小學裁縫教授書 <small>第一卷 第二卷 第三卷</small>	全上	全上	全上	全上
農業	小學農業道之るべ上卷	全上	中卷	全上	全上
商業	商業新書 <small>卷ノ一第一 第二 第三 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十 第十一 第十二 第十三 第十四 第十五 第十六 第十七 第十八 第十九 第二十 第二十一 第二十二 第二十三 第二十四 第二十五 第二十六 第二十七 第二十八 第二十九 第三十 第三十一 第三十二 第三十三 第三十四 第三十五 第三十六 第三十七 第三十八 第三十九 第四十 第四十一 第四十二 第四十三 第四十四 第四十五 第四十六 第四十七 第四十八 第四十九 第五十 第五十一 第五十二 第五十三 第五十四 第五十五 第五十六 第五十七 第五十八 第五十九 第六十 第六十一 第六十二 第六十三 第六十四 第六十五 第六十六 第六十七 第六十八 第六十九 第七十 第七十一 第七十二 第七十三 第七十四 第七十五 第七十六 第七十七 第七十八 第七十九 第八十 第八十一 第八十二 第八十三 第八十四 第八十五 第八十六 第八十七 第八十八 第八十九 第九十 第九十一 第九十二 第九十三 第九十四 第九十五 第九十六 第九十七 第九十八 第九十九 第一百</small>	全上	全上	全上	全上

第三十縣令  
第二十九號  
追加アリ

手 工 手工篇 第五章 全上 第六章 全上 第七章 全上 第八章 全上 第九章 全上

備考  
一本配當ハ四年程ノ小學校ニ就キ之ヲ定ム  
一二年程又ハ三年程ノ小學校ニ於ケル唱歌裁縫諸科ノ配當及土地ノ情況ニ依リ加フル諸科ヲ某學年ヨリ課スルトキハ其小學校ニ於テ本配當ニ準シ適宜之ヲ配當スルモノトス  
但修業年限ノ長短ニ應シ教授上自ラ精粗ノ別アリト雖モ各圖書ノ(外國語ヲ除ク)全部ヲ修了セシムヘキモノトス

○小學校教科用圖書及其配當表ノ一部新定又ハ更定

明治三十三年三月二日  
愛媛縣令第二十九號

小學校教科用圖書及其配當表ノ一部ヲ左ノ通新定更定又ハ訂正ス  
但本令ハ明治三十年四月一日施行ス

小學校教科用圖書表

高等科

外國語

英文讀本	本科	全三冊	第一、明治廿三年十月三十日出版	一圓二十錢	井上十吉	東京府東京市日本橋區本町三丁目十七番地原 堯三郎發行
			第二、明治廿四年三月三日訂正再版			

高等小學校教科用圖書配當表

科 目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
	英文讀本 第一部	全上 第二部	全上 第二十六頁迄	全上 第二六十一頁ヨリ終迄
外國語				

第三、明治廿四年四月二十六日訂正再版

○小學校教科用圖書ノ一部更定

明治三十六年十二月二十二日 愛媛縣令第四十三號

小學校教科用圖書中修身、國語、日本歴史、地理ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ文部省ニ於テ著作權ヲ存スル左記ノモノニ更定ス但明治三十七年四月一日ヨリ各學年ヲ通シテ使用スヘシ

記

- 一尋常小學修身書 教師用
- 一高等小學修身書 教師用
- 一尋常小學修身掛圖 兒童用
- 一高等小學修身書 兒童用

三十四年縣令第三十四號ニテ第一條中追加アリ

- 一尋常小學讀本
- 一高等小學讀本
- 一尋常小學書キ方手本
- 一高等小學書キ方手本
- 一小學日本歴史
- 一小學地理

○小學校兒童用農業教科書採定

明治四十一年一月十七日 愛媛縣令第五號

農業科

圖書名 農業教科書  
 所用區別 本科兒童用  
 冊數 上、下全二冊  
 發行年月日 明治四十年二月二十八日訂正再版  
 定價 上卷 貳拾錢 下卷 貳拾錢  
 著者 愛媛同窓會  
 發行者 大坂市南區盛町三丁目六十番屋敷中村由松  
 配當表

科目、學年	第一學年	第二學年
農業教科書	上卷	下卷

三年程高等小學校ニ於テハ土地ノ狀況ニ應シ適宜各學年ニ配當シテ授クヘシ

○高等小學校第三學年國語科中書キ方教科書採定

明治四十一年四月十五日  
愛媛縣令第三十六號

圖書名 高等小學校書キ方手本 新制第三學年用甲種

發行年月日 明治四十一年三月三日

冊數 上壹冊

著者 日高秩父

著作兼發行者 文部省

○設備及編制

○小學及師範教育等ニ關シ男女區別教育方

明治三十年十二月十七日  
文部省訓令第十二號

北海道廳 府縣

方今小學教育ノ普及ト師範教育ノ擴張トヲ計圖スルノ際小學校ニ於テ男兒ト女兒トハ務メテ學級

ヲ別テ教室ヲ異ニシ尙便宜學校ヲ別ニシ各其性質慣習ト生活ノ必要トニ應シ最モ適切ナル方法ヲ以テ之ヲ教育センコトヲ要ス此ノ如キハ畜ニ男兒教育ノ實相ヲ益發揮スルニ必要ナルノミナラス又女兒教育ヲ益女兒ニ適切ナラシムルニ依リ自ラ女兒就學ノ數ヲ増スコトヲ得ン師範教育ニ在リテモ亦管理訓育ノ方法等益女子ニ適切ナラシムルヲ要ス故ニ公立小學校及師範學校ノ施設ニ關シテ左ノ要項ニ依リ計畫スル所アルヘシ

一市町村村學校組合又ハ其區ニ於テ二箇以上ノ尋常小學校若クハ高等小學校又ハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ヲ設置スル場合ニ於テ通學ニ妨ケナク且女兒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ女兒ノ爲ニ學校ヲ別ニスル事  
一二箇以上ノ師範學校ヲ設置スル場合ニ於テ女生徒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ男女ニ依リテ學校ヲ別ニスル事  
女兒ニ須要ナル高等普通教育ヲ施ス爲ニ高等女學校設置ノ計畫ヲ怠ラサルヘキハ是亦緊要トスル所ナリ而シテ女子師範學校ヲ設置スル場合ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ便宜高等女學校ヲ之ニ併置スルモ妨ケナシ

○公立小學校中學校專門學校設置地所無代價下渡方

明治十三年一月二十九日  
太政官達第六號

府 縣

明治三十三年內  
務省達乙第八  
號ヲ以テ府縣  
ニ委任

第一編 設備及編制 (有租地ヲ公立學校地ト爲シ又ハ其校地ニ變更ヲ生シタルトキ稅務署ヘ通知方)

一四八

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第三百三十一號ヲ以テ相達置候處今般教育令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以內公立中學校公立專門學校ハ千坪以內ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ內務省ヘ可申出此旨相達候事

(參照)

太政官達第三百三十一號

諸學校ノ儀ハ學制ノ通人民共立可致ノ處創建ノ儀ニテ一時私費ヲ以テ難辦情實モ可有之ニ付學制中ニ掲載ノ中小學區學校設立ノ數ヲ限リ學校地所トシテ中學ハ千坪小學ハ五百坪以內ノ地ヲ無代價ニテ可下渡候條無稅官有地ニ於テ便宜ノ場所ヲ撰ミ內務省ヘ可申出此旨相達候事

○有租地ヲ公立學校地ト爲シ又ハ其校地ニ變更ヲ生シタルトキ

稅務署ヘ通知方

明治三十二年四月十三日  
文部省訓令第五號

北海道廳 府縣

有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキハ其都度該郡市町村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄稅務署ヘ通知スヘシ(明治三十六年文部省訓令第三十六號ヲ以テ改正)  
前項校地ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

○府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル規定

明治三十三年二月二十四日  
法律第十九號

府縣郡市町村其ノ他之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地ニシテ其ノ公用ニ供スルモノハ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ公用廢止ノ年マテ地租及公課ヲ免ス

附 則

本法ハ明治三十三年分地租及公課ヨリ適用ス

○小學校設備規程

明治三十三年十月四日  
愛媛縣令第八十七號

明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令第三十一條ニ依リ小學校ノ設備ニ關スル規程左ノ通之ヲ定ム

小學校設備規程

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ開豁乾燥ニシテ衛生ニ適シ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ選フヘシ

校地ハ有害ナル瓦斯煤煙塵埃等ヲ發生スル工場鐵道線路喧噪ナル工場娼家劇場觀物場寄席監獄署火葬場避病院絕壁ノ下斷崖ノ上地滑リノ虞アル地等ノ如キ道德上嫌疑スヘキ場所喧鬧ニシテ教場ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近セサルコトヲ要ス止ムコトヲ得サル場合ニ於テモ其種類

第一編 設備及編制

(府縣郡市町村其ノ他公共團體ノ所有地免租ニ關スル規定)

一四九

ニ從ヒ少クトモ二丁以上ノ距離ヲ存スルヲ要ス

第二條 體操場ハ分テ屋外體操場及屋内體操場トス

屋外體操場ハ方形若クハ之ニ類スル形狀ニシテ校地内日當リ好キ地面ヲ要ス但特別ノ事情アル場合ニ限リ校舍ト隔離シテ之ヲ設クルヲ得ヘシト雖モ成ルヘク接近セシムルヲ要ス其面積ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス  
二高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

三尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上、高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

但兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿ナルトキハ百五十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四特別ノ事情アルトキハ第二號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテニ減スルコトヲ得

屋内體操場ハ空氣ノ流通及採光ニ注意シ且雨雪ニ堪フヘキ設備ヲ爲スヲ要ス

屋内體操場ハ兒童控所ヲ以テ代用シ得ヘク又土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得ヘシト雖雨雪等ノ爲メ屋外ニテ體操ヲ行フ能ハサルコト多キ地方ニ於テハ可成之カ設備ヲ爲スヲ要ス

第三條 校地ヲ選擇スルニ方リテハ水道等ニ依リテ善良ナル用水ヲ供給スル場合ノ外ハ豫メ其地ノ水質ヲ分析シテ飲料ニ適スルヤ否ヲ檢シ且其水量ノ多寡ヲ計リ善良ナル飲料水及雜用水ヲ供

給スルノ備ヲ爲スヲ要ス

井ニハ井側ヲ設ケテ汚水ノ浸入ヲ防キ又井蓋ヲ備フヘシ井流シハ不浸水物ヲ以テ造リ且排水ニ注意スヘシ

校地内及校地ノ周圍ニハ渠ヲ設ケテ下水ヲ排去スルニハ十分ナル備ヲ爲スヲ要ス但校地内ノ渠ハ暗渠タルヘシ

第四條 校地ノ周圍ニハ牆棚等ヲ設クヘシ且落葉樹常綠樹ヲ交植シ窓前ニハ落葉樹ヲ植ウルヲ可トス但採光通風ヲ妨ケ又ハ校地ヲ陰鬱ナラシメサルニ注意シ殊ニ有毒植物ノ類ハ之レヲ避クルヲ要ス

第五條 校舍ノ建築ハ授業上、管理上、衛生上ノ使ヲ圖リ質朴堅牢ナランヲ要ス且學齡兒童數ニ基キ將來増加スヘキ兒童ノ員數ヲ見積リテ設計シ後日増築ニ適スル計畫ヲナスヲ要ス

校舍ハ平屋造リトナスヘシ但特別ノ事情アルハ二階造ト爲スコトヲ得

第六條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室並ニ教員室ヲ設クヘシ

御影並ニ勅語謄本ヲ拜戴セル學校ニハ奉置場ヲ設クヘシ

前二項ノ外唱歌裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ又必要ナル場合ニ於テハ講堂、兒童扣所、宿直室、湯沸所、小使室、物置所等ヲ設クヘシ

第七條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級小學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下、長四間以上五間以下、單級小學ノ教室ハ幅及長各々四間以上五間以下ヲ常例トシ其大ハ兒童一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルコトヲ得ス  
天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トス  
牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ  
採光窓ノ総面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得  
採光窓ハ廊下ニ接セス且兒童坐席ノ左方ニシテ其方位ハ南方タルヘシ但止ムヲ得サルトキハ西南方又ハ東南方ト爲スコトヲ得  
教室ノ幅三間半ヲ超ユル場合ニ於テハ採光窓ヲ左右兩方ニ設クヘシ裁縫室ノ如キ十分ノ光線ヲ要スルモノハ必ス二方ニ採光窓ヲ設ク其面積ヲシテ床面積ノ四分ノ一以上ナラシムヘシ  
二棟以上ノ建物ヲ並例シテ建築スルトキハ其相互ノ距離ハ少クトモ建物ノ高サト同尺以上ナルヘシ  
窓ハ兒童坐席ノ前面及後方ニ設クルコトヲ得ス又前面ノ壁ヨリ後方三尺以内ニ設ケサルヲ要ス窓ニハ日光ノ直射ヲ遮蔽センカ爲メニ窓硝子ニペンキヲ塗り若ハ日覆、窓懸ノ裝置ヲ爲スヘシ特ニ完全ナル建築ヲ爲シ得ル場合ノ外ハ窓ハ引違ノ構造ト爲スヘシ  
教室内ノ壁ハ灰色、淡黄色其他ノ中性色ト爲シ牀上凡二尺五寸ハ腰板ヲ張ルヘシ  
牀ハ二重張若クハ一寸以上ノ板ヲ以テ合決ニ造リ空氣ノ流通ヲ防クヲ要ス

教室ニハ幅四尺長六尺以上高八寸ノ教壇ヲ授クルヲ要ス  
檐又ハ庇ハ光線射入ノ妨トナラサル様構造スルヲ要ス  
教室内ノ溫度攝氏十四度ヲ下ル地方ニ於テハ暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ  
各教室ニハ通常二個ノ出入口ヲ設クヘシ其戸ハ引戸ト爲スカ若クハ外開キ戸トシテ煽リ止メヲ設ク敷居面ハ牀面ト平衡ナラシムルヲ要ス  
第八條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其幅ハ六尺以上タルヘシ寒冷ナル地方ニ於テハ間内廊下ト爲スヘシ  
間内廊下外面ノ窓ハ其下縁ヲ牀上凡二尺五寸トシ其上縁ハ教室ノ窓ヨリモ猶天井ニ近ツカシムヘシ  
廊下ノ側壁ハ牀上凡二尺五寸ハ腰板ヲ張ルヘシ  
渡廊下ハ吹抜構造トシ腰板ヲ張り敷石又ハ漆喰固メ若クハ渡板敷ト爲スヲ要ス  
第九條 二階ノ教室三個以上ナルトキハ階段ヲ二個以上設クヘシ  
階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面ハ八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ  
第十條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ  
第十一條 大ナル校舎ニハ成ルヘク適宜非常口ヲ設クルヲ要ス  
第十二條 講堂ヲ設ケサル學校ニ於テハ成ルヘク二教室若ハ三教室ノ仕切ヲ取外シ合シテ一室トナシ儀式舉行等ニ際シ講堂ノ代用ヲ爲シ得ヘキ裝置ヲ爲スヲ要ス

第十三條 生徒扣所ハ成ルヘク別棟トシ窓アル場所ハ牀面ヨリ窓下迄、窓ナキ場所ハ牀上凡四尺以上腰板ヲ張り屋内體操場ヲ兼スルモ妨ケナキ様構造スルヲ要ス

第十四條 便所ハ別棟トシ教室ト隔離スル三間以上ニシテ夏季常風ノ方向ニ注意シ又井ヲ距ルコト四間以上ノ位置ニ之ヲ設クヘシ

其ノ周圍ニハ塀牆ヲ設ク又ハ常綠樹ヲ植ウルヲ要ス

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百人ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百人ニ付五以上ノ割合ヲ以テ設クルヲ常例トス

大便所ハ天井ヲ設ケス成ルヘク上方ニ空氣抜ヲ設ケ戸ハ上下ヲ透カシテ右開キトナシ牀ノ高ハ二尺以上ニシテ適宜ノ踏石ヲ置キ戸扉ノ内ニハ内栓ヲ附シ梗槽ハ陶磁器ヲ用キ其周縁ハセメント又ハ漆喰土ヲ以テ塗ルヲ要ス

小便所ハ高六寸幅一尺以上ノ踏石ヲ設ク便槽ハ壁外ニ置キ切石ヲ以テ流溝ヲ構ヘ注壁ハ漆喰土ヲ以テ厚二寸以上塗リ上クルカ又ハ切石ヲ以テスルヲ要ス

第十五條 教員ノ住宅ハ成ルヘク校地内又ハ其近傍ニ於テ之ヲ設クルヲ要ス且一畝歩以上ノ其菜園ヲ備フルヲ可トス

第十六條 尋常小學校ニ於テハ教科用圖書、庶物標本、管内地圖、日本地圖、萬國地圖、算盤、度量衡、黑板、机、腰掛、時計、國旗、校旗、門札其他必要ナル器具、參考用圖書、辭書及小學ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ外地理歴史等ニ關スル繪畫寫真、標本、動植物及實用器械ノ解説圖、

理化學機械其他適當ナル小年書類體操器械、中學校、高等女學校及實業學校ニ關スル法令等ヲ備フヘシ

尋常小學校、高等小學トモ加設シタル教科目アルトキハ其教授上必要ナル校具ヲ備フヘキハ勿論トス

第十七條 寒暖計ハ成ルヘク各教室ニ備ヘ廊下ニ接セル側ニ於テ牀上凡四尺乃至五尺ノ高二掲ケ置クヲ要ス

第十八條 兒童用机及腰掛ノ寸法ハ別表ノ標準ニ依リ尋常小學校ニ於テハ一號乃至三號ノ三種、高等小學校ニ於テハ三號乃至五號ノ三種、尋常高等小學校ニ於テハ一號乃至五號ノ五種ヲ備フヘシ

第十九條 校舍ヲ新築、増築、改築シ若クハ市町村立高等小學校及私立小學校ノ校地ヲ選定シ又ハ變更セントスル時ハ市町村、町村學校組合又ハ設立者ニ於テ左ノ各項ヲ具シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一校地實測圖 本圖面ニハ字、番地、反別、共有地若クハ借地(所有者氏名)ノ區別、方位、隣地ノ形牀(家屋ノ有無、道路、水路、境界、及四周二丁以内ノ狀況)地質、水質、建物、體操場(校舍ト隔離セルモノハ其距離、其他本圖ニ準シ記載スヘシ)ノ位置坪數、井ノ位置構造、下水渠ノ布置構造、校地周圍ノ設備、校門ノ位置、冬夏季常風ノ方向等ヲ明記スヘシ

二校舍ノ平面圖 本圖面ニハ各建物及教室、教員室、昇降口、窓、欄間、風抜、便所、廊下等ノ名稱位置坪數ヲ明記スヘシ其製圖上ノ尺度ハ前後トモ曲尺三分ヲ以テ一間トスヘシ但校地

實測圖ト併テ一紙ニ記載スルモ妨ケナシ舊校舍ニシテ使用スヘキ部分アルモノハ併テ記載スヘシ

三 校舍設計ノ要領

イ 建築ノ種類(平屋建、二階造、屋根ノ葺方)

ロ 牀面ヨリ天井ニ至ル高

ハ 地盤ヨリ牀板ニ至ル高

ニ 牀板ノ構造(厚及結合方)

ホ 窓、欄間ノ構造(引違、廻轉、硝子張、紙張、其他高長幅等ヲ記ス)

ヘ 教室出入口ノ構造(引戸、外開キ戸等)

ト 教室内ノ壁色

チ 廊下及昇降口ノ構造(間内、外、敷石、板張ノ別等)

リ 階段(踏板ノ幅、踏面、蹴上クノ寸法)

ヌ 便所ノ構造

四 着手並ニ落成ノ期日

五 戸數及學齡兒童數(男女別)

六 在學兒童數(男女別並ニ學級學年別)

七 通學最遠距離

八 建築費豫算、(各建物毎ニ内譯ヲ以テ明記スヘシ)

九 當該年度ノ歳入歳出豫算表 (明治四十年愛媛縣令第六十號ヲ以テ追加)

特別ノ事情アリテ常例ニ依ラサル場合アルトキハ詳細其事情ヲ具陳スルヲ要ス

第二十條 校舍ノ建築落成シタルトキハ監督官廳ニ開申スヘシ

郡長ハ前項ノ開申アリタルトキハ直ニ實地調査ヲナシテ其成績ヲ報告スヘシ

第二十一條 本規程中校舍ノ新築、改築、校具ノ新調等ニ際スルニアラサレハ適用シ難キモノハ其時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得ヘシトイヘトモ各條ノ規定ハ概テ教育上衛生上必要ナル事項ニ屬スルヲ以テ成ルヘク速ニ之ヲ改良センコトヲ要ス

第二十二條 本規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

項 目	番 號				
	一	二	三	四	五
身 長	一〇〇以上 一一〇〇未滿	一一〇〇以上 一二〇〇未滿	一二〇〇以上 一三〇〇未滿	一三〇〇以上 一四〇〇未滿	一四〇〇以上 一五〇〇未滿
机 高	一五、五〇	一七、〇〇	一八、五〇	二〇、〇〇	二一、五〇
机 幅	一一、〇〇	全	全	全	全
机 長 (二人掛)	三〇、〇〇乃至 三六、〇〇	全	三六、〇〇	全	全
腰 掛 高	八、六〇	九、四〇	一〇、二〇	一一、〇〇	一一、八〇



腰掛ノ幅	腰掛ノ長 (二人掛)		倚男兒用 横木ノ高	倚女兒用 第一横木ノ高	第二横木ノ高
	二六、〇〇乃至 三二、〇〇	全			
八、二〇	五、〇〇	九、八〇	五、〇〇	四、〇〇	一〇、〇〇
五、〇〇	九、八〇	一〇、六〇	五、四〇	四、四〇	一〇、八〇
九、八〇	一〇、六〇	一一、四〇	五、八〇	四、八〇	一一、六〇
一〇、六〇	一一、四〇	一二、二〇	六、二〇	五、二〇	一二、四〇
一二、二〇	一二、四〇	一三、二〇	六、六〇	五、六〇	一三、二〇
全	全	全	全	全	全

本表中身長欄ハ「センチメートル」其括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

○中小學校設置ノ地所無代價下渡方

明治十三年二月二十日  
乙第二十一號

各郡町村

中小學校設置ノ地所無代價下渡ノ儀自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシ官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ無代價下渡シ可相成旨公達ノ趣モ有之候條爲心得此旨相達候事

○學校地認可ヲ受ケタルトキ郡市ヨリ稅務署へ通知方

明治三十九年十二月廿七日  
受撥縣訓令第三十一號

郡市

有租地ヲ郡市町村、町村學校組合立學校地ト爲シタルトキハ其都度郡市町村字番地、地目、反別及當廳認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘテ所轄稅務署へ通知スベシ  
前項校地ノ變更ヲ生シタルトキハ亦同シ

○職員

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇

明治二十四年十一月十六日  
勅令第二百十八號

市町村立小學校長及教員名稱及待遇

第一條 市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ

- 一 小學校長
  - 二 訓導 小學校ノ正教員タル者ノ名稱トス
  - 三 准訓導 小學校ノ准教員タル者ノ名稱トス
- 第二條 市町村立小學校長及正教員ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

○公立學校職員等級配當

明治二十五年四月二十八日  
勅令第三十九號

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ官等等級ハ其俸給額ニ應シ別表ニ依  
リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス  
但同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ  
(別表)

奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員官等配當表

職名	奏		任	
	三 等	四 等	五 等	六 等
專門學校 校長	年俸 三千圓以上 二千圓未滿	年俸 二千圓以上 一千五百圓未滿	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿
專門學校 教諭	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿
實業專門學 校 舍監	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿
師範學校 教諭	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿
高等女學校 校長	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿
實業專門學 校 校長	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿
實業專門學 校 教諭	年俸 二千圓以上	年俸 一千五百圓以上 一千二百圓未滿	年俸 一千二百圓以上 一千圓未滿	年俸 一千圓以上 八百圓未滿

判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員等級配當表

職名	判		任	
	一 等	二 等	三 等	四 等
專門學校 助教諭	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓以上 三十圓未滿	月俸 三十圓以上 二十圓未滿	月俸 二十圓以上 十圓未滿
專門學校 書記	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓以上 三十圓未滿	月俸 三十圓以上 二十圓未滿	月俸 二十圓以上 十圓未滿
師範學校 助教諭	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓以上 三十圓未滿	月俸 三十圓以上 二十圓未滿	月俸 二十圓以上 十圓未滿
師範學校 訓導	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓以上 三十圓未滿	月俸 三十圓以上 二十圓未滿	月俸 二十圓以上 十圓未滿
中學校 校長	月俸 五十圓以上	月俸 五十圓未滿	月俸 四十圓未滿	月俸 四十圓未滿
中學校 教諭	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓未滿	月俸 三十圓未滿	月俸 三十圓未滿
高等女學 校 助教諭	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓未滿	月俸 三十圓未滿	月俸 三十圓未滿
高等女學 校 舍監	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓未滿	月俸 三十圓未滿	月俸 三十圓未滿
高等女學 校 書記	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓未滿	月俸 三十圓未滿	月俸 三十圓未滿
實業學校 校長	月俸 五十圓以上	月俸 五十圓未滿	月俸 四十圓未滿	月俸 四十圓未滿
實業學校 教諭	月俸 五十圓以上	月俸 四十圓未滿	月俸 三十圓未滿	月俸 三十圓未滿

小學校	實業專門學校ヲ除ク	助教諭	月俸五十圓以上	月俸四十圓以上	月俸三十圓以上	月俸二十圓以上	月俸二十圓
	書舎記	監導	月俸五十圓未滿	月俸四十圓未滿	月俸三十圓未滿	月俸二十圓未滿	月俸二十圓未滿
學校長	本務	月俸五十圓以上	月俸四十圓以上	月俸三十圓以上	月俸二十圓以上	月俸二十圓	月俸二十圓
	月俸	五十圓以上	四十圓未滿	三十圓未滿	二十圓未滿	二十圓未滿	二十圓未滿
訓導	月俸	四十圓以上	三十圓以上	二十圓以上	二十圓未滿	二十圓未滿	二十圓未滿

師範學校ノ合監ノ等級配當ハ本務ノ俸給ニ依ル(明治三十六年勅令第六十七號ヲ以テ別表改正)

(備考)

明治三十六年勅令第六十七號ヲ以テ改正ノ別表ハ同四月一日ヨリ施行

○師範學校及市町村立小學校職員ヲ文官ト同一待遇方

明治三十四年十一月十七日 文部省訓令第六號

北海道廳 府縣

本年十一月十一日勅令第二百七十七號師範學校官制第二條及同年十一月十一日勅令第二百八十八號市町村立小學校校長及教員名稱及待遇第二條ヲ以テ師範學校及市町村立小學校ノ職員ハ奏任文官若クハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルコト、相成リタルニ付テハ俸給退隱料等ニ關シ特別ノ規程アル事項ヲ除ク外ハ任免席次及其他ニ關シ總テ奏任文官若クハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クヘキ儀ト心得ヘシ

○公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ニ於ケル席次

明治三十六年五月二十九日 文部省訓令第七號

北海道廳 府縣

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ノ席次ハ俸給額ニ依リ俸給額同シキトキハ任補ノ前後ニ依リ其他ハ高等官席次ノ例ニ依ルヘキ儀ト心得ヘシ

○公立學校職員ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トノ間ノ

轉任ニ關スル規定 明治三十二年十一月十九日 勅令第四百五十六號

第一條 奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ヲ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ任用シ又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ヲ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員ニ任用スル場合ハ轉任ト看做シ其ノ手續ハ轉任ノ例ニ依ル

第二條 前條ノ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ノ種類ニ關シテハ明治三十二年勅令第二百一號第二條ノ規定ヲ準用ス

(參照)

明治三十二年勅令第二百一號

第二條 明治二十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ

第一編 職員 (公立學校職員ノ同官等又ハ同等級内ニ於ケル席次) 事スル文官トノ間ノ轉任ニ關スル規定

- 一 官立ノ學校及圖書館職員
- 二 文部省官吏
- 三 教育事務ニ從事スル北海道府縣郡區島廳並臺灣總督府縣廳事務官吏

○市町村立小學校教員俸給ニ關スル規定

明治二十九年十二月二十九日  
同三十年勅令第二二號

第一條 市町村町村學校組合及其ノ區ハ第三條ノ月俸平均額ニ基キ小學校ノ教員定數ニ應スル金額ヲ支出スルノ義務アリ但シ市町村町村學校組合及其ノ區ハ土地ノ情況ニ依リ本項ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出スルコトヲ得

第二條 地方長官ハ前條ノ金額以內ニ於テ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムヘシ

地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ市町村町村學校組合及其ノ區ノ同意ヲ得テ前條ノ義務額ヲ超エ各本科正教員ノ俸給額ヲ定ムルコトヲ得但シ區ニ區會若クハ區總會ノ設ナキトキハ其ノ經費ヲ議決スル市町村又ハ町村學校組合ノ同意ヲ得ヘシ

義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得ス

第三條 市町村立小學校ノ本科正教員月俸ノ平均額ハ人口十萬以上ノ市ニ在リテハ二十四圓、其他ノ市及市ニ準スヘキ町村ニ在リテハ二十圓、其他ノ町村ニ在リテハ十六圓トス（明治四十年勅令第二百十六號ヲ以テ改正）  
前項市ニ準スヘキ町村ハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム（同上）

第四條 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ノ俸給額ニ關シテハ第二條ヲ適用ス

第五條 專科正教員及補助教授スル教員ノ俸給額ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ但シ本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ任用スル教員ノ俸給額ニ關シテハ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クノ限ニアラス（明治四十年勅令第二百十六號ヲ以テ改正）

第六條 本科正教員及准教員ノ月俸ハ左表ノ金額ヲ下スコトヲ得ス（同上）

尋常小學校	高等小學校		本科正教員		准教員
	男	女	男	女	
十圓	十圓	十二圓	九圓	七圓	
八圓	六圓	七圓	七圓	六圓	

第七條 本令施行ノ際既ニ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ニ於テハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視ス

第八條 本令中町村町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用シ町村長ニ關スル規定ハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ適用ス  
本令中市及市參事會ニ關スル規定ニシテ特ニ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ適用スルノ必要ア

ルトキハ文部大臣之ヲ定ム此ノ場合ニ於テ市參事會ノ職務ハ區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

附 則

第九條 本令ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第十條 明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第六十條第二項ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

（備考）

明治四十年勅令第二百十六號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四十一年四月一日ヨリ施行

理 由 書

小學校教員ハ俸給菲薄ニシテ其位置ニ安ンシ其職責ヲ盡スコト能ハス爲ニ全國多數ノ缺員アリト雖志望者少ク且現職者ト雖去テ他ノ業ニ就ク者アリ頃者我國百事業務ノ膨脹ニ伴ヒテ人ヲ要スルコト多ク又物價騰貴シテ一般ニ生活ノ度ヲ高メタレハ此趨勢ハ益其極ニ達セントス故ニ政府ハ曩ニ年功加俸ノ法ヲ設ケテ教員優遇ノ意ヲ示シ又市町村ニ於テモ近來漸ク教員ヲ優遇スルノ傾ナキニアラスト雖未タ以テ足レリトス可ラス教員ノ缺乏ヲ感スルコト益甚シキ今日ニ方更ニ優遇ノ方策ヲ講ジ以テ現職者ヲ鼓舞スルハ勿論況ク有爲ノ材アル者ヲシテ奮テ教員ノ職ニ從事セシメサルヘカラス是レ本案ヲ發布セントスル所以ナリ仍テ本案各條ノ趣旨ヲ摘記スルコト左ノ如シ

一 現行法令ノ下ニ於テハ市、又ハ町村、又ハ町村學校組合、又ハ市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ヲ以テ小學校設置區域トナシアリ是レ第一條ニ於テ「市町村村學校組合及其區ハ」云々ト規定シタル所以ナリ又同條ニ於ケル「小學校ノ教員定數」トハ小學校令ニ依リ文部大臣ノ定メタル省令明治二十四年省令第十二號學級編制等ニ關スル規則ニ依テ定マリ居ルナリ

第一條但書ヲ設ケタルハ市町村等ニ於テ其資力ノ如何ニ依リ本條ノ義務額ヲ超エタル金額ヲ支出セントスルコトハ教員優遇上尤モ喜ブヘキコトナレハナリ

一 義務額ヲ超エテ俸給ヲ支出スル場合ト雖市町村等ノ隨意ニ依リ一日定メタル俸額ヲ溢リニ減少シ爲ニ教員ヲシテ轉任セシ

ムルカ如キコトアラハ其タ不都合ナレハ第二條第三項ニ於テ必ス地方長官ノ許可ヲ受ケシムル權之ヲ取締テ設ケタリ

一 市町村等土地ノ情況ニ依リ或ハ第一條ノ義務額ヲ超エテ俸額ヲ支出セシムルコトノ必要ヲ地方長官認ムルニ於テハ市町村等ノ同意ヲ得テ之ヲ支出セシムルコト隨意タルヘシ但「同意ヲ得テ」トアル上ハ同意ヲ得スシテ強テ實行セシムルコトヲ得サルハ勿論ナリ（第二條第二項）

一 第三條ニ於テ市町村トニ依リ平均額ノ規定ヲ異ニシタルハ現今事實上ノ調査ニ照シ又ハ生計ノ難易及經濟ノ事情等ヲ酌量シタル者ナリ又市町村別チテ人口十萬以上ノ市ト其他ノ市トナシタルハ東京大阪等ノ大市ト其他ノ市トハ固ヨリ同一視ス可ラサレハナリ

一 本規則ハ教員ノ優遇ヲ期スルカ爲ニ規定シタルモノナリト雖市町村等チテ急遽ニ義務額マテノ金額ヲ悉皆支出セシメントスルカ如キハ固ヨリ實際ノ事情ニ適セサルモノナレハ土地ノ資力生活及其他ノ情況ニ應ジ教員ノ能否勤怠ヲ察シ漸次一般教員ノ待遇ヲ厚クスルヲ要ス故ニ第二條第一項ニ依リ俸額ヲ定ムルニ當テハ熟慮精思務メテ其宜シキヲ制セラルヘカラス

一 本科正教員ニ代リ一時教授スル准教員ハ全ク正教員ト同一ノ職務ヲ執ルヘキモノナレハ其俸給ノ如キモ全ク本科正教員ト同一ノ手續ニ依リ定ムルヲ至當トス（第四條）

一 專科教員ナルモノハ裁縫唱歌英語ノ如キ某科ニ限リテ教授ヲ擔當スルモノナレハ其受持時間數ノ如キ區々ニシテ爲ニ一定ノ俸額ヲ定ムヘキニアラス補助教授スル本科正教員ノ如キモ其職務ノ性質他ヲ補助スルニ止マリ獨立シテ教授ヲ擔當セサルモノナレハ法令ノ規定ヲ以テ俸額ヲ一定スルノ必要ヲ見ス故ニ是等ハ地方長官ニ於テ市參事會町村長ノ意見ヲ聞キ適宜俸額ヲ定ムルヲ可トス然レトモ本條ノ趣旨タル其人ニ就テ意見ヲ聞クニアラスシテ市町村ノ資力如何ヲ聞カシムルニ過キサレハ一旦決定シタル俸額以內ニ於テ新ニ任用スル教員ノ俸給額ヲ定ムル場合ニハ別ニ市參事會町村長ノ意見ヲ聞クヲ要セサルモノトス（第五條）

一 第六條ニ於テ本科正教員ノ最低俸額ヲ定メタリ是レ教員ノ體面上又ハ優遇上洵ニ己ムヲ得サルモノニ出ツルナリ最低未滿ノ俸額ヲ受ク居ル教員ノ俸額ハ本令施行ト同時ニ増額スヘキハ勿論トス今此増額ヲ見積ルニ全國ニ於テ年額凡八十萬圓

ニ過キサルナリ

一本規則施行ノ際既ニ第一條ノ義務額ヲ超エテ教員俸給ヲ支出スル場合ハ第二條ノ手續ヲ經タルモノト同視スルヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受フルニアラサレハ其額ヲ減スルコトヲ許サヘルナリ（第七條）

一北海道ノ札幌函館ノ如キハ諸般ノ事情ニ於テ市制町村制ヲ施行シタル地方ノ市ニ該當スルモノナレハ或ハ本規則ニ關シ市ト同一ニ取扱フノ必要アルヘシ是レ第八條第二項ノ規定アル所以ナリ

一本規則施行ノ上ハ地方長官ニ於テ教員ノ俸給ヲ定ムルニ當リ一々市參事會町村長ノ意見ヲ聞カサルヘカラサルノ規定ハ之ヲ廢止スルヲ要ス尙ホ其旅費ニ就テモ從來ノ實況ニ徴シ斯ル規定ノ必要ヲ認メス是レ小學校令第六十條第二項ヲ削除スル所以ナリ（第十條）

（參照）

勅令第二百十五號小學校令

第六十條 市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準並給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ

文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍内ニ於テ教員ニ交付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

### ○府縣立町村立學校長及教員任用ノ際本人ノ管轄廳等ニ照會方

明治十六年六月一日  
文部省 外 達

府 縣

學校職員タラシメントスル者ノ經歷等ハ之ヲ詳查スヘキコト勿論ノ儀ニ付府縣立町村立學校長教

員任用ノ際ハ豫メ本人ノ管轄廳又ハ奉職ノ官廳若クハ學校等ニ就キ詳細照會ヲ逐クヘシ此旨相達候事

### ○小學校教員心得

明治十四年六月十八日  
文部省 達 第十九號

小學校教員心得別冊ノ通相定候條右旨趣ニ基キ懇篤教誨ヲ加ヘ教員ノ本分ヲ誤ラシメサル様可致此旨相達候事

（別冊）

#### 小學校教員心得

小學校教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學校教員其人ヲ得テ普通教育ノ的目ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊

王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學校教員タル者宜ク深ク此意ヲ體スヘキナリ因テ其格守實踐スヘキ要款ヲ左ニ揭示ス荷モ小學校教員ノ職ニ在ル者夙夜匪懈服膺シテ忽忘スルコト勿レ

一人ヲ導キテ良善ナラシムルハ多識ナラシムルニ比スレハ更ニ緊要ナリトス故ニ教員タル者ハ殊ニ道德ノ教育ニ力ヲ用ヒ生徒ヲシテ

皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ茲シ及自己ヲ重

シスル等凡テ人倫ノ大道ニ通曉セシメ且常ニ己カ身ヲ以テ之カ模範トナリ生徒ヲシテ徳性ニ薰染シ善行ニ感化セシメンコトヲ務ムヘシ

一 智心教育ノ目的ハ專ラ人々ヲシテ智識ヲ廣メ材能ヲ長シ以テ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ豈徒ニ聲名ヲ博取シ奇功ヲ貪求セシメンカ爲ナランヤ故ニ教員タル者ハ宜ク此旨ヲ體認シ以テ生徒智心上ノ教育ニ從事スヘシ

一 身體教育ハ獨リ體操ノミニ依著スヘカラス宜ク常ニ校舎ヲ清潔ニシ光線溫度ノ適宜及大氣ノ流通ニ留意シ又生徒ノ健康ヲ害スヘキ癖習ニ汚染スル等ヲ豫防シ以テ之ニ從事スヘシ

一 鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ノ懷クヘカラサルハ人々皆然リト雖モ特ニ教員タル者ハ自己ノ心上ニ於テ最モ謹テ之ヲ除去セサルヘカラス蓋シ幼童ノ智徳ヲ養成シ身體ヲ發育スルノ重任ニ膺リ以テ世ノ福祉ヲ増進スルノ實效ヲ奏スルハ固ヨリ鄙吝陋劣ニシテ儉安貪利ヲ事トスル徒ノ敢テ能クスヘキ所ニアラサレハナリ

一 學校管理上ニ缺クヘカラサル快活ノ氣象ハ心神萎靡セル人ノ能ク具有スヘキ所ニアラス又生徒教授上ニ缺クヘカラサル許多ノ勞力ハ身體孱弱ナル者ノ能ク寧耐スヘキ所ニアラス是故ニ教員タル者ハ宜ク特ニ起居飲食等ノ常度ヲ守リ散鬱及運動等ノ良規ニ循テ其身心ノ健康ヲ保全シ以テ其職務ヲ盡スノ地ヲ做サンコトヲ務ムヘシ

一 教員タル者ハ唯小學校教則中ニ掲グル所ノ學科ニ通スルノミヲ以テ足レリトセス博ク教則外ノ學科ニ涉ランコトヲ要ス苟モ此ノ如クナラサレハ條チ教授上ニ破綻ヲ生シテ生徒ノ信憑ヲ失ヒ遂ニ其身ヲ學校ノ上ニ置ク能ハサルニ至ルヤ必セリ

一 教員タル者ハ常ニ整然タル秩序ニ由リ學識ヲ廣メ以テ其心志ヲ練磨センコトヲ務ムヘシ否ラサレハ決シテ教授ノ實效ヲ奏スル根柢ヲ立ツル能ハス蓋シ我カ練磨セサルノ心志ヲ以テ能ク他人ノ心志ヲ練磨シ得ルモノハ未タ曾テ之アラサルナリ

一 師範學校等ニ於テ嘗テ學習セシ所ノ教育法ハ概ネ其一樣子タルニ過キサルモノナリ故ニ教員タル者ハ徒ニ之ヲ踏襲スルヲ以テ足レリトセス宜ク常ニ自ラ其得失利病ヲ考究取捨シ以テ之ヲ活用センコトヲ務ムヘシ

一 人ノ心神及身體ノ組織作用ニ至テハ教員タル者最モ深ク意ヲ留メ講究ト經驗トニ由テ其原理實際ニ精通センコトヲ要スヘシ否ラサレハ假令夜々汲々トシテ教育ニ從事スルモ遂ニ臆度妄作ノ弊ヲ免ルコト能ハサルナリ

一 學校管理ノ事ハ之ヲ教授ノ事業ニ比スレハ更ニ困難ナリトス故ニ教員タルモノハ常ニ人情世態ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法務ヲ理スルノ順序等ヲ諳練セサルヘカラス

一 校則ハ校内ノ秩序ヲ整肅ナラシムルニ止ラス兼テ生徒ノ德誼ヲ勸誘スルノ要具タリ故ニ教員タル者ハ能ク此旨趣ヲ體認シ以テ之ヲ執行セサルヘカラス

一 熟練懇切匪勉ノ三者ハ亦教育上ニ缺クヘカラサルノ美事タリ故ニ教員タル者能ク此三者ヲ具備シテ其事ニ從フトキハ獨リ教授ノ實效ヲ奏スルヲ得ヘキノミナラス又生徒ヲシテ不知不識此等ノ美事ニ感化シ習慣自然ノ如クナラシムルニ至ルヘシ

一 學校ヲ統率スルハ殊ニ剛毅、忍耐、威重、懇誠、勉勵等ノ諸徳ニ由ルヘシ蓋シ剛毅ニアラサレハ難ニ勝ル能ハス忍耐ニアラサレハ久ヲ持スル能ハス威重ニアラサレハ人ヲ服スル能ハス懇誠

ニアラサレハ衆ヲ懷ル能ハス勉勵ニアラサレハ事ヲ成ス能ハス  
 一生徒若シ黨派ヲ生シ爭論ヲ發スル等ノ事アラハ之ヲ處置スル極メテ穩當詳密ニシテ偏頗ノ弊  
 ナク苛刻ノ失ナカラソラ要ス故ニ教員タル者ハ常ニ寬厚ノ量ヲ養ヒ中正ノ見ヲ持シ就中政治  
 及宗教上ニ涉リ執拗矯激ノ言論ヲナス等ノコトアルヘカラス  
 一人トシテ善良ノ性行ヲ有スヘキハ言ヲ俟タスト雖モ教員タル者ニ至テハ最モ善良ノ性行ヲ有  
 セサルヘカラス否ラサルトキハ獨リ幼童ノ德性ヲ涵養シ善行ヲ誘掖スルコト能ハサルノミナ  
 ラス却テ其天賦ヲ戕賊スルニ至ルヘシ蓋シ幼童ノ中心タル至虛至冲ニシテ外物ノ爲ニ感染セ  
 ラルルコト極メテ鋭敏ナレハナリ  
 一教員タル者ノ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムヘキハ亦其職業ニ對シテ盡スヘキノ務ト謂  
 フヘシ蓋シ品行ヲ尙クスルハ其職業ノ品位ヲ貴クスル所以ニシテ學識ヲ廣メ經驗ヲ積ムハ其  
 職業ノ光澤ヲ増ス所以ナリ

○小學校教員私宅教授及贈遺受領者ニ關スル取締方

明治二十八年四月二十七日  
文部大臣 臣 訓令

東京府

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ其生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス  
 徒ラニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨クルコト尠カラ

サルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ感情ヲ害シ一般  
 就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラズ候條特ニ公立小學校ニ在テハ注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲ爲ス  
 ヘシ

小學校教員私宅教授及生徒贈遺ノ件ニ關シ別記ノ通東京府(訓令相成候條自然費(府(縣)校)ニ於テ右様ノ儀有之候ハ、同  
 ク御取締相成度命ニ依リ此段及御通候條

各地方長官(東京府ヲ除ク)  
兩高等師範學校長

普通學務局長

○市町村行政ニ關スル府縣知事委任條件

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百二十三號

市制第二百一十一條第百二十二條町制第百二十五條第百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ  
 主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

- 一 市長代理順序、町村助役定員増加、町村長町村助役有給、公告式學務委員、基本財産、積立  
 金造林、傳染病豫防救治ニ關スル一時給與金、有給吏員ノ年功加俸退職一時給與金死亡給與  
 金弔祭料療治料遺族一時扶助料及督促手数料ニ關スル條例ヲ設ケ又ハ改正スル事(明治三十九  
 九十號ヲ以テ改正)
- 二 地租二分ノ一以下ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 三 市制第八十九號町制第八十九條ニ依ル手数料ノ新設、増額又ハ變更及之ニ關スル條例ヲ設  
 ケ又ハ改正スル事(明治三十九年勅令第  
 百九十號ヲ以テ追加)



附 則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（備考）

明治三十九年勅令第九十號ヲ以テ改正ノ條項ハ同八月一日ヨリ施行

○在外指定學校職員設置方

明治三十八年十一月六日  
勅令第二百三十號

第一條 在外指定學校中小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長、訓導、准訓導

前項以外ノ在外指定學校ニハ左ノ職員ヲ置ク

學校長、教諭、助教諭、舍監、書記

在外指定學校ニ於テ必要アルトキハ職員トシテ前二項ニ掲ケタルモノ以外ノ教員ヲ置クコトヲ得

第二條 居留民團ノ設立ニ係ル在外指定學校ノ學校長、教諭、助教諭、訓導、舍監、及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ前條第二項ノ學校ノ學校長及教諭三名以内ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クシムルコトアルヘシ

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ外務大臣及文部大臣之ヲ奏薦シ内閣總理大

臣之ヲ宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ所管領事官之ヲ專行ス

第四條 明治二十五年勅令第三十九號ハ文官ト同一ノ待遇ヲ受クル在外指定學校職員ニ關シ之ヲ準用ス

第五條 本令ニ規定スル者ノ外在外指定學校職員ノ懲戒其ノ他進退ニ關スル規定ハ外務大臣及文部大臣之ヲ定ム但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ懲戒ニハ文官懲戒令中高等官ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○關東州學校職員任用ニ關スル件

明治四十年三月十九日  
勅令第五十一號

第一條 關東州小學校ノ訓導ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 師範學校中學校又ハ高等女學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

二 小學校教員免許狀ヲ有スル者

第二條 關東州公學堂ノ教諭ハ左ノ資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 前條ノ教員免許狀ヲ有シ支那語ヲ以テ教授ヲ爲シ得ヘキ者

二 前條ノ外支那語ニ通シ二年以上關東州ニ於テ教育ニ從事シタル者

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
關東州公學堂ニ於テ教育ニ従事スル者ハ本令施行ノ際ニ限り第二條ノ規定ニ拘ラス教諭ニ任用ス  
ルコトヲ得

○市町村立小學校准教員進退ニ關スル規程

明治三十三年九月二十七日  
愛媛縣令第八十三號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第三百三十條ニ基キ市町村立小學校准教員進退ニ  
關スル規程左ノ通り之ヲ定ム

市町村立小學校准教員ニ關スル規程

第一條 郡市長ニ於テ市町村立小學校准教員ノ任用ヲ申請スルトキハ其學校名勤務ノ區別並ニ給  
料額ヲ具シ本人履歷書ヲ添附スヘシ

第二條 郡市長ニ於テ市町村立小學校准教員ヲ轉任セシムヘキ必要アリト認ムルトキハ其事由學  
校名勤務ノ區別及給料額等ヲ具申スヘシ

但シ給料額ヲ減スルトキハ本人ノ承諾書ヲ添へ又他都市ヨリ轉任セシメントスルトキハ關係  
郡市長ハ承諾ヲ經ヘキモノトス

第三條 郡長ニ於テ市町村立小學校准教員ノ増給ノ必要アリト認ムルトキハ其事由及給料額等ヲ具  
申スヘシ

三十四年縣  
令第三十五  
號ニテ第一  
條改正  
全上ニテ第  
二條改正

三十四年縣  
令第三十五  
號ニテ但書  
項追加

第四條 前數條ノ給料額ニ關シテハ市參事會町村長又ハ町村學校組合長ノ意見書ヲ添附スヘシ

但小學校令施行規則第三十五條第二項及同第二百十三條ニ依リ任用シ若クハ本文ニ依リ一旦  
定マリタル給料額以內ニ於テ任用セントスル場合ニ於テハ此限リニアラス

准教員ニ支給スヘキ手當金ニ關シテハ管理者ノ意見書ヲ徵シ之ヲ添付スヘシ

第五條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スヘシ

一 傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二 學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三 教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スルトキ

四 刑事事件ニ關シ告訴若クハ告發セラレタルキ

五 前各號ノ外知事ニ於テ特ニ其必要ヲ認メタルトキ

第六條 市町村立小學校准教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ  
當然休職者トス

第七條 休職ノ期間ハ第五條第一項及第二項ノ場合ニ在リテハ一ケ年トシ同上第四號ノ場合ニア  
リテハ其事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ全條第三號及前條ノ場合ニ在リテハ其事故止ミタル後尙三

ケ月トス

第八條 休職者ハ職務ニ従事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ

但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第九條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命スヘシ

三十四年縣令第三十五號ニテ第十五條中七字削除

- 一 不具痲疾ニ因リ又ハ身体若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
- 二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ
- 三 本科正教員ノ任用セラレタル爲准教員ヲ要セサルニ至リタルトキ若クハ休職者復職シタル爲其代員ヲ要セサルトキ
- 第十條 市町村立小學校准教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス
  - 一 當該學校ノ廢セラレタルトキ
  - 二 休職期間滿チタルトキ
- 第十一條 郡市長ニ於テ市町村立小學校准教員ノ退職休職若クハ復職ニ該當スルト認ムルモノアルトキハ其事由並ニ氏名等ヲ具申スヘシ
- 但シ第五條第五號ニ依リ休職ヲ請ハントスルトキハ其期間ヲモ附申スヘシ
- 第十二條 郡市長ハ市町村立小學校准教員退職ヲ願出タルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

○市町村立小學校長正教員並ニ私立小學校長教員進退ニ

關スル細則

明治三十三年九月二十七日 愛媛縣令第八十四號

市町村立小學校長正教員并ニ私立小學校長教員進退ニ關スル細則左ノ通之ヲ定ム

三十四年縣令第三十六號ニテ第十六條中給料額ノ下「手當金」ノ三字ヲ削リ第二項追加

- 市町村立小學校長正教員並ニ私立小學校長教員進退ニ關スル細則
- 第一條 郡市長ニ於テ市町村立小學校正教員ノ任用ヲ申請スルトキハ其學校名勤務ノ區別並ニ給料額等ヲ具シ本人ノ履歷書ヲ添付スヘシ
  - 一 週二十時ヲ超ヘ教授ヲ擔任セシメントスル場合ニ於テハ之ニ支給スヘキ手當金額ヲ具申スヘシ
- 第二條 郡市長ニ於テ市町村立小學校長正教員ニ學校長ノ兼任ヲナサシメントスルトキハ其氏名ヲ具シテ申請スヘシ
- 第三條 郡市長ニ於テ市町村立小學校專科正教員ニ他校ノ教授ヲ兼任セシムルノ必要アリト認ムルトキハ其事由學校名勤務ノ區別及俸給額等ヲ具申スヘシ
  - 但シ關係學校ノ經費ヨリ其俸給ヲ分割支給シ若クハ其教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減セントスルトキハ之ヲ具申スヘシ
- 第四條 郡市長ニ於テ市町村立小學校長ノ兼任若クハ專科正教員ノ他校兼任ヲ解クノ必要アリト認ムルトキハ其氏名及事由ヲ具申スヘシ
- 第五條 郡市長ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシムヘキ必要アリト認ムルトキハ其事由學校名勤務ノ區別及給料額等ヲ具申スヘシ
  - 但シ給料額ヲ減スルトキハ本人ノ承諾書ヲ添ヘ又他郡市ヨリ轉任セシメントスルトキハ關係郡市長ノ承諾ヲ經ヘキモノトス
- 第六條 郡長ニ於テ市町村立小學校正教員ノ増給ノ必要アリト認ムルトキハ其事由及給料額等ヲ具

三十四年縣令第三十六號ニテ第七條中退職ノ下又ハ休職ノ字削除ノ七

申スヘシ

但シ専科正教員ノ給料額ニ關シテハ町村長又ハ町村學校組合長ノ意見書ヲ添フヘシ其一旦定マリタル給料額以内ニ於テ任用スヘキ場合ハ此限ニアラス

第七條 郡市長ニ於テ市町村立小學校正教員ノ退職休職若クハ復職ニ該當スト認ム者アルハ其事由並ニ氏名等ヲ具申スヘシ

但シ小學校令施行規則第二百二十七條ニ依リ休職ヲ具申スル場合ハ其期間ヲモ具申スヘシ

第八條 市町村立小學校正教員退職ヲ願出タルトキハ郡市長ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付シテ之レヲ進達スヘシ

第九條 郡市長ニ於テ市町村立小學校正教員ノ解職ニ關スル辭令ヲ傳達シタルトキハ其受書ヲ徵シ直チニ之ヲ進達スヘシ

第十條 私立小學校ノ設立者ニ於テ學校長又ハ教員ヲ採用シタルトキハ其年月日ヲ具シ履歷書ヲ添へ解職シタルトキハ其年月日及事由ヲ具シ直ニ届出ツヘシ

○市町村立小學校長教員俸給旅費及諸給與規則

明治三十三年十一月十三日 愛媛縣令第九十二號

小學校令第四十五條ニ依リ市町村立小學校長教員俸給旅費及諸給與規則左ノ通り之ヲ定ム

市町村立小學校長教員俸給旅費及諸給與規則

第一章 俸給

第一條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依ル

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
本 科 正 教 員	上七十五円 下六十五円	六十円	五十円	四十円	三十円	二十四円	十八円	十六円	十三円	十一円
專 科 正 教 員	上四十円 下三十円	三十円	二十四円	二十円	十六円	十三円	十一円	八円	六円	五円
准 教 員	上二十円 下十八円	十四円	十二円	十一円	八円	六円	五円	四円	三円	二円

第二條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトアルヘシ

第三條 専科正教員ノ俸給ハ其教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スコトアルヘシ

第四條 専科正教員ニシテ他ノ小學校ノ専科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第五條 教員ノ俸給ハ其意ニ反シテ之ヲ減スルコトナシ

第六條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ市町村、町村學校組合、又ハ區ノ意見ヲ開キ其ノ一部若クハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

第七條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其間俸給ヲ給セス但シ其額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ管理者ノ意見ヲ聞キ其不足額ヲ給スルコトアルヘシ

第九條 俸給ハ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給スヘシ  
第十條 俸給ノ支給方法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 新任増給減給ノトキハ日割ニ依リ發令ノ翌日ヨリ給ス
  - 二 他ヘ轉任セシ者ノ俸給ハ發令ノ當日迄日割ヲ以テ支給シ他ヨリ轉任セシモノ、俸給ハ前項ノ例ニ依ル
  - 三 廢校又ハ學校編制ノ變更ニ因リ若クハ自己ノ便宜ニ因ラサル退職退職復職及現職者死亡ノ時ハ其月ノ俸給全額ヲ給ス
  - 四 懲戒ニ因リ免職ニ處モラレ若クハ免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキハ其當日迄日割ニ依リ當月分ノ俸給ヲ給ス
  - 五 自己ノ便宜ニ因ル退職ノトキハ日割ニ依リ辭令書ヲ受ケタル當日迄給ス
  - 六 教員死亡シタルトキハ其在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給ス
  - 七 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此限ニアラス
  - 八 前段ノ場合ニ於テ其間ニ休業日アルトキハ之レヲ通算スルモノトス
- 給料ハ日割計算ハ其月ノ現日數ニ依ル計算上厘未滿ノ端數ヲ切捨トス但シ轉任ノキヲ除ク外増給又ハ減給ノ場合ハ前後日割給料ノ和ヨリ生シタル厘未滿ノ端數ヲ切捨ツルモノトス

第二章 旅 費

第十一條 教員ノ旅費ハ左表ノ定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ給ス

職名	瀛車賃		船賃		管 車		管 馬		管 宿		管 泊		管 料		管 日		管 當		
	正	准	正	准	正	准	正	准	正	准	正	准	正	准	正	准	正	准	
教員	四	三	四	三	八	六	十	八	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
教員	三	二	三	二	八	六	十	八	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十

- 第十二條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ給ス宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之レヲ給ス  
但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ給セス
- 第十三條 旅費ハ旅行ノ性質ニ依リ一旅行ニ就キ金額ヲ定メ又ハ實費ニ依リ之ヲ給スルコトヲ得  
但シ本文前段ノ場合ハ豫メ監督官廳ニ開申スヘシ
- 第十四條 瀛車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ給ス  
但シ一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス
- 第十五條 年度若クハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ瀛車旅行若ハ水路旅行ニシテ其區分判明ナラサルハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區別シテ計算ス
- 第十六條 陸路六里未滿瀛車十里未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ給セス  
但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ給ス
- 第十七條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ瀛車賃及馬車賃ニ限り定額ノ二倍ヲ給ス

第十八條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ給ス  
第十九條 旅行中廢職退職職若クハ死亡ノモノニハ前職若クハ本職相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退職ノモノハ此限ニアラス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程下ル十二ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス又通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ以テ計算ス

第二十一條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ廢職若ハ退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ給ス

第二十二條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任相當ノ旅費ヲ給ス

第三章 諸給與

第二十三條 教員ニシテ一週三十時ヲ超ヘ教授ヲ擔任スルモノニハ其勤務時數及本俸額ニ應シ毎月手當金ヲ給スヘシ

手當金ノ支給ハ總テ俸給支給方ニ準據ス

第二十四條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アルモノニハ慰勞金ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テハ郡長ハ管理者ノ意見ヲ聞キ上申スヘシ

第二十五條 教員ニシテ宿直ヲ爲スモノニハ賄料ヲ給スヘシ

第二十六條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルモノハ相當ノ療

治料ヲ給スヘシ

第二十七條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第二十八條 職務ノ爲メニ要スル筆紙墨及其他文具ハ現品ヲ以テ給スヘシ

但代料ヲ以テ之ヲ給スルコトヲ得

第二十九條 前四條ノ場合ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第四章 附則

第三十條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年縣令第四十四號全第六十五號及明治三十二年縣令第一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○市町村立小學校代用教員ノ俸給旅費其他諸給與規程

明治三十四年一月十日  
愛媛縣令第一號

小學校令施行規則第七十三條ニ依リ市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其他諸給與ニ關スル規程左ノ通り之ヲ定ム

明治三十四年一月十日

愛媛縣知事 本部 泰

第一條 代用教員ノ月俸額ハ四圓以上拾五圓以下ニ於テ郡市長之ヲ定ムヘシ

但シ未滿ノ端數ヲ附セサルモノトス

三十四年縣令第五十八號ニテ第一條改正

特別ノ事情アル者ニ付テハ郡市長ニ於テ知事ノ許可ヲ受ク貳拾圓マテヲ給スルコトヲ得  
第二條 代用教員ノ旅費ハ左表ニ據ルヘシ

汽車賃	船賃	車馬賃		泊料		日當
		管内	管外	管内	管外	
三錢	縣月	八錢	拾錢	廿五錢	三十錢	五十錢
				十五錢	二十錢	廿五錢

第三條 俸給旅費及諸給與支給ノ方法ハ明治三十三年縣令第九十二號市町村立小學校長教員俸給旅費及諸給與規則第八條、第九條、第十條、中第一號乃至第五號第八號、及第十一條乃至第二十九條ヲ準用スルノ外猶左號ニ依ルモノトス但手當金及慰勞金ノ給與ハ市立小學校ニ在テハ市長之ヲ決定シ町村立小學校ニ在テハ管理者ノ意見ヲ聞キ郡長之ヲ決定スヘシ

一、代用教員在職中死亡シタルトキハ一ヶ月分ノ俸給額ヲ其遺族ニ支給ス

二、病氣ノ爲メ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノ及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト十五日ヲ踰ユルモノハ俸給ヲ支給セス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クルモノハ此限ニアラス

本文ノ場合ニ於テ其間ニ休業日アルトキハ之ヲ通算スルモノトス

第四條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○小學校長教員等職務及服務細則

明治三十五年二月二十二日 愛媛縣訓令第六號

郡市町村學校組合私立小學校設立者

小學校幼稚園盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校

明治三十三年十二月愛媛縣訓令第六十三號小學校長教員等職務及服務細則左ノ通り改正ス

小學校長教員等職務及服務細則

- 第一條 市町村立小學校長ハ校務ノ整理及教授擔任ノ事務ニ關シ處務規程ヲ設ケ之ヲ監督官廳ニ開申スヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第二條 市町村立小學校長ハ小學校令施行細則第二十二條ニ依リ教授細目ヲ定メタルトキハ之ヲ監督官廳ニ開申スヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第三條 市町村立小學校長教員轉任又ハ廢職退職休職ノトキハ遲滞ナク擔當ノ事務ヲ學校長ニ引繼クヘシ
- 學校長ノ事務ニ就キ前項ニ據リ難キ場合ハ管理者ニ引繼クヘシ
- 第四條 市町村立小學校長教員轉任ヲ命セラレタルハ七日以内ニ赴任スヘシ新任ノトキ亦同シ
- 第五條 市町村立小學校長教員職務ノ爲メ出張ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其事由日數ヲ具シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ往復一日ノ出張ハ此限ニアラス
- 旅費ヲ要スル場合ハ學校長ニ於テ豫メ管理者ト協議ヲ遂クヘシ
- 第一項 本文ニ依リ出張シタル者ハ歸校後十日以内ニ其要領ヲ記シ監督官廳ニ報告スヘシ

第六條 市町村立小學校長教員傷疾疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ欠勤スルトキハ始業前學校ニ届出ツヘシ其傷疾疾病ノ爲メ欠勤五日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ爾後十五日毎ニ届出ツヘシ但シ教員一人ヲ置ク學校ニ在リテハ管理者ヘモ通知スヘシ  
前項後段ノ場合並ニ事故ノ爲メ欠勤五日以上ニ及フトキハ學校長（前項但書ノ場合ハ管理者）ニ於テ監督官廳ニ報告スヘシ

第七條 市町村立小學校長教員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ  
一 父母ノ疾病看護ノ爲メ欠勤セントスルトキ  
二 私事ノ爲メ旅行セントスルトキ但シ轉地療養ノ場合ハ醫師診斷書添付ヲ要ス  
三 第四條ノ期間内ニ赴任シ能ハサルトキ  
第八條 市町村立小學校長教員左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ監督官廳ニ届出ツヘシ  
一 喪ニ丁リタルトキ  
二 父母ノ忌日ニ丁リタルトキ  
三 休業中ニ旅行セントスルトキ  
四 六週間現役ニ服シタルトキ  
五 小學校令施行規則第二百二十二條第三號ニ依リ休業ヲ命セラレタルモノニシテ其事故止ミタルトキ  
六 小學校令施行規則第二百二十三條ノ場合及其事故ノ止ミタルトキ  
七 改氏名ノトキ

郡長ハ前項第五號乃至第七號ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ  
第九條 市町村立小學校長ハ毎月五日限リ其前月ニ於ケル職員ノ勤務表ヲ調製シ監督官廳ニ報告スヘシ

前項勤務表ハ出勤出張欠勤忌引賜暇等ノ目ニ分テ調査スヘシ  
第十條 市町村立小學校長欠員若ハ事故アルトキハ次席教員ニ於テ其職務ヲ代理スヘシ  
第十一條 市町村立小學校教員ヨリ官廳ニ差出ス文書ハ學校長ヲ經由スヘシ  
第十二條 私立小學校ニ於テハ本則第一條第二條第八條第七號第九條乃至第十一條ヲ適用シ又出張欠勤事務引繼等ニ關シテハ本則ニ準シ設立者ニ於テ之ヲ定メ監督官廳ニ開申スヘシ  
第十三條 幼稚園長保母並ニ盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校長教員ノ職務及服務ニ關シテハ本則ヲ準用ス

○公立學校職員ヨリ差出スヘキ醫師診斷書式

明治三十四年九月二十九日  
愛媛縣訓令第十九號

郡市町村  
公立學校

公立學校職員ヨリ差出スヘキ醫師診斷書式左ノ通り之ヲ定ム

書式

診斷書



病名何々

一 已往症何々

一 現症何々

一 經過何々

以上詳細記載ヲ要ス

一 從來施セシ治療法ノ大要

一 豫後ノ見込

右之通相違無之候也

住 所

氏

年

名 齡

住 所

主治醫 氏

名 印

年 月 日

### ◎教員檢定

#### ○小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則

明治四十一年二月廿一日  
愛媛縣令第二四號

小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則左ノ通定メ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

小學校教員檢定及免許狀ニ關スル細則

第一條 小學校教員試驗檢定ハ毎年左ノ通施行ス其ノ場所期日等ハ豫メ公告スヘシ

但必要ノ場合ニ於テハ臨時之ヲ行フコトアルヘシ

一月 尋常小學校本科正教員及尋常小學校准教員志願者

八月 小學校本科正教員小學校准教員及小學校專科正教員志願者

第二條 小學校教員試驗檢定ヲ請フ者ニシテ一月ノ試驗ニ應スルモノハ前年十一月中、八月ノ試

驗ニ應スルモノハ其ノ年六月中、無試驗檢定ヲ請フモノハ隨時願書ニ履歷書並小學校令施行規

則第四條ニ關スル市町村長ノ証明書ヲ添附シ所屬市町村及郡ヲ經由シ期限内ニ當廳ヘ到達スヘ

キ様出願スヘシ

但シ本則第六條但書後段及第七條ニ依リ學校卒業又ハ修業ノ爲メ試験欠除ヲ受ケントスル者

ハ當該學校長ノ証明書添附ヲ要シ且現ニ公立學校教員勤務中ノ者ハ當該學校長及所屬郡市ヲ

經由スヘク又出願者中小學校教員免許狀ヲ有スル者ハ小學校令施行規則第四百四條ノ証明書添

附ヲ要セス

第三條 小學校教員檢定手数料並免許狀ノ裏書又ハ再渡出願ノ手数料ハ左ノ如シ

一 本科正教員 金六拾錢

一 專科正教員及准教員 金參拾錢

一 裏書又ハ再渡出願 金貳拾錢

第四條 前條ノ手数料ハ當該官廳ノ納入告知書ニ依リ納入手續ヲナスヘシ

但シ手数料ハ檢定願取消ヲナシ又ハ試験ニ應セサルモノト雖免除セス  
 第五條 出願者ニ對スル檢定ハ小學校令施行規則第百八條乃至第百十二條ノ必須學科ニ就キ之ヲ行フ其ノ欠除シ得ヘキ學科目ヲ受験セントスル者ハ願書受験志望學科ノ欄ヘ之ヲ記載スルヲ要ス

第六條 小學校令施行規則第百十條ニ依リ小學校專科正教員出願者ノ普通學力檢定ハ修身、國語算術、ノ三科目ニ就キ之ヲ行フ

但シ尋常小學校准教員以上ノ資格アル者若ハ二年程高等小學校卒業生及之ト同等以上ト認めラルヘキ學力アル學校ノ卒業生修業生ハ之ヲ欠除ス

第七條 公立又ハ明治卅二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ認可シタル私立中學校及高等女學校卒業生ニシテ尋常小學校正教員同准教員、小學校准教員ノ檢定ヲ出願スル場合ハ教育ヲ除ク外各學科ノ試験ヲ欠除ス

第八條 學科試験ノ合格者ニ對シテハ實地授業法ノ試験ヲ行フ但シ左記各項該當ノ者ハ之ヲ欠除ス

- 一 專科正教員、小學校准教員及尋常小學校准教員檢定出願者
  - 二 小學校本科正教員及尋常小學校本科正教員檢定出願者ニシテ一年以上小學校ノ教育ニ勤務ノ經歷アリテ出願ノ當時其ノ職ニ在ル者
  - 三 保母ノ檢定出願者ニシテ一年以上保育ノ經歷アリテ出願當時幼稚園ニ在職ノ者
- 第九條 試験檢定出願者ニシテ某科目ニ關シ成績佳良ノ證明書ヲ有スル者ハ願書佳良科目ノ欄ヘ

其ノ學科目及證明書ノ日付ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 試験檢定同一時期ニ於テ二種以上ノ資格檢定出願ヲ許サス

第十一條 小學校教員檢定及免許狀ニ關シ從前發布シタル縣令告示等ハ本則施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

附錄第一號 檢定願書式

小學校教員檢定願	
檢定種類別	試驗又ハ無試驗
資格別	小學校本科正教員 <small>（又ハ尋常小學校本科正教員等）</small>
佳良證明書ヲ受クル學科目及其年月日	
欠除シ得ヘキ學科目中受験セントスル學科目	
右出願ス	住所族籍戶主或ハ何某何男（何女何兄弟何々）
年月日	氏 名（假名ヲ附スヘシ）
知事宛	生年月日

附錄第二號 履歷書式

明治三十三年愛媛縣令第八十號小學校教員就職ノ爲差出履歷書式ニ據ル

○小學校教員並幼稚園保姆受驗者心得

明治四十一年二月二十二日  
愛媛縣告示第九十一號

小學校教員並幼稚園保姆受驗者心得左ノ通定ム

小學校教員並幼稚園保姆受驗者心得

第一條 受驗者ハ每學科試驗開始前出席簿ニ捺印スヘシ  
但病氣其ノ他ノ事故ニヨリ出席シ能ハサルハ其ノ旨速ニ監督者ニ届出ヘシ

第二條 試驗ノ時限ニ至レハ直ニ試驗場ニ入り監督者ノ命ヲ待テ着席スヘシ  
若時限ニ後レテ出頭シタルハ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第三條 受驗者ハ出席簿ニ就キ受驗番號ヲ承知シ答案ニハ番號ノ外氏名ヲ記載スヘカラス

第四條 試驗場ニ出席スルニハ袴又ハ洋服ヲ着用スヘシ

第五條 携帶品トシテ示シタルモノ、外ハ書籍書類ハ勿論其ノ他白紙タリトモ携帶シテ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

第六條 受驗者ノ試驗場ニ携帶スヘキ物品左ノ如シ

- 一、各學科共通ノモノ 硯墨又ハ墨池、筆、鉛筆、小刀、錐
- 右ノ外學科ノ種類ニヨリ携帶スヘキ用品左ノ如シ
- 一、習字 硯、墨、大筆、文鎮

一、地理 色鉛筆

一、幾何 簿記、用器畫、定木、コンパス、尺

一、鉛筆畫 ゴム、鉛筆

一、毛筆畫 畫筆、墨、硯、羽箭、筆洗、小皿、本炭筆

一、裁縫 竹尺、剪刀、針、篋、燒鑊ノ類

一、英語 商業、インキペン、吸取紙

一、手工 尺、剪刀、小刀、錐、定木

第七條 試驗場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ監督者ノ承認ヲ經スシテ離席又ハ發言スルコトヲ許サス

第八條 答案ハ凡テ毛筆ヲ以テ左ノ書式ニ依リ明瞭ニ記載スヘシ  
但數學、英語、及理科ノ插畫等ハ毛筆ヲ用キサルモ妨ナシ

答案二葉以上ニ亘ルハ其ノ順序ヲ記シ且毎葉學科目並番號ヲ記載シテ綴ルヘシ

小學校（尋常小學校）本科專科（何科）正（准）教員檢定試驗答案

何科 番號（姓名ヲ記スヘカラス）

(一)、、、、  
(二)、、、、

第九條 試驗問題ニ關シテハ一切質問ヲ許サス

但問題中字畫不明ノ場合ハ此ノ限リニアラズ

第十條 習字、圖書ノ答案ハ書替ヲ許サス

第十一條 豫定時間盡キタルトキハ直チニ答案ヲ監督者ニ差出シ退場スヘシ  
 第十二條 一旦答案ヲ提出シタルトキハ假令誤認發見スルモ訂正ヲ許サス又一旦退場シタルトキハ其ノ試験時間中再ヒ入場スルコトヲ許サス  
 第十三條 試験場ニ於テハ監督者ノ命令指揮ニ從フヘシ若監督者ニ於テ不都合ノ行爲アリト認めタルトキハ退場ヲ命シ又其ノ情狀ニ依リ既ニ差出シタル答案ヲ無効トシ且當期ニ於テ引續キ受驗ヲ許サザルコトアルヘシ

○試験ヲ欠除スル學科目

明治三十三年十一月六日  
愛媛縣告示第三百十四號

明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第百十三條ニ依リ試験ヲ欠除スル學科目左ノ如シ  
 一本縣小學校教員免許狀又ハ本縣小學師範學科卒業證書ヲ有シ其有効期間滿チタル者ハ教育科以下ノ學科目  
 一本縣小學校教員講習科ヲ卒リタル者ハ卒業試験ノ際五十点以上ノ得点アル學科目  
 一府縣立中學校卒業生ハ教育簿記ノ二科目以外ノ學科目  
 一府縣立高等女學校卒業生ハ教育漢文ノ二科目以外ノ學科目（明治三十五年告示第（二百十號）ヲ以テ改正）

○小學校教員試験檢定出願者參考用書

明治四十一年二月二十三日  
愛媛縣告示第九十四號

小學校教員試験檢定出願者參考用書左ノ通定ム

小學校本科正教員

修身科

一師範學校修身教科書 吉田 靜 致 全四冊 寶文館  
 一教育勅語修身要義 和田 豐 全一冊 同文館  
 一普通禮法 矢嶋 錦 藏 全一冊 文藝學社  
 一女子作法書 後佐 菊 野 全二冊 目黒甚七  
 一國定小學校教科用修身書尋常科用高等科用

教育科

一教育學 小泉 又一 全一冊 大日本圖書株式會社  
 一各科教授法 全 全 全 全  
 一教育的心理學 全 全 全 全  
 一教育史 全 全 全 全  
 一小學校管理法 和田 豐 全一冊 同文館  
 一國語科 吉田 彌平 外二名 全四冊 富山房  
 一三國文典教科書

- 一 中等教科明治讀本 芳賀 矢一 全十冊 富山房
- 一 新体日本文學史教科書 藤岡 作太郎 全一冊 開成館
- 一 國定小學校教科用讀本尋常科用高等科用 漢文科
- 一 師範教科漢文讀本 法貴 慶次郎 全三冊 明治堂
- 一 女子漢文教科書 (右男子ニ限ル) 簡野 道明 全四冊 明治書院
- 一 女子漢文教科書 (右女子ニ限ル)
- 一 歷史科
- 一 修正本邦史綱 峯岸 米造 全二冊 六盟館
- 一 中等教科東洋史略 伊東 尾四郎 全一冊 富山房
- 一 西洋歷史教科書 棚橋 一郎外二名 全一冊 田沼書店
- 一 國定小學校教科用歷史
- 一 地理科
- 一 最近統合帝國地理(師範學校用) 山上 萬次郎 全一冊 大日本圖書株式會社
- 一 最近統合外國地理(師範學校用) 全 全二冊 全
- 一 最近統合地文學(師範學校用) 全 全一冊 全
- 一 國定小學校教科書地理

- 一 數學科
- 一 商業簿記小教科書 佐野 善作 全一冊 同文館
- 一 訂立體幾何學教科書 (右男子ニ限ル) 高橋 豐夫 全一冊 學海指針社
- 一 算術教科書 藤澤 利喜太郎 全二冊 大日本圖書株式會社
- 一 平面幾何學教科書 (右男子ニ限ル) 高橋 豐夫 全一冊 普及舍
- 一 代數學教科書 (右男子ニ限ル) 高橋 豐夫 全一冊 普及舍
- 一 幾何學初步教科書 (右男子ニ限ル) 菊池 大麓 全一冊 大日本圖書株式會社
- 一 幾何學初步教科書 (右女子ニ限ル)
- 一 國定小學校教科用算術書尋常科用高等科用 物理化學科(男子ニ限ル)
- 一 中等物理學 後藤 福彌太 全一冊 大日本圖書株式會社
- 一 普通教育化學教科書 根岸 福彌平 全一冊 開成館
- 一 普通教育植物學教科書 (男子ニ限ル) 植 物 科 全一冊 開成館
- 一 普通教育動物學教科書 箕作 健吉 全一冊 開成館

新撰植物學教科書	藤井健次郎	全一冊	開成館
新撰生理衛生教科書	吳秀三	全二冊	同
新撰鑛物學教科書	脇水鐵五郎	全一冊	同
理科(女子ニ限ル)			
女子生物界教科書植物界	出田新吉	全一冊	集成堂
女子生物界教科書動物界	出田新吉	全一冊	同
女子埋科物理科	美田美田	全一冊	同
女子埋科化學及鑛物	美田美田	全一冊	同
女子理科生理衛生教科書	堀田三太郎	全一冊	同
家事科(女子ニ限ル)			
增訂家事教科書	後閑菊野	全二冊	目黒甚七
裁縫教科書	佐方鎮子	全二冊	全
裁縫教授法	谷田部順子	全一冊	全
習字科			
新撰中等習字帳	日高秩父	全三冊	櫻井庄七
國定小學校教科用習字手本尋常科高等科用			
圖畫科			
中學校圖畫教科書	圖書教育會	全九冊	鍾美堂

新撰用器畫法	平瀬作五郎	全三冊	金港堂
國定小學校教科用圖畫尋常科用高等科用			
音樂科			
小學唱歌集文部省	全三冊		
中等唱歌集	東京音樂學校	全一冊	東京音樂學校
近世樂典教科書	田村虎藏	全一冊	開成館
オルガン教科書	田村虎藏	全一冊	同
體操科			
體操教範陸軍省(男子ニ限)	全一冊		
步兵操典陸軍省(男子ニ限)	全一冊		
各個演習教程附體操摘要	井口あゝ	全一冊	元々堂
小學校體操教科書	坪井兒	全一冊	大日本圖書株式會社
英語科			
英語讀本神田乃武	全五冊		
中等文典神田乃武	全一冊		三省堂
高等文典神田乃武	全一冊		同
新習字帳神田乃武	三冊(三、四、五)		同
手工科			

一 手工教授書	榎山源太	一冊	寶文館
一 普通木工教科書	岡山秀吉	一冊	金港堂
一 文部省小學校教師用手工教科書			
商業科			
一 商業綱要	坂本陶一	全一冊	同文館
一 最近商業簿記教科書	西田常雄	全一冊	三省堂
一 商業書翰文教科書	岡田量平	全二冊	同省堂
一 最新商品教科書	右館市太郎	全一冊	東京實業之日本社
一 文部省小學校教師用商業教科書			
農業科			
一 農業原論	横井木祐太郎	全一冊	興文社
一 林學教科書	横井木祐太郎	全一冊	中外圖書株式會社
一 農學大全	横井時敬	全一冊	博文館
一 文部省小學校教師用農業教科書			
一 文部省小學校教師用農業教科書			
法制經濟科			
一 法制教科書	山内村正光	全一冊	寶文館
一 經濟教科書	山内村正光	全一冊	寶文館
一 小學校准教員			

修身科			
一 教育勅語修身要義	和田豐	全一冊	同文館
一 師範學校修身教科書	吉田靜致	(一、二、三)	寶文館
一 普通禮法	矢島錦造	全一冊	文藝學社
一 女子作法書	後方鎮野	全二冊	目黒甚七
一 國定小學校教科用修身書尋常科用高等科用			
教育科			
一 普通教育學	小泉又一	全一冊	大日本圖書株式會社
國語科			
一 新撰國文典	吉田彌平	全一冊	松邑三松堂
一 中等教科明治讀本	小賀文一	第一ヨリ	富山房
一 國定小學校教科用讀本及習字手本尋常科高等科用		第八迄	
算術科			
一 算術教科書	藤澤利喜太郎	全二冊	大日本圖書株式會社
一 國定小學校教科用算術書尋常科用高等科用			
歷史科			
一 修正日本史綱	岡部精一	二冊	六盟館
一 國定小學校教科用日本歷史			

地理科

- 一 最近統合帝國地理 山上 萬次郎 全一冊 大日本圖書株式會社
- 一 最近統合外國地理 全二冊 全
- 一 國定小學校教科用地理書 山上 萬次郎 全一冊 大日本圖書株式會社
- 一 最近統合地文學(師範學校用) 同上 萬次郎 全一冊 大日本圖書株式會社
- 理 科
- 一 初等理化教科書 田尻 卓郎 全一冊 開成館
- 一 博物學綱要 池田 尻 全一冊 開成館
- 一 圖書科 齊藤 菊六 全一冊 元々堂
- 一 中學校圖書教科書 教育會 第二學年分 六冊 鍾美堂
- 一 新撰用器書法 平瀬 作五郎 全三冊 金港堂
- 一 國定小學校教科用圖書手本尋常科高等科用 同上 作五郎 全三冊 金港堂
- 唱 歌 科
- 一 小學唱歌集文部省 第二編 二冊 開成館
- 一 近世樂典教科書 田村 虎藏 一冊 開成館
- 一 オルガン教科書 田村 虎藏 全一冊 同文館
- 體 操 科
- 一 小學校本科正教員ニ同シ

裁縫科

- 一 裁縫教科書 谷田 部順子 全二冊 目黒甚七
- 一 裁縫教授法 全一冊 全
- 手 工 科
- 一 手工教授書 棚橋 源太 全一冊 寶文館
- 一 普通木工教科書 岡山 秀吉 全一冊 金港堂
- 一 小學校手工教科書教師用文部省 同上 秀吉 全一冊 金港堂
- 農 業 科
- 一 農業原論 横井 時敬 全一冊 興文社
- 一 林學教科書 佐々木 祐太郎 全一冊 興文社
- 一 農學大全 本田 靜六 全一冊 中外圖書株式會社
- 一 小學校農業教科書文部省 横井 時敬 全一冊 博文館
- 尋常科本科正教員
- 修 身 科
- 一 國民教育憲法大意 穂積 八束 全一冊 有斐閣
- 一 教育勅語修身要義 和方 鎮子 全一冊 同文館
- 一 女子作法書 佐野 鎮子 全五冊 目黒甚七
- 一 普通禮法 後島 錦造 全一冊 文學社



- 一 國定小學校教科用修身書尋常科用高等科用
  - 教育科
    - 一 教育的心理學 高島平三郎 全一冊 須永和三郎
    - 一 普通教育學 小泉又一 全一冊 大日本圖書株式會社
    - 一 法規適用學校管理法 柴崎鉄吉 全一冊 大葉久吉
    - 國語科
      - 一 中等教科明治讀本 芳賀矢一 第一ヨリ 富山房
      - 一 國定小學校教科用讀本尋常科用高等科用 吉田彌平外二名 全四冊 松邑三松堂
      - 一 三訂國文教科書 歷史科
        - 一 小學校准教員ニ同シ
        - 地理科
          - 一 小學校准教員ニ同シ
          - 數學科
            - 一 小學校准教員算術ニ同シ
            - 理科
              - 一 小學校准教員ニ同シ
              - 習字科
                - 一 小學校准教員ニ同シ

- 一 小學校本科正教員ニ同シ
  - 圖書科
    - 一 小學校准教員ニ同シ
    - 唱歌科
      - 一 小學唱歌集文部省 初第二編 二冊 田村虎藏 一冊 開成館
      - 一 近世樂典教科書 體操科
        - 一 小學校准教員ニ同シ
        - 裁縫科
          - 一 小學校准教員ニ同シ
          - 尋常小學校准教員
            - 修身科
              - 一 教育聖諭教本 湯原元一 全一冊 金港堂
              - 一 國定小學校教科用修身書尋常科用高等科用
                - 教育科
                  - 一 小學校准教員ニ同シ
                  - 國語科
                    - 一 中等教育明治讀本 芳賀矢一 第一ヨリ 第六マテ 富山房

- 一新撰國文典 吉田彌平 全二冊 松邑三松堂
- 一國定小學校教科用讀本及習字手本尋常科用高等科用 小山左文二
- 算術科 藤澤利喜太郎 全二冊 大日本圖書株式會社
- 一算術小教科書
- 一國定小學校教科用算術書尋常科用高等科用 歷史地理科
- 一國定小學校教科用日本歷史及地理
- 一日本史教科書 藤岡作太郎 全二冊 開成館
- 一講習用書地理篇 西田與四郎 全一冊 寶文館
- 理科 佐藤禮介 一冊 六盟館
- 一改訂理科教科書理化篇 根岸福彌
- 一同 上博物篇
- 圖書科 井口安太郎 元々堂
- 一國定小學校教科用圖書尋常科用高等科用
- 唱歌科 井口安太郎 元々堂
- 一國定小學校唱歌集文郎省 初篇 一冊
- 體操科 井口安太郎 元々堂
- 一各個演習教程附體操適要

- 一 小學校體操教科書 可坪井立徳 全一冊 大日本圖書株式會社
  - 圖書科 小學校專科正教員圖書科
  - 音樂科
  - 體操科
  - 裁縫科
  - 手工科
  - 英語科
  - 商業科
  - 農業科
- 以上各科トモ小學校本科正教員ニ同シ

○小學校專科正教員出願者普通學力檢定方

明治三十六年一月二十四日 愛媛縣告示第三十五號

小學校令施行規則第一百十條第三項ニ依リ小學校專科正教員出願者ノ普通ノ學力ハ自今左記ノ方法ニ依リ檢定ス

圖書音樂體操裁縫手工農業商業英語ノ一科目若クハ數科目志願者ニ對シテハ尋常小學校准教員ノ試驗程度ニ據リ左記學科ノ試驗ヲ行フ

修身 國語 算術

但尋常小學校准教員以上ノ資格ヲ有スル者又ハ四ケ年程度ノ高等小學校卒業生及公立中學校公立高等女學校第二學年修業以上ノ者ハ右試験ヲ行ハス  
前項但書ノ中後段該當者ハ檢定願書ニ學校長ノ証明書ヲ添付スルヲ要ス

◎加俸及恩給

○市町村立小學校教育費國庫補助法

明治三十三年三月十五日  
法律第六十三號

第一條 市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲國庫ハ毎年豫算ヲ以テ定ムル所ノ金額ヲ支出ス  
第二條 前條ノ補助金ハ市町村立小學校教員ノ年功加俸及市町村立尋常小學校教員ノ特別加俸ニ充ツ其ノ加俸ニ關スル方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（明治三十三年勅令第三百三十三號ヲ以テ市町村立小學校教員加俸令公布）  
第三條 第一條ノ補助金ハ學齡兒童數及就學兒童數ノ和ニ比例シテ之ヲ北海道廳及府縣ニ配賦ス北海道廳及沖繩縣ノ配賦金ハ文部大臣之ヲ管理シ其ノ他ハ之ヲ府縣ニ下付スヘシ

附 則

第四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五條 市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法及小學校教育費國庫補助法ハ之ヲ廢止ス

第六條 本法施行ノ際市町村立小學校教員年功加俸國庫補助法ニ依リ現ニ年功加俸ヲ受クル者ニ  
公同ニ學校ニ勤績スル間仍其ノ加俸ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ本法ニ依リ年功加俸ヲ受クル

者ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ支給スル金額ハ第三條ノ配賦金ヨリ支出ス

○市町村立小學校教育費國庫助法第二條第一項ノ學齡兒童數

及就學兒童數算出方

明治三十五年三月二十九日  
文部省令第七號

市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第一項ノ學齡兒童數及就學兒童數ハ補助金ヲ配賦スヘキ  
年ノ前年三月ニ於ケル現在數ニ依ルモノトス

○市町村立小學校教員加俸令

明治三十三年三月三十日  
勅令第三百三十三號

第一條 沖繩縣ヲ除クノ外府縣ハ市町村立小學校教育費國庫補助法第三條第二項ノ下付金ヲ以テ

市町村立小學校教員加俸資金トナシ特別會計ヲ設置スヘシ  
前項ノ資金ハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第二條 市町村立小學校教員加俸資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第三條 市町村立小學校本科教員ニシテ五箇年以上同一府縣内ノ市町村立小學校ニ勤績シ地方長  
官ニ於テ成績佳良ナリト認メタル者ニハ年功加俸ヲ給ス  
年功加俸ハ正教員ニ在リテハ年額二十四圓トシ准教員ニ在リテハ年額十八圓トス但シ年功加俸

ヲ受ケタル後勤績年數五箇年ヲ加フル毎ニ正教員ニ在リテハ年額十八圓ヲ加ヘ准教員ニ在リテハ年額十二圓ヲ加フルコトヲ得

第四條 兵役ニ服スル爲其職務ヲ去リタル者兵役ヲ終リタル後十九日以内更ニ就職シタルトキハ前後ノ在職年數ヲ勤績年數ニ通算ス學校ノ廢止若ハ學校編制ノ變更ニ因リ退職シタル者六十日以内更ニ就職シタルトキ亦同シ

第五條 師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤績年數ニ通算ス

第六條 年功加俸ヲ受クル者懲戒處分ヲ受ケタルトキ又ハ地方長官ニ於テ成績佳良ナラスト認メタルトキハ年功加俸ヲ支給セス

第七條 市町村立尋常小學校本料正教員ニシテ單級學校ニ勤務スル者ニハ年額二十四圓以下ノ特別加俸ヲ給ス其ノ僻陬ノ地ニ在ル多數學校ニ勤務スル者ニハ地方長官ニ於テ必要ト認メタルトキハ年額十八圓以下ノ特別加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 小學校令ヲ施行セサル地方ニ於ケル訓導及訓導ノ資格アル學校長ハ本令ニ於テハ本科正教員ト看做ス

第九條 市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

附 則

第十條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給ヲ受クル者ニシテ本令第三

條第一項ニ依リ年功加俸ヲ受ケ其ノ額同法ニ依リ受クル額ヨリ寡キトキハ同一學校ニ勤績スル間其ノ差額ヲ加給ス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

明治三十三年十月二日 法律第九十號

第一條 市町村立小學校ノ正教員ハ此法律ノ規定ニ從ヒ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在職滿十五年以上ノ者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ終身退隱料ヲ給ス

一 年額六十歲ヲ超ヘ退職ヲ命シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

三 廢校ニ依リ退職シ又ハ學校編制ノ變更ニ依リ退職ヲ命シタルトキ

第三條 左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退隱料ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マテノ増加退隱料ヲ給ス

一 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

二 職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘサルカ爲退職ヲ命シタルトキ

第四條 退隱料ノ年額ハ退職現時ノ俸給ト在職年數トニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ定ム但シ在職四十年

以上ノ者ニ給スヘキ退職料ハ四十年ノ額トス(明治四十年法律第四) 前項ニ依リ退職料年額ヲ定ムルハ十五年以上官立公立小學校ニ勤績シタル者ニ退職料ヲ支給スル場合ニ限ル其他ノ場合ニ於テハ官吏恩給法第五條ヲ準用ス

退職料ヲ受クル者前ニ退職給與金ヲ受ケタルトキハ最初ノ十年間其ノ退職給與金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ退職料年額ヨリ控除ス

兼職ニ依リテ受クル加俸ハ退職料年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

第四條ノ二 退職料ヲ受クル者公立學校職員、公立圖書館職員、小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保母、在外指定學校職員又ハ教育事務ニ従事スル文官ト爲リタル後滿一年以上ニシテ退職又ハ退官シタルトキハ前後ノ在職在官年數ヲ通算シ後職又ハ後官ニ對スル退職料ト前ノ退職料トヲ比較シ其ノ額多キ方ヲ給ス(同上)

前項ノ場合ニ於テ本法ニ依ル退職料額カ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法、明治二十九年法律第十三號又ハ在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法ニ依ル退職料額ニ比較シ多キトキハ其退職料ハ本法ニ依リ之ヲ支給スルモノトス

第四條ノ三 官吏恩給法第六條、第十條、第十二條第一項及第十三條第二項ハ退職料ニ之ヲ準用ス(同上)

退職料等ノ支給上在職年數ノ算定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 (明治三十二年法律第八十) 九號ヲ以テ第一項ヲ削除ス

退職料ヲ受クル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其間退職料ノ支給ヲ停止ス

但シ第一號ノ場合ニ於テハ其ノ差額ニ限リ支給ヲ停止ス(明治四十年法律第四)

一 公務ニ就キ受クル給料ト退職料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキ

二 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキ

三 公權ヲ停止セラレタルトキ(同上本項改正)

第六條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若クハ失職ニ該當シタル者ハ退職料ヲ受クルノ資格ヲ失フモノトス

第七條 市町村立小學校ノ准教員ハ職務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ第三條ニ該當スルモノニ限リ退職現時ノ給料四分ノ一ノ退職料ヲ終身給與ス

第八條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル市町村立小學校正教員ニハ退職現時ノ給料半箇月分ヲ以テ在職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金員ヲ一時給與ス但休職滿期ニ依リ退職シタル者ハ其本職最終ノ給料額ニ依リ之ヲ給與ス

市町村立小學校正教員ニシテ教育事務ニ従事スル文官又ハ他ノ待遇文官ニ轉任シタル者退官又ハ退職シタルトキハ小學校教員ノ在職年數ニ應シ前項ノ給與金ヲ給ス(明治四十年法律第四)

第二條若ハ第三條ニ依リ退職料ヲ受クルモノ他ノ法律ニ依リ退職料若ハ恩給ヲ受クル者、自己ノ便宜ニ依リ退職退官シタル者又ハ免職ニ處セラレ、懲戒處分若ハ刑事裁判ニ依リ免官セラレ若ハ失職ニ該當シタル者ハ前二項ノ限ニ在ラス(同上)

本條ノ退職給與金ヲ受ケタル者市町村立小學校正教員ニ再任シ爾後退職シタルトキハ第一項ノ在職年數ハ再任ノ日ヨリ之ヲ起算ス(同上)

第九條 退隱料ノ支給及第八條ノ給與ハ府縣知事之ヲ裁定ス(上同)

官吏恩給法第十六條及第十八條ハ退隱料ニ適用ス

第十條 市町村立小學校正教員左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定ニ從ヒ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス

一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ

二 在職十五年未滿ノ者職務ノ爲死去シタルトキ

三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ

第十一條 官吏遺族扶助法第四條乃至第十條第十二條乃至第十六條ハ此法律ニ規定スル扶助料ニ適用ス(同上本)

官吏遺族扶助法第十一條ハ此法律ニ規定スル扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未滿又ハ癱疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキ場合ニ適用ス

第十二條 在職十五年未滿ノ市町村立小學校正教員在職中職務ノ故ニアラズシテ死去シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ退職給與金ノ額ト同額トス(明治四十年法律第四十七號ヲ以テ改正)

第十三條 扶助料及扶助金ノ支給並第十一條第二項ノ給與ハ市町村長ノ申牒ニ依リ府縣知事之ヲ裁定ス(上同)

第十四條 府縣ハ小學校教員恩給基金ヲ備フヘキモノトス

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一ニ當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

兼職ニ係ル加俸ニ對シテハ本條ノ納金ヲ要セス(上同)

本條第二項ノ納金ハ府縣小學校教員恩給基金ト爲スヘシ(上同)

恩給基金ハ其利子ヲ以テ退隱料扶助料法第八條及第十一條第二項ノ給與ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ニ依リ各府縣ニ於テ收入シタル納金額二分ノ一ニ當ル金員ヲ收入年度ノ翌々年度毎ニ國庫ヨリ府縣ニ給與スルモノトス(上同)

退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ハ恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘキモノトス

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治二十五年文部省令第一二號ヲ以テ支給規則公布)

恩給基金ノ管理並退隱料扶助料扶助金第八條及第十一條第二項ノ給與ノ支給等ニ關スル費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第十五條 此法律中第一條乃至第十三條ハ明治二十六年度ヨリ第十四條ハ明治二十五年年度ヨリ之ヲ施行ス

第十六條 府縣制郡制又ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ此法律ノ條規ニ對シ特例ヲ設クルコトヲ必要トスルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治二十四年勅令第二百四十八號ヲ以テ特例公布)

(備考) 明治三十二年法律第八十九號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行  
 附 則

本法施行前退職料ヲ受ケタル者ニシテ本法施行後再市町村立小學校教員ト爲リ在職三年以上ニ至  
 ラスシテ退職シタル者ニハ仍從前ノ規定ヲ適用ス (明治四十年法律第四  
 十七號ヲ以テ追加)  
 (別表)

市町村立小學校教員退職料表

| 在職年數 | 給料   |      |
|------|------|------|
|      | 百圓以上 | 百圓以下 |
| 二十五年 | 二二五  | 一九五  |
| 二十六年 | 二二三  | 一九三  |
| 二十七年 | 二二〇  | 一九〇  |
| 二十八年 | 二一八  | 一八八  |
| 二十九年 | 二一五  | 一八五  |
| 三十年  | 二一三  | 一八三  |
| 三十一  | 二一〇  | 一八〇  |
| 三十二  | 二〇八  | 一七八  |
| 三十三  | 二〇五  | 一七五  |
| 三十四  | 二〇三  | 一七三  |
| 三十五  | 二〇〇  | 一七〇  |
| 三十六  | 一九八  | 一六八  |
| 三十七  | 一九五  | 一六五  |
| 三十八  | 一九三  | 一六三  |
| 三十九  | 一九〇  | 一六〇  |
| 四十   | 一八八  | 一五八  |
| 四十一  | 一八五  | 一五五  |
| 四十二  | 一八三  | 一五三  |
| 四十三  | 一八〇  | 一五〇  |
| 四十四  | 一七八  | 一四八  |
| 四十五  | 一七五  | 一四五  |
| 四十六  | 一七三  | 一四三  |
| 四十七  | 一七〇  | 一四〇  |
| 四十八  | 一六八  | 一三八  |
| 四十九  | 一六五  | 一三五  |
| 五十   | 一六三  | 一三三  |
| 五十一  | 一六〇  | 一三〇  |
| 五十二  | 一五八  | 一二八  |
| 五十三  | 一五五  | 一二五  |
| 五十四  | 一五三  | 一二三  |
| 五十五  | 一五〇  | 一二〇  |
| 五十六  | 一四八  | 一一八  |
| 五十七  | 一四五  | 一一五  |
| 五十八  | 一四三  | 一一三  |
| 五十九  | 一四〇  | 一一〇  |
| 六十   | 一三八  | 一〇八  |
| 六十一  | 一三五  | 一〇五  |
| 六十二  | 一三三  | 一〇三  |
| 六十三  | 一三〇  | 一〇〇  |
| 六十四  | 一二八  | 九八   |
| 六十五  | 一二五  | 九五   |
| 六十六  | 一二三  | 九三   |
| 六十七  | 一二〇  | 九〇   |
| 六十八  | 一一八  | 八八   |
| 六十九  | 一一五  | 八五   |
| 七十   | 一一三  | 八三   |
| 七十一  | 一一〇  | 八〇   |
| 七十二  | 一〇八  | 七八   |
| 七十三  | 一〇五  | 七五   |
| 七十四  | 一〇三  | 七三   |
| 七十五  | 一〇〇  | 七〇   |
| 七十六  | 九八   | 六八   |
| 七十七  | 九五   | 六五   |
| 七十八  | 九三   | 六三   |
| 七十九  | 九〇   | 六〇   |
| 八十   | 八八   | 五八   |
| 八十一  | 八五   | 五五   |
| 八十二  | 八三   | 五三   |
| 八十三  | 八〇   | 五〇   |
| 八十四  | 七八   | 四八   |
| 八十五  | 七五   | 四六   |
| 八十六  | 七三   | 四四   |
| 八十七  | 七〇   | 四二   |
| 八十八  | 六八   | 四〇   |
| 八十九  | 六五   | 三八   |
| 九十   | 六三   | 三六   |
| 九十一  | 六〇   | 三四   |
| 九十二  | 五八   | 三二   |
| 九十三  | 五五   | 三〇   |
| 九十四  | 五三   | 二八   |
| 九十五  | 五〇   | 二六   |
| 九十六  | 四八   | 二四   |
| 九十七  | 四六   | 二二   |
| 九十八  | 四四   | 二〇   |
| 九十九  | 四二   | 一八   |
| 一百   | 四〇   | 一六   |

|      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |    |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 二十一年 | 二七四 | 二二六 | 二二九 | 二〇二 | 一八三 | 一六五 | 一四六 | 一三四 | 一二六 | 一〇三 | 八八  | 七三  | 五九 |
| 二十二年 | 二八五 | 二四七 | 二三六 | 二〇九 | 一九〇 | 一七一 | 一五二 | 一三九 | 一二二 | 一〇七 | 九二  | 七六  | 六二 |
| 二十三年 | 二九七 | 二五七 | 二三七 | 二二八 | 一九九 | 一七八 | 一五八 | 一四四 | 一二六 | 一一一 | 九五  | 七九  | 六四 |
| 二十四年 | 三〇八 | 二六七 | 二四六 | 二三六 | 二〇五 | 一八五 | 一六四 | 一四九 | 一二八 | 一一五 | 九九  | 八二  | 六六 |
| 二十五年 | 三一九 | 二七七 | 二五五 | 二三四 | 二二三 | 一九二 | 一七〇 | 一五六 | 一三六 | 一二九 | 一一〇 | 八五  | 六八 |
| 二十六年 | 三三四 | 二九〇 | 二六七 | 二四五 | 二三三 | 二〇二 | 一七八 | 一六三 | 一四二 | 一二四 | 一〇七 | 八九  | 七二 |
| 二十七年 | 三四九 | 三〇三 | 二七九 | 二五六 | 二三三 | 二一〇 | 一八六 | 一七〇 | 一四八 | 一二九 | 一一二 | 九三  | 七五 |
| 二十八年 | 三六四 | 三一六 | 二九二 | 二六七 | 二四三 | 二一九 | 一九四 | 一七七 | 一五四 | 一三四 | 一二七 | 九七  | 七八 |
| 二十九年 | 三七九 | 三二九 | 三〇三 | 二七八 | 二五三 | 二二六 | 一九四 | 一八〇 | 一六〇 | 一四〇 | 一二三 | 一〇二 | 八一 |
| 三十年  | 三九四 | 三四二 | 三二五 | 二八九 | 二六三 | 二三七 | 二〇〇 | 一九三 | 一六六 | 一四五 | 一二六 | 一〇五 | 八四 |
| 三十一年 | 四〇三 | 三五六 | 三三〇 | 三〇三 | 二七五 | 二四八 | 二一〇 | 二〇三 | 一七四 | 一五三 | 一二八 | 一〇八 | 八六 |
| 三十二年 | 四三三 | 三七四 | 三四五 | 三二七 | 二八八 | 二五九 | 二三〇 | 二二二 | 一八三 | 一五八 | 一三三 | 一一五 | 九二 |
| 三十三年 | 四四〇 | 三九〇 | 三六〇 | 三三〇 | 三〇〇 | 二七〇 | 二四〇 | 二三〇 | 一九〇 | 一六六 | 一四四 | 一二〇 | 九六 |

|      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 三十四年 | 四六九 | 四〇七 | 三七五 | 三四四 | 三三三 | 二六二 | 二五〇 | 三三八 | 一九八 | 一九三 | 一五〇 | 一四五 | 一〇〇 |
| 三十五年 | 四八八 | 四三三 | 三九〇 | 三五八 | 三五五 | 二九三 | 二六〇 | 二三七 | 二〇六 | 一九〇 | 一五六 | 一三〇 | 一〇四 |
| 三十六年 | 五〇  | 四四二 | 四〇八 | 三七四 | 三四〇 | 三〇六 | 二七三 | 二四八 | 二二五 | 一八六 | 一六四 | 一三六 | 一〇九 |
| 三十七年 | 五五五 | 四六二 | 四二六 | 三九一 | 三五五 | 三三〇 | 二八四 | 二五九 | 二三四 | 一九六 | 一七二 | 一四二 | 一一四 |
| 三十八年 | 五五五 | 四八一 | 四四四 | 四〇七 | 三七〇 | 三三三 | 二九六 | 二七〇 | 二三三 | 二〇四 | 一七六 | 一四八 | 一一九 |
| 三十九年 | 五七六 | 五〇二 | 四六二 | 四三四 | 三八五 | 三四七 | 三〇八 | 二八二 | 二四三 | 二二三 | 一九五 | 一五四 | 一二四 |
| 四十年  | 六〇〇 | 五二〇 | 四八〇 | 四四〇 | 四〇〇 | 三六〇 | 三三〇 | 二九二 | 二五二 | 二二〇 | 一九二 | 一六〇 | 一二六 |

○公立學校職員退隱料等ニ關スル規定

明治二十九年三月二十三日  
法律第十十三號

第一條 明治二十三年法律第九十號ハ第十五條ヲ除キ公立實業補習學校ノ教員及小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保母ニ適用シ同年法律第九十一號ハ第一條及第二十條ヲ除キ公立ノ高等女學校專門學校實業學校（實業補習學）及其ノ他ノ公立學校ノ學校長教員舍監及書記並公立圖書館ノ館長、司書及書記ニ適用ス（明治三十二年法律第九十一號同三十九年）  
第二條 明治二十三年法律第九十號第二條及同年法律第九十一號第三條ハ非職又ハ休職滿期ニヨリ退職シ及校務ノ伸縮ニ依リ退職ヲ命シタル場合ニモ適用ス

退隱料ハ本職最終ノ俸額ニ依リ之ヲ算定ス

第三條 明治二十三年法律第九十號同年法律第九十一號及此ノ法律ニ依リ退隱料等ヲ受クヘキ學校長圖書館長正教員司書保母舍監及書記ノ在職年數ハ各公立學校及圖書館ノ間ニ於テハ之ヲ通算ス（明治三十九年法律第三十號同）  
第四條 府縣立師範學校長タリシ者他ノ文官トナリ若クハ他ノ文官タリシ者府縣立師範學校長ト爲リタルトキハ其ノ在官年月數ハ明治二十三年法律第九十一號及官吏恩給法ニ於テハ各其ノ規定スル所ニ依リ其ノ在職年數中ニ通算スヘキモノトス

第四條ノ二 學校長圖書館長正教員保母舍監又ハ書記タリシ者教官其ノ他教育事務ニ従事スル文官ト爲リタルトキ若ハ教官其他教育事務ニ従事スル文官タリシ者學校長正教員司書保母舍監又ハ書記ト爲リタルトキハ各其ノ在官在職年數ヲ通算シ明治二十三年法律第九十號及同年法律第九十一號ノ退隱料扶助料扶助金ヲ受クルコトヲ得（明治三十九年法律第三十號同）  
第四條ノ三 同一人ニシテ國庫ヨリ公立學校職員退隱料及官吏恩給又ハ軍人恩給（賑恤金、扶助金）若ハ同一ノ事由ノ爲メ公立學校職員遺族扶助料及官吏遺族扶助法又ハ軍人恩給法ニ依レル扶助料ヲ併セ受クヘキ者アルトキハ本人ノ所擇ニ任セ其ノ一ヲ給ス（明治三十二年法律第九十一號ヲ以テ改正）

附 則

第五條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

公立圖書館職員ノ在職年數ハ退隱料、退職給與金、扶助料及扶助金ノ支給ニ關シテハ明治三十



二年十一月以降就職ノ月ヨリ之ヲ起算ス (明治四十年法律第)

(備考) 明治四十年法律第一號ヲ以テ改正追加ノ條項ハ同年十月一日ヨリ施行

(參照) 明治二十三年法律第九十號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、法律第九十一號ハ府縣立師範學校長俸

給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ナリ

○公立學校職員退隱料等ニ關スル法律施行方

明治三十二年五月十六日 勅令第二百一十一號

第一條 明治二十九年法律第十三號ニ於ケル正教員准教員ノ別左ノ如シ

一 公立實業補習學校ニ於テハ訓導及訓導ノ資格アル學校長ヲ以テ正教員トシ准訓導ヲ以テ准教員トス

二 公立ノ高等女學校專門學校實業學校(實業補習學校)其ノ他ノ公立學校ニ於テハ教諭助教諭訓導ヲ以テ正教員トシ其ノ他ノ教員ヲ以テ准教員トス

第二條 明治二十九年法律第十三號ニ於テ通算スルコトヲ得ヘキ文官ノ種類左ノ如シ

一 官立ノ學校及圖書館職員  
二 文部省官吏

三 教育事務ニ從事スル北海道府縣郡區島廳並臺灣總督府縣廳辨務署官吏(明治三十二年勅令第四百三十二號ヲ以テ本號改正)

第三條 前條ニ掲グルル文官ノ在官年數ノ公立學校職員ノ在職年數ト通算スル場合ニ於テ算入又ハ除算スヘキ年數ハ官吏恩給法及官吏遺族扶助法ノ例ニ依ル

第四條 明治二十四年勅令第二百四十八號明治二十五年勅令第五號同年勅令第十八號同年勅令第

三十二號及明治三十二年勅令第九十六號ハ明治二十九年法律第十三號ノ施行ニ關シ特ニ規定スルモノヲ除クノ外之ヲ準用ス

附 則

第五條 明治二十九年勅令第九十九號ハ廢止ス

(參照)

明治二十四年勅令第二百八十號ハ府縣制部制又ハ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法及市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ施行ニ關スル件 同二十五年勅令第五號ハ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法納金收入規則 同年勅令第十八號ハ市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定ノ件 同年勅令第三十二號ハ府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ノ件 同三十二年勅令第九十六號ハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料等ニ於ケル學校職員ノ資格及其在職年數算定方ノ件 同二十九年法律第十三號ハ公立學校職員退隱料等ニ關スル件 同年勅令第九十九號ハ同年法律第十三號ニ於ケル學校職員ノ資格及同法律ノ施行ニ關スル件ナ

○公立學校職員退隱料等ニ於ケル法律ノ施行ニ關スル規定

明治三十二年五月十八日 文部省令第二十九號

明治二十九年法律第十三號ノ施行ニ關スル規定ヲ設クルコト左ノ如シ

第一條 國庫ヨリ他ノ退隱料又ハ恩給ヲ受クル者又ハ受クヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範

學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ退隱料若クハ恩給ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ

第二條 國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受ケタル者又ハ受ケヘキ權利ヲ有スル者ニシテ府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ請求スルトキハ同時ニ國庫ヨリ他ノ扶助料ヲ受ケサル旨ヲ請求書ニ記載スヘシ

第三條 教官其他教育事務ニ從事スル文官タリシ者ニシテ明治二十九年法律第十三號第四條ノ二ニ該當シ退隱料扶助料扶助金ヲ受ケヘキ者アルトキハ其前職ニ屬スル種類ノ退隱料扶助料扶助金ヲ支給ス

第四條 明治二十四年文部省令第七號同第二十四號明治二十五年文部省令第一號同第二號明治二十七年文部省令第三號ハ明治二十九年法律第十三號施行上之ヲ準用ス

第五條 明治二十九年文部省令第四號ハ廢止ス

（參照）

明治二十四年文部省令第七號ハ府縣小學校教員恩給基金管理規則、同年同第二十四號ハ小學校令及同令中教員ニ關スル條規ヲ施行セサル地方ニ於ケル市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法施行上正教員准教員ノ區別ノ件、同二十五年同第一號ハ公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則、同年第二號ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則、同二十七年同第三號ハ市町村立小學校廢止ノ際在職ノ教員即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラレトキハ勤續スルノ件、明治二十九年法律第十三號ハ公立學校職員退隱料等ニ關スル件、明治二十九年文部省令第四號ハ同年法律第十三號ノ施行ニ關シ現行ノ文部省令適用ノ件ナリ

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十五年二月十日 文部省令第二號

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一章 退隱料ノ請求

第一條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第二條第三條第四條第七條ニ依リ退隱料ヲ受ケヘキ者ハ退隱料請求書ヲ作り退職ノ際勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ（明治四十年十四號ヲ以テ改正）

第二條 退隱料請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ  
一 在職中ノ履歷書  
二 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本但市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第七條ニ掲ケタル者ハ之ヲ要セス（明治三十二年文部省令第二十八號ヲ以テ改正）

第三條 職務ニ依リ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケタル書類ノ外尙左ノ書類ヲ添付スヘシ官吏恩給法第六條ヲ適用スヘキ者亦同シ  
一 現認證書若クハ事實ヲ證スル公文ノ寫又ハ口供書  
一 醫師ノ診斷書

第四條 退隱料請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ退隱料

證書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ但退隱料増加ノ爲更ニ退隱料證書ヲ交付スルトキハ前ニ交付シタル證書ヲ返納セシムヘシ(明治四十年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

第五條 府縣知事ニ於テ前條ノ請求其理由ナシト認ムルトキハ理由ヲ示シ之ヲ本人ニ通告スヘシ(明治四十年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

第六條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第八條第一項ニ依リ給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職中ノ履歷書ヲ添へ最終ノ際勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ差出スヘシ(同上) 府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ(同上)

第二章 扶助料ノ請求

第七條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第十一條第一項第十二條ニ依リ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者ハ扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ作り退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在リテハ死者ノ最終勤務セシ小學校所屬府縣知事ニ退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族又ハ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ在テハ居住地ノ府縣知事ニ差出スヘシ(明治三十五年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

市町村長ハ其所屬市町村立小學校正教員遺族ノ扶助料又ハ扶助金ヲ受クヘキ者アルトキハ死者ノ履歷書ヲ調製シ之ヲ遺族ニ交付スヘシ(明治四十年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

第八條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ニハ戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本及左ノ書類ヲ添付スヘシ(同上)

一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第一第二第十二條ニ當ル者ノ請求書ニハ

府縣知事ヨリ交付セラレタル死者ノ履歷書(同上)

二 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十條第三ニ當ル者ノ請求書ニハ死者ノ退隱料證書

三 官吏遺族扶助法第四條第二項ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ傷痍若クハ疾病ノ職務ニ起因シタル證據書類醫師ヲシテ診察セシメタル片ハ其診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ遺族ニ在テハ本條第二ノ書類扶助料ヲ受クル者死去シ又ハ權利消滅シタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ扶助料證書

四 公權停止ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ノ請求書ニハ前者ノ確定裁判ノ宣告書寫

五 官吏遺族扶助法第十五條ヲ適用スヘキ者ノ請求書ニハ其事由ヲ詳記シタル書類醫師ノ診斷書及退隱料ヲ受ケスシテ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第一ノ書類退隱料ヲ受ケ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第二ノ書類公務ニ起因スル傷痍若クハ疾病ニ依リ死去シタル者ノ孤兒ニ在テハ本條第三ノ書類扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ孤兒ニ在テハ本條第四ノ書類

第九條 扶助料請求書又ハ扶助金請求書ヲ受ケタル府縣知事ハ事實ヲ取調請求ノ理由アリト認ムルトキハ扶助料ニ在リテハ扶助料證書扶助金ニ在リテハ辭令書ヲ作り之ヲ本人ニ交付スヘシ 前項ノ扶助料又ハ扶助金他ノ地方廳ニ於テ支給スヘキモノナルトキハ其請求書ヲ當該府縣知事ニ送付スヘシ(明治四十年文部省令第十四號ヲ以テ改正)

第十條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十一條第二項ニ掲ケタル給與金ノ請求等ハ

扶助金ノ例ニ依ルヘシ但癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ノ請求書ニハ醫師ノ  
診斷書ヲ添付スヘシ

第三章 退隱料扶助料ノ支給及停止

第十一條 退隱料支給ノ期ハ退職ノ翌月ヨリ始マリ死去ノ月ヲ以テ終ルモノトス  
退隱料及扶助料ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ支給スヘシ但權利消  
滅ノトキ及給與金扶助金ハ期日ニ拘ラス之ヲ支給スヘシ

第十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證  
書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第十三條 退隱料ヲ受クヘキ權利消滅シ若クハ停止セララルヘキ者ノ支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確定ノ日、日本臣タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失  
ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル(明治三十七年文部省令  
第二十一號ヲ以テ改正)

二 公務ニ就キ受クル給料ト退隱料トヲ合シタル金額退職現時ノ給料額ヲ超過スルトキハ其給  
料ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ其差額ノ支給ヲ停メ其給料ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨ  
リ支給ヲ復ス(明治四十年文部省令  
第十四號ヲ以テ改正)

三 五箇年以上受領ヲ怠リタルトキハ受領ヲ怠リタル支給期月ノ翌月ヨリ起算シ其怠リタル期  
ノ支給ヲ廢ス

四 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日  
ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス(同上  
改正)

第十四條 扶助料支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 日本臣タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ裁判確  
定ノ日ヲ以テ支給ヲ終ル(同上)

二 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ裁判確定ノ日  
ヲ以テ支給ヲ停メ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ復ス(同上)

三 公權停止中轉給ヲ受クヘキ者ノ支給ハ本人停止ノ翌日ヲ以テ始メ復給ノ前日ヲ以テ終ル  
第十五條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第三條ニ掲ケタル増加退隱料ノ等差ハ左ノ  
如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年太政官達第十六號文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第十六條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者他ノ市町村ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留  
シタル他ノ市町村長(市ノ區長カ戶籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ヲ經テ府縣知事ニ届出ヘシ  
他ノ府縣ニ轉籍若クハ寄留スルトキハ轉籍若クハ寄留シタル地ノ市町村長ヲ經テ退隱料又ハ扶

助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ

退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ハ每期支給スヘキ退隱料又ハ扶助料ヲ轉籍若クハ  
寄留シタル地ノ府縣知事ニ送付シ其支給方ヲ委託スルコトヲ得(明治四十年文部省令  
第十四號ヲ以テ改正)

第十七條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ又ハ公權ヲ停止セラレタルトキ  
ハ本籍市町村長(市ノ區長カ戸籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ヨリ退隱料又ハ扶助料ヲ支給ス  
ヘキ地ノ府縣知事ニ報告スヘシ

第十八條 退隱料ヲ受クル者有給ノ公務ニ就キタルトキハ當該官公署ノ證明ヲ得テ退隱料ヲ支給  
スヘキ府縣知事ニ届出ヘシ給料額ニ増減ヲ生シタル片其職ヲ罷メタル片亦同シ其届書ニハ職名  
給料額及給料ノ支給ヲ受クル最初ノ日罷職ノトキハ支給ヲ受クル最終ノ日ヲ附記スヘシ  
前項ノ届書ハ就職ノ場合ニ在リテハ就職ノ日ヨリ十四日以内給料額ニ増減ヲ生シタル場合ニ在  
リテハ増減ヲ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ差出ヘシ

附 則

本令ハ明治四十一年五月一日ヨリ之ヲ施行(明治四十一年四月三十日文  
部省令第十七號ヲ以テ改正)

第十九條 第十七條ノ場合ニ於テ扶助料ヲ受クヘキ者又ハ其轉給ヲ受クヘキ者ナキトキ又ハ退隱  
料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒ若クハ扶助料ノ支給ヲ廢スヘキ者ニ係ルトキハ本籍市町村長(市ノ區  
長カ戸籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ收メテ退隱料又ハ扶助  
料ヲ支給スヘキ地ノ府縣知事ニ送付スヘシ  
本人他ノ市町村ニ住居セル場合ニ於テハ該市町村長ニ委託シテ之ヲ收ムルコトヲ得

第四章 雜 則

第二十條 府縣知事ハ第四條又ハ第九條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ本人ニ交付スルト同  
時ニ之ヲ其本籍市町村長(市ノ區長カ戸籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ニ通知スヘシ

第二十一條 水火災盜難等ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ住居地ノ市町村長  
(市ノ區長カ戸籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ支給スヘキ地ノ府縣  
知事ニ届出ヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ調査シ退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本  
ヲ作り之ヲ交付スヘシ

前項退隱料證書又ハ扶助料證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第二十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ添  
ヘ住居地ノ市町村長(市ノ區長カ戸籍吏ノ事務ヲ行フ場合ニハ區長)ヲ經テ退隱料又ハ扶助料ヲ  
支給スヘキ地ノ府縣知事ニ届出ヘシ府縣知事ハ證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ署名捺印シテ之ヲ  
本人ニ交付スヘシ

第二十三條 此規則ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道ニ於テハ北海道廳長官之ヲ行ヒ市町村長  
ノ職務ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ島司郡區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘ  
シ

(教員退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ享害セラレタルモノハ救正方ニ關スル在職年數算定方)

○教員退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ權利ヲ障害セラレタルモノ、

救正方 明治二十五年四月二日 勅令第三十二號

府縣立師範學校及公立中學校ノ學校長正教員舍監書記並市町村立小學校正教員ノ退隱料又ハ遺族扶助料ニ關シ行政上ノ處分ニ依リ權利ヲ障害セラレタル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ文部大臣若クハ府縣知事ノ裁定ニ終審確定ノモノトス(明治二十五年勅令第九十八號ヲ以テ改正)

- 一 傷疾疾病ノ原因及其輕重
- 二 職務ニ堪ユルト否ヲサルト

○市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル在職年數算定方

明治二十五年二月八日 勅令第十八號

第一條 市町村立小學校教員退隱料等ノ支給上ニ關スル正教員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終リトス

第二條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ニ算入スヘシ

- 一 市町村立小學校正教員休職中ノ年數及月數
- 二 明治十四年六月以後市町村立小學校訓導ノ職ニ在リタル年數及月數

第三條 左ニ掲クル年數及月數ハ正教員在職年數ヨリ除算スヘシ

- 一 (明治三十二年勅令第九十七號ヲ以テ削除)
- 二 自己ノ便宜ニ依リ退職シタル者又ハ免職ニ處セラレ若ハ失職ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數(同上)
- 三 (同上)
- 四 恩給若クハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ市町村立小學校正教員ヲ兼ヌルトキハ其兼職中ノ年數及月數

○市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラ

ルルモノ、勤續方 明治二十七年二月十日 文部省令第三號

市町村立小學校廢止ノ際其ノ小學校教員ノ職ニ在ル者即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラレ、トキハ勤續者トス

○府縣小學校教員恩給基金管理規則 明治二十四年十月九日 文部省令第七號

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ニ基キ府縣小學校教員恩給基金管理規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

(市町村立小學校廢止ノ際即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラレタルモノハ勤續方)

(府縣小學校教員恩給基金管理規則)

府縣小學校教員恩給基金管理規則

- 第一條 小學校教員恩給基金ハ他ノ府縣有財産ト區分シテ之ヲ管理スヘシ
- 第二條 小學校教員恩給基金ハ現金又ハ國債府縣債證書ト爲スヘシ (明治三十九年文部省令第七號ヲ以テ改正)
- 現金、國債證書ハ大藏省預金ニ寄托スヘシ (上同)
- 第三條 當該年度ノ支出ニ充テタル小學校教員恩給基金ノ利子及國庫ノ給與金其他ノ收入ニシテ殘餘アルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ恩給基金ニ加入シ又ハ翌年度へ繰越スヘシ
- 第四條 小學校教員恩給基金ノ整理方法ハ特別ノ規定ナキモノハ總テ他ノ府縣有財産ノ例ニ依ル

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ノ納金收入規則地方

長官ニ於テ規定方

明治二十四年十月九日  
文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ納金收入ニ關スル規則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○小學校教員恩給國庫給與金豫算調書書式

明治三十二年五月十八日  
文部省訓令第六號

北海道廳 府縣

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依レル國庫給與金交付上

ニ關シ明治三十三年度分ヨリ左ノ書式ニ依リ毎年度豫算調書ヲ調製シ前年度五月三十一日限り當省へ差出スヘシ

明治二十六年文部省訓令第一號及第三號ハ廢止ス (書式)

明治何年度小學校教員恩給國庫給與金豫算調書

一金若干

小學校教員恩給國庫給與金

右ハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ前々年度即チ明治何年度ニ於テ實收シタル納金額若干ノ二分ノ一ニ當ル

右ノ通ニ候也

年月日

北海道廳長官何府縣知事 氏

名

文部大臣宛

(參照)

明治二十六年文部省訓令第一號ハ府縣沖繩縣ニ對スル市町村立小學校教員恩給國庫給與金豫算調書書式ノ件、同年同第三號ハ北海道廳及沖繩縣ニ對スル同上ノ件ナリ

○小學校教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル豫算表式

明治二十五年四月五日  
文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治二十三年十月法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依レル小學校教員恩給

ニ關スル翌年度豫算ハ左ノ表式ニ依リ毎年一月三十一日限本大臣ニ報告スヘシ但明治二十五年  
 收入豫算ハ本年五月三十一日限報告スヘシ (明治二十八年文部省訓 令第四號ヲ以テ改正)

明治何年度小學校教員恩給ニ關スル豫算表

| 小學校教員恩給基金 |             | 本年度豫算額 | 前年度豫算額 | 増比 | 減較 |
|-----------|-------------|--------|--------|----|----|
| 收入        | 區別          |        |        |    |    |
|           | 市町村立小學校教員納金 |        |        |    |    |
|           | 市町村納金       |        |        |    |    |
|           | 前年度歳入剩餘金繰入  |        |        |    |    |
| 合計        |             |        |        |    |    |
| 小學校教員恩給金  |             |        |        |    |    |
| 收入        | 區別          |        |        |    |    |
|           | 小學校教員恩給基金利子 |        |        |    |    |
|           | 國庫給與金       |        |        |    |    |
|           | 府縣費補充       |        |        |    |    |
|           | 前年度歳入剩餘金繰入  |        |        |    |    |
| 合計        |             |        |        |    |    |

| 支出之部 |              | 本年度豫算額 | 前年度豫算額 | 増比 | 減較 |
|------|--------------|--------|--------|----|----|
| 合計   |              |        |        |    |    |
| 支出   | 區別           |        |        |    |    |
|      | 退隱料          |        |        |    |    |
|      | 扶助料          |        |        |    |    |
|      | 扶助金          |        |        |    |    |
|      | 法律第八條給與金     |        |        |    |    |
|      | 法律第十二條第三項給與金 |        |        |    |    |
| 合計   |              |        |        |    |    |

(同上決算表式削除)

○小學校教員退隱料及遺族扶助料證書等書式

明治二十五年二月十二日 文部省訓令第二號  
 北海道廳 府縣  
 明治二十五年二月文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘ  
 キ退隱料證書及扶助料證書等ハ左ノ書式ニ依ルヘシ



退隱料證書書式 用紙ハ紙質堅緻ノモノヲ用フヘシ 寸法ハ縦九寸横一尺三寸輪廓付

退隱料證書

族 籍

元何小學校訓導(准訓導)

位勳爵 氏

生 年 月

退隱料年額金若干  
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ退隱料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス  
年 月 日

此證書ハ市町村立小學校教員退隱料 北海道廳長官府縣知事位勳爵 氏 名 印  
原簿第何號ニ登錄ス 北海道廳府縣事務官位勳爵氏名(第二部長タル者)印

備考 前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニ交付スル證書ニハ證書面中退隱料年額金若干ノ下ニ(但明治何年何月ヨリ十年間ハ退隱料年額金若干)ト記スヘシ(明治四十年文部省令) 第十二號ヲ以テ追加)

同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス  
水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡失シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
本人死去シタルトキハ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ  
扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ヲ受クヘキ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ

明治三十八年文部省訓令第二號ヲ以テ改正

表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ  
金若干  
但明治何年何月ノ給額ハ金若干  
右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

備考 前ニ退職給與金ヲ受ケタル者ニ交付スル證書ニハ證書面中 金若干 但明治何年何月ノ給額ハ金若干ノ下ニ(金若干) 明治何年何月ヨリ十年間ノ每期給額)ト記スヘシ(明治四十年文部省令) 第十二號ヲ以テ追加)

扶助料證書書式 用紙寸法トモ退隱料證書書式ニ同シ

扶助料證書

族 籍

故何小學校訓導位勳爵氏名寡婦

(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)

位勳爵 氏

生 年 月

扶助料年額金若干  
市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ明治何年何月ヨリ前記ノ扶助料ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス  
年 月 日

此證書ハ市町村立小學校教員遺族扶助料 北海道廳長官府縣知事位勳爵 氏 名 印  
北海道廳府縣事務官位勳爵氏名(第二部長タル者)印

備考 公權停止中扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ニ交付スル證書ニハ「明治何年何月ヨリ」トアルヲ「何某公權停止中」ト記スヘシ

明治三十八年文部省訓令第二號ヲ以テ改正

同上裏面

此證書ハ賣買讓與質入スルコトヲ得ス  
 水火災盜難等ニ依リ此證書ヲ亡シタルトキハ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
 本人氏名ヲ改メタルトキハ此證書ヲ添ヘ居住地ノ市町村長ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ  
 本人死去又ハ權利消滅シタルトキハ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料  
 ノ轉給ヲ受クヘキ者アルトキハ扶助料請求書ニ此證書ヲ添付スヘシ扶助料ノ轉給ヲ受クヘ  
 キ者ナキトキハ此證書ヲ返納スヘシ  
 表書ノ年額ハ毎年四月七月十月一月ニ其前三箇月分ヲ給ス每期ノ給額左ノ如シ  
 金若干  
 但明治何年何月ノ給額ハ金若干  
 右金額ヲ受領セントスルトキハ此證書ヲ呈示スヘシ

給與金辭令書書式 用紙適宜輪廓ナシ

元何小學校訓導

位 勳 爵 氏 名

給與金若干

右市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

年 月 日

北海道廳府縣

備考

支給規則第十條ノ給與金ノ辭令書ニハ本人肩書ヲ故何小學校訓導位勳爵氏名兄(弟)姉(妹)ト記シ兄弟姉妹數名ノトキハ連名ニスヘシ

扶助金辭令書書式 用紙給與金辭令書書式ニ同シ

故何小學校訓導位勳爵氏名  
 寡婦(孤兒)(父)(母)(祖父)(祖母)  
 位 勳 爵 氏 名

扶助金若干  
 右市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法ニ依リ之ヲ給ス

北海道廳府縣

○學校職員恩給審査規程

明治二十九年七月二日  
 勅令第二百六十四號

第一章 公立學校職員恩給審査委員

- 第一條 文部省ニ公立學校職員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス  
 公立學校職員恩給審査委員ハ市町村立小學校及公立實業補習學校ニアラサル公立學校及在外指  
 定學校職員ノ退職料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(明治三十二年勅令第二百三十九  
 號)年勅令第二百二十五號ヲ以テ改正ス
- 第二條 公立學校職員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申  
 ス
- 第三條 公立學校職員恩給審査委員長及委員ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ス
- 第四條 文部省ニ恩給顧問醫三人ヲ置キ内一人ヲ常務顧問醫トス

恩給顧問醫ハ公立學校職員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス但委員長ニ於テ總顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ必要ト認メサルモノハ常務顧問醫之ヲ審査ス

第五條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第六條 恩給顧問醫ハ文部大臣之ヲ命ス

第七條 常務顧問醫ニハ一箇年五百圓以内其ノ他ノ顧問醫ニハ事件ノ輕重難易ヲ斟酌シ每件三圓以上十圓以下ノ手當ヲ給ス

第八條 公立學校職員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 市町村立小學校教員恩給審査委員

第九條 北海道廳府縣ニ市町村立小學校教員恩給審査委員ヲ置キ委員長一人及委員四人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

市町村立小學校教員恩給審査委員ハ市町村立小學校公立實業補習學校及公立幼稚園職員ノ退隱料及遺族扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ヲ審査ス(明治三十九年勅令第二百二十五號ヲ以テ改正)

第十條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ審査ニ關スル事務ヲ管理シ審査ノ結果ヲ北海道廳長官府縣知事ニ具申ス

第十一條 市町村立小學校教員恩給審査委員長ハ其ノ廳高等官委員ハ其ノ廳官吏ノ中ヨリ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十二條 北海道廳府縣ニ恩給顧問醫二人以内ヲ置ク

恩給顧問醫ハ市町村立小學校教員恩給審査委員長ノ諮詢ニ應シ退隱料及遺族扶助料ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査ス

第十三條 審査上特殊ノ専門家ヲ要スル場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第十四條 恩給顧問醫ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ命ス

第十五條 顧問醫ニハ相當ノ手當ヲ給ス其ノ費用ハ北海道廳及沖繩縣ニ在テハ地方經濟ニ屬スル費用ノ負擔トシ其ノ他ノ府縣ニ在テハ府縣ノ負擔トス

第十六條 市町村立小學校教員恩給審査委員ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ北海道廳府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

○北海道廳府縣恩給顧問醫ノ醫術上事項審査ニ關スル規定

明治三十三年六月二十日  
勅令第二百六十九號

北海道廳府縣恩給顧問醫ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ公立學校職員ノ進退ニ關シ醫術上ノ事項ヲ審査ス

○在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法

明治三十八年三月十一日  
法律第六十四號

第一條 本法ニ於テ在外指定學校ト稱スルハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ外務大臣及文部大臣ノ指定シタルモノヲ謂フ

- 第二條 府縣立師範學校長俸給并公立學校職員退隱料及遺族扶助料法ハ第一條、第八條、第十條  
第二項、第四項、第十六條、第十七條第一項、第二十條及第二十一條ヲ除クノ外在外指定學校  
ノ職員及其ノ遺族ニ關シ之ヲ準用ス但シ同法ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ領事官之ヲ行フ  
在外指定學校ノ職員ノ資格并其ノ就職及退隱ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法、府縣立師範學校長并公立學校職員退隱料及  
遺族扶助料法明治二十九年法律第十三號、明治三十三年法律第七十七號又ハ本法ニ依リ退隱料  
ヲ受クル者在外指定學校ノ職員トナリ退職現時ノ俸給額ト同額以上ノ俸給ヲ受クルトキハ其間  
退隱料ノ支給ヲ停止ス
- 第四條 在外指定學校ノ職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退隱料ヲ受クル資格ヲ失フ  
一 年 齡六十歲ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ因リ退職シタルトキ  
二 服 務上ノ義務ニ違背シ若ハ服務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタル爲其職ヲ解カレ  
タルトキ  
三 教員免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ  
四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ  
五 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ  
六 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 第五條 本法ニ依リ退隱料ヲ受クル者及前條各號ノ一ニ該當スル者ニハ退職給與金ヲ給セス
- 第六條 明治二十九年法律第十三號ハ第一條、第三條、第四條及第五條ヲ除クノ外在外指定學校

ノ職員ニ關シ之ヲ準用ス

在外指定學校ノ職員ノ在職年月數ト公立學校ノ學校長、正教員、舍監書記、公立圖書館ノ館長  
司書、書記及小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル公立幼稚園ノ保姆ノ在職年月數トハ退  
隱料、扶助料及扶助金ノ支給ニ關シ相互通算ス

第七條 本法ニ依リ支給スヘキ退隱料、退職給與金、扶助料及扶助金并其ノ支給ニ關スル費用ハ  
國庫ノ負擔トス

附 則

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 特別ノ地域ニアリテハ勅令ヲ以テ本法中主務大臣及領事官ノ管掌ニ屬スル事項ヲ行フヘ  
キモノヲ定ムルコトヲ得

○在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中職員區別及在職

年數計算方

明治三十八年十一月六日  
勅令第二百二十九號

第一條 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ニ於テ職員ト稱スルハ學校長、教員、舍監及書  
記トス

在外指定學校中小學校若クハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ニ在リテ  
ハ訓導ヲ正教員、准訓導ヲ准教員トシ其他ノ學校ニ在リテハ教諭、助教諭ヲ正教員、其他ノ教

員ヲ准教員トス

第二條 在外指定學校職員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終トス

第三條 左ニ掲クル年數及月數ハ在職年數ヨリ除算スヘシ

一 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條各號ノ一ニ該當シタル者再就職シタルトキハ其ノ前在職ノ年數及月數

二 恩給又ハ退隱料ヲ受クヘキ職ニ在ル者ニシテ在外指定學校職員ヲ兼ヌル時ハ其ノ兼職中ノ年數及月數

第四條 在外指定學校ノ廢止又ハ指定取消ノ際其ノ學校職員タル者即日他ノ在外指定學校又ハ公立學校ノ職員ニ採用セラレタルトキハ勤績者ト看做ス

第五條 明治二十五年勅令第三十二號ハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料ノ支給ニ關シテハ之ヲ準用ス

○在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治三十八年十一月八日 文部省令第二十一號

第一條 明治二十五年文部省令第一號公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則ノ第七條第二十

五條ヲ除ク外在外指定學校職員退隱料遺族扶助料等ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第二條 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法第二條及府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第十條第一項ニ依リ退職給與金ヲ受クヘキ者ハ給與金請求書ヲ作り在職

中ノ履歷書ヲ添付シ退職ノ際勤務セシ學校所在地ヲ管轄スル領事官ニ差出スヘシ  
領事官ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ證據書類ヲ添ヘ文部大臣ニ差出スヘシ

○市町村立小學校教員加俸給與細則

明治三十三年七月三十一日 受取縣令第七十一號

市町村立小學校教員加俸給與細則左ノ通之ヲ定メ發令ノ日ヨリ施行ス

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條 加俸ハ病氣又ハ其他ノ事故ニ依リ欠勤スルモ之ヲ減給スルコトナシ

第二條 加俸ハ毎年四月十月ノ兩度ニ各其前月分迄ノ金額ヲ支給ス

但休職退職ヲ命セラレ又ハ其他ノ理由ニ依リ加俸ヲ罷メラレタルトキハ其際之ヲ支給ス

第三條 加俸ノ支給増額減額ハ總テ發令ノ翌月ヨリ計算ス

但單級小學校ニ勤務スル者ノ特別加俸ノ支給ハ發令ノ當月ヨリ計算ス其交互轉任ノ場合ハ此

ノ限リニアラス

加俸ヲ罷メラレタルトキハ年額ヲ月割計算トシ當月分マテノ金額ヲ給ス

第四條 特別加俸ヲ受クルモノニシテ他ノ學校ニ轉任スルトキハ別ニ辭令ヲ用キシテ其加俸ヲ

失フモノトス

第五條 郡長ニ於テ市町村立小學校教員加俸令第三條第六條及第七條ニ該當スル者アリト認ムル

トキハ其事由及關係事項ヲ詳具シ地方長官ニ申告スヘシ

第六條 加俸ニ關スル辭令書式左ノ如シ

校名職名

氏

名

市町村立小學校教員加俸令第三條ニ依リ本縣市町村立小學校ニ勤務中年功加俸年額金何圓ヲ支給ス

年月日

校名職名

氏

名

(但同令第十一條ニ依リ肩書ノ學校ニ勤務中ハ年額金何圓ヲ加給ス)

年月日

校名職名

縣

名

市町村立小學校教員加俸令第六條ニ依リ年功加俸ヲ支給セス

年月日

校名職名

氏

名

第七條 本則施行ノ際現ニ單級小學校ニ勤務スル者ノ特別加俸ハ市町村立小學校教員加俸令施行前ヨリ就職スル者ニ就キテハ本年四月ヨリ其ノ他ノ者ハ就職ノ當月ヨリ計算支給ス

○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル場合ノ手續

明治二十三年法律第九十號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者其全額ヲ受領セントスルトキハ明治廿五年文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則第十二條ニ依リ退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ當廳ニ呈示シ難キモノハ居住地町村長ハ該證書ヲ呈示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ證書ノ檢閲ヲナシ左記書式ノ檢閲報告書ヲ作り速ニ當廳ヘ送付スヘシ

檢閲報告書

元愛媛縣何郡何々小學校訓導  
(故愛媛縣何郡何小學校訓導何ノ誰寡婦又何々)

年月日

右ノ者明治何年何月ヨリ同何月迄三ヶ月分退隱料(扶助料)金何程請求ニ付同人へ下付セラレタル  
明治何年何月何日第何號退隱料(扶助料)證書ヲ檢閲シ受領權アルコトヲ認ム

知事宛

縣郡町村長氏名印

第一編 加俸及一給 (市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金ニ關スル手續)  
就學 (市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ徵收セサルコトヲ得ル規定)

二五〇

### ○市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金ニ關スル手續

明治三十三年八月二十四日  
愛媛縣訓令第五十五號

郡市町村

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法納金ニ關スル手續左ノ通之ヲ定ム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

納金ニ關スル手續

第一條 市町村立小學校教員恩給基金ハ毎年十月及四月ノ各十五日ヨリ末日迄ヲ以テ各前六ヶ月分ノ納期トス

第二條 土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ給料ニ換給シタル者ハ其歩合ノ金額ハ納金ノ計算ニ加フルモノトス

### ◎就學

#### ○市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ

徵收セサルコトヲ得ル規定

明治二十九年二月六日  
勅令第五號

第一條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ遺族ニシテ左ニ掲ケル者ニ對シテハ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ徵收セサルモノトス

十四年  
第一號  
訓令  
第一號  
改正

- 一 軍人恩給法第二十七條第一ニ該當スル者及第四十條ニ掲ケタル者ニシテ第二十七條第一ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
  - 二 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
  - 三 明治二十七年勅令第六十四號第一條第一項ニ該當スル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹
- 前項ノ遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ者ナキモ死者ノ前項ニ該當シタル事實明白ナルトキハ其ノ同籍内ニ在ル弟妹ニ對シ前項ヲ適用ス
- 第二條 戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ軍人恩給法第九條第十四條又ハ官吏恩給法第三條ニ該當スル者又ハ戰地ニ於テ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ明治二十七年勅令第六十四號ニ依リ手當金ヲ受クル者又ハ公務ニ依リ從軍シタル者ノ同籍内ニ在ル子及弟妹ニ對シテハ市町村會ノ議決ニ依リ市町村立小學校ニ於テ授業料ヲ減額シ又ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得
- 第三條 本令ニ依リ減額シ又ハ徵收セサル授業料ニシテ已ニ納付済ノモノハ還付セサルモノトス但市町村會ニ於テ還付ノ議決ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニアラス

(參照)

軍人恩給法

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

二 戰闘及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

三 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

第一編

就學

(市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ徵收セサルコトヲ得ル規定)

二五一

第一編 就學 (市町村立小學校授業料戰地勤務ニ因レル死傷者等ノ子弟ニ對シ徵收セサルコトヲ得ル規定)

第九條 增加恩給ハ戰闘及戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ

二 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

四 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

六 前項ニ準スヘキ傷疾ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

一 戰闘及戰地公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原因スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

二 戰時平時公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原因スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス

一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第三ニ依リ死歿シ又ハ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限り恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

明治二十七年勅令第六十四號

第一條第一項

陸海軍雇員、軍艦乘組傭人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道從事員其ノ他陸海軍傭人等ニシテ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキハ本令ニ依リ一時限リ手當金ヲ給ス

○臺灣總督府國語學校中學部及臺灣小學校生徒及卒業生ノ他ノ

學校へ入學轉學ニ關スル規程

明治三十六年六月九日 文部省令第二十四號

臺灣總督府國語學校中學部及臺灣小學校生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程

第一條 臺灣總督府國語學校中學部ノ生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十

二年勅令第二十八號中學校令ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受

ク

第二條 臺灣小學校ノ生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十三年勅令第三百

四十四號小學校令ニ依リ設置シタル市町村立小學校ノ生徒及卒業生ト同一ノ取扱ヲ受ク

○學齡兒童就學規則

明治三十四年一月十二日 愛媛縣令第三號

學齡兒童就學規則左ノ通り之ヲ定ム

學齡兒童就學規則

第一條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十條及第八十一條第一項第二項ニ依リ學齡簿ニ記入シタル兒童アルトキハ十日以内ニ同則第八十二條ノ手續ヲ履行スヘシ

第二條 第一條ノ通知ヲ受ケタル保護者ニシテ小學校令施行規則第八十四條ニ依リ就學義務ノ免除又ハ就學ノ猶豫ヲ市町村長ニ申立ツルハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内タルヘシ

第一編 就學 (臺灣總督府國語學校中學部及臺灣小學校生徒及卒業生ノ他ノ學校へ入學轉學ニ關スル規程) (學齡兒童就學規則)



但其兒童ノ就學期間中ニ在ル者ハ五日以内トス

第三條 市町村長ハ毎年一月及二月ニ於テ學齡兒童ノ就學ヲ勸誘スヘシ

但監督官廳ハ適宜時日ヲ定メ之ヲ指示スルコトヲ得

第四條 市町村長ハ小學校令第三條ニ依リ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除シ又ハ學齡兒童ノ就學猶豫ニ關シ監督官廳ノ認可ヲ受ケントスルハ其事由ヲ具シ毎年三月五日限り之ヲ申請スヘシ但臨時必要ノ場合ハ此限ニアラス

第五條 市町村長ハ第四條ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除シ又ハ學齡兒童ノ就學猶豫ヲ許可シタルトキハ遲滞ナク之ヲ學齡簿ニ記入スヘシ家庭教育其他ニ於テ學修スルコトヲ認可シタルトキ又ハ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第六條 市町村長ハ小學校令施行規則第八十三條ニ依リ兒童ノ氏名及入學期日ヲ關係學校長ニ通知スルトキハ兒童ノ住所族籍生年月日及保護者ノ氏名職業兒童トノ關係等ヲ附記スヘシ

第七條 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ニ依リ家庭教育其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ學修スルコトヲ認可シタルトキハ其理由及教授者ノ氏名履歷ヲ具シ監督官廳ニ開申スヘシ但私立小學校ニ就學スルコトヲ認可セシモノニ就キテハ教授者ノ氏名履歷ヲ要セス

第八條 市町村長ニ於テ小學校令施行規則第九十三條ニ依リ兒童ノ就學又ハ出席ノ督促ヲナスハ其報告ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ行ヒ尙應セサル者ハ遅クモ七日間毎ニ之ヲ行フモノトス前項ノ規定ニ依リ二回以上ノ督促ヲナスモ仍就學又ハ出席セシメサルコト十五日以上ニ及フトキハ市町村長ハ之ヲ監督官廳ニ報告スヘシ

第九條 監督官廳ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ其保護者ニ對シ兒童ノ就學又ハ出席ヲ督促スヘシ

第十條 學齡兒童保護者ニシテ第九條ノ督促ヲ受クルモ尙其兒童ヲ就學又ハ出席セシメザルモノハ金五拾錢以上貳圓以下ノ過料ニ處ス但當該行政官廳ハ明治三十三年勅令第二百五十三號行政執行法施行令第五條ニ依リ豫メ戒告スルヲ要ス

第十一條 市町村長ハ別表ニ依リ兒童就學ノ成績ヲ調査シ毎年五月五日迄ニ監督官廳ニ報告スヘシ郡長ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ全郡ヲ一表トナシ其月十五日限り知事ニ報告スヘシ

何市町村（又ハ郡）就學成績表

四月末調

| 市町村名 | 男女 |   | 男女 |   | 計 | 全不就學兒童數 | 計 | 中 |
|------|----|---|----|---|---|---------|---|---|
|      | 男  | 女 | 男  | 女 |   |         |   |   |
| 市    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 町    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 村    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 別    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 數    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 業    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 生    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 尋    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 常    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 科    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 卒    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 尋    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 常    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 科    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 在    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 家    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 庭    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 等    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| ニ    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| テ    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 尋    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 常    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 全    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 上    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 學    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 習    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 計    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 就    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 學    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 猶    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 全    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 免    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 除    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 者    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 計    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 中    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 就    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 學    |    |   |    |   |   |         |   |   |
| 百    |    |   |    |   |   |         |   |   |



是ぞめでたき  
あやに畏き  
あやに尊き

人の教の  
勅語のまに  
大御心に

鑑なる  
勤み  
答へまつらむ

第一章

終りなき世の  
いはふ今日こそ

めでたさを  
たのしけれ

年のはじめの  
松竹たて、

治まる御代の  
仰ぎ見るこそ

今朝のそら  
たふとけれ

第二章

初日のひかり  
君がみかげに

天津 雲の  
祭りますこそ

動きなく  
かしこけれ

天津日嗣の  
年のはじめに  
四方の民くさ  
豊祭のぼる

長閑けき空を  
たて、祝はぬ

家ぞなき  
家ぞなき

紀元節

雲に聳ゆる  
高千穂の

高根おろしに

草も木も

なびきふしけん

第二章

大御世を

仰ぐ今日こそ

たのしけれ

海原なせる

第三章

埴安の

池のたもより

猶ひろき

めぐみの波に

第三章

浴みし世を

あふぐけふこそ

たのしけれ

天津ひつぎの

第四章

高みくら

千代よろづよに

動きなき

もどぬ定めし

第四章

そのかみを

仰ぐけふこそ

たのしけれ

空にかゝやく

第四章

日のもとの

萬の國に

たぐひなき

國のみはしら

神嘗

たてし世を

あふぐけふこそ

たのしけれ

五十鈴の宮の

天長節

大前前に

今年の秋の

懸け 朝日か

御酒御帛を

天長節

かゝやきて

賑ふ御代こそ

めでたけれ

今日吉き日は

天長節

大君の

うまれたまひし

吉き日なり

今日の吉き日は

天長節

君が代を

さし出たまひし

吉き日なり

ひかり遍ねき

天長節

いはへ諸人

いはへ諸人

もろとも

めぐみ遍ねき 新嘗祭 君が代を いはへ諸人 もろともにも。

民やすかれと 二月の。 祈年祭 験あ。

千町の小田に うち靡く。 垂穂の稲の 美し。

御饌につくりて たてまつる。 新嘗祭 尊し。

○天長節紀元節新年等ノ祝賀式準備及方法

明治二十三年十月二十九日 愛媛縣訓令第九十二號

- 郡 役 所
- 市 役 所
- 町 村 役 場
- 公 立 學 校
- 私 立 學 校

天長節紀元節新年等ノ祝賀式ハ自今左ノ準備及方法ニ依リ執行スヘシ

- 一 式場ハ講堂又ハ庭園等便宜ナル場所ニシテ可成全校生徒ヲ整列セシメ得ル面積アルヲ要ス
- 一 式場ハ正面ニ玉座ヲ設ケ 御眞影ヲ奉安シ又ハ便宜虛位ヲ設ケ清淨ニシテ尊嚴ナルヲ要ス
- 一 式場ニ生徒ヲ整列セシムルニハ最下學年生ヲ前列トシ學年ヲ逐テ後方ニ排列セシムヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ハ前列右方ノ三步前ニ位置シ其他ノ職員ハ生徒列ノ兩側ニ位置スヘシ
- 一 學校長又ハ首席教員ハ職員及生徒ノ整列シタルトキ先職員ヲシテ順次敬拜セシメ而シテ生徒一

三十一年訓令第七十五號ニテ但書削除

同敬拜セシムヘシ

但便宜ニ依リ分列式ヲ行ヒ又ハ生徒ヲ數組ニ分テ敬拜セシムルモ妨ケナシ

- 一 敬拜ノ前後ハ可成奏樂歌謠セシムヘシ
- 一 敬拜ノ前後便宜ナル時間ニ於テ學校長教員ハ左項ノ說話ヲナシ且生徒ヲシテ唱歌セシムヘシ
- 一 但唱歌ヲ科セサル學校ニ於テハ說話ノミニ止ムルモ妨ケナシ
- 一 天長節ニ於テハ 今上陛下ノ御功德ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル頌歌ヲ奏セシム
- 一 紀元節ニ於テハ 神武天皇ノ御偉績ニ關スル事項ヲ說話シ且適當ナル頌歌ヲ奏セシム
- 一 新年ニ於テハ 兩陛下ノ聖壽萬歲ヲ祝シ併セテ皇室ノ尊榮ヲ頌揚シ及歴代天皇ノ御功德ニ關スル說話ヲナシ且適當ナル頌歌ヲ奏セシム
- 一 高等小學校所在近傍ノ小學校ハ可成高等小學校ニ於テ祝賀式ヲ執行スルヲ要ス

○勅語捧讀ノ件

明治二十四年一月九日 愛媛縣訓令第一號

- 郡 役 所
- 市 役 所
- 町 村 役 場
- 公 立 學 校

客年十月下賜セラレタル 勅語ハ實ニ教育ノ本義ニシテ日本國臣民ノ必ス服膺遵守スヘキ所ナリ殊ニ文部大臣ハ訓示ヲ發シ且 勅語并ニ訓示ノ謄本ヲ頒チ 聖意ノ貫徹ヲ計ラル依テ學校職員ハ厚ク其意ヲ體シ左記ニ依リ 勅語ヲ捧讀シ屬精訓誨以テ其本分ヲ盡スヘシ

二十四年六月二十日 文部省令第四號 五月三十日 縣訓令第十五號 參看

- 一 勅語ハ天長節紀元節及新年ノ三大節祝賀式場ニ於テ捧讀スヘシ  
但其他便宜ノ時期ニ於テ捧讀スルコトヲ得
- 一 勅語捧讀了ラハ學校長又ハ教員ハ肇國以來 列聖ノ御洪德ヲ彰揚シ國體ノ尊崇スヘキヲ講話シ我 皇室ニ對スル臣民ノ務メヲ懇諭シ且孝悌和信凡ソ人倫ノ大道ヲ訓誨シ以テ 勅語ノ旨ヲ服膺セシムヘシ
- 一 勅語捧讀ノ際裝置及職員生徒ノ整列方ハ客年十月訓令第九十二號ニ依ルヘシ
- 一 勅語ハ學校長捧讀シ職員生徒ヲシテ謹慎ニ拜聽セシムヘシ  
但學校長不在又ハ之ヲ置カサル學校ニ於テハ主席教員之ヲ捧讀スヘシ
- 一 勅語捧讀ノ際ハ生徒ノ父母兄弟及親戚等へ便宜場所ニ於テ拜聽セシム

○小學校入學式規程

明治二十九年七月十五日  
愛媛縣訓令第三十五號

郡市町村、小學校  
私立小學校設立者

小學校入學式規程

- 第一條 小學校ハ每學年ノ始業當日ニ於テ入學式ヲ舉行シ其始メヲ鄭重ニシ傍ラ向學心ヲ鼓舞シテ就學ノ獎勵ヲ計ルヘシ  
但シ止ムヲ得サルニ於テハ式日ヲ變更スルコトヲ得

第二條 入學式ニハ市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ハ成ルヘク參列スヘシ

第三條 入學式ニハ入學兒童ノ保護者父母親戚其校卒業生及ヒ市町村會議員其他市町村住民ヲシテ成ルヘク參列セシムヘシ

第四條 式場ノ準備ハ概テ左ノ各項ニヨルヘシ

一 式場ハ正面ニ教育ニ關スル 勅語ノ曆本ヲ奉置スヘシ

一 入學兒童ハ式場ノ右方ニ在校兒童ノ全部若クハ幾部ハ式場ノ左方ニ各身長ノ卑キモノヲ前列トナシ順次後方ニ整列セシムヘシ

一 學校長又ハ首席教員ハ兒童前列ノ右前方ニ其他ノ教員ハ兒童列ノ左右兩側ニ又市町村長市町村會議員其他學事ニ關係アル吏員等ハ兒童前列ノ左前方ニ各其位置ヲ定ムヘシ

一 入學兒童ノ保護者父母親戚及其校卒業生ハ兒童前列ノ右前方ニ其他ノ市町村住民ハ兒童整列ノ後方ニ各其ノ位置ヲ定ムヘシ

第五條 式ヲ行フニハ概テ左ノ順序ニ依ルヘシ

但シ唱歌ハ在校兒童ヲシテ合唱セシメ若シ之レヲ課セサル學校ニ於テハ省略スルコトヲ得

一 唱歌 君ガ代ノ類

一 勅語奉讀 學校長又ハ首席教員

一 唱歌 勅語奉答

一 式辭 學校長又ハ首席教員ハ教育ニ關スル 勅語ニ基キ入學兒童ノ心得ヘキ要

點ヲ誨告シ又ハ兒童父兄ノ注意スヘキ箇條ヲ諭示シ或ハ教育ノ切要ナル所以ヲ詳説スヘシ

(町村制第二百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中縣知事ニ於テ許可ノ件) 市町村立小學校教育費ヲ補助セシムルタメ北海道地方及府縣費支出ノ件

一 唱歌 入學若クハ修徳勸學等ニ關スル歌詞

前項ノ外便宜參列有志者ノ祝詞演說ヲ加フルコトヲ得

第六條 本規程ハ代用私立小學校ニモ之ヲ適用シ私立小學校ニモ之ヲ準用ス

◎教育費及教育基金

○町村制第二百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣

ノ許可ヲ要スル事項中縣知事ニ於テ許可ノ件 明治三十九年五月一日 勅令第九十八號

町村制第二百二十六條及地方學事通則第十二條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中明治三十九年度文部省所管經費町村教育費貸付金ヨリ町村ニ於テ借入ルル負債ニ關スル件ハ縣知事ニ於テ之ヲ許可スヘシ

○市町村立小學校教育費ヲ補助セシムルタメ北海道地方費及府

縣費支出ノ件 明治四十年五月二十五日 勅令第二百十七號

第一條 北海道地方費及府縣ハ市町村立小學校教育費ヲ補助スル爲市町村立小學校教育費國庫補助法ニ依リ配賦スル金額ト同額ノ金額ヲ支出スヘシ但シ沖繩縣ニ於テハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第二條 前條ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ地方ノ情況ニ應シテ之ヲ市町村立小學校教員加俸ノ

支出ニ充テ又ハ市町村立小學校教員住宅費ノ補助ニ充ツヘシ

前項補助ノ方法ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

特別ノ事情ニ依リ本令ノ支出ヲ爲シ難キ場合ニ於テハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ認可ヲ受ケ當分ノ内支出金額ヲ減少スルコトヲ得

○市町村立小學校教員住宅費補助ニ關スル規程 明治四十年九月二十六日 文部省令第三十號

第一條 明治四十年勅令第二百十七號第二條ニ依リ北海道地方費及府縣ニ於テ市町村立小學校教員住宅費ニ補助スル場合ハ本令ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 住宅費補助ハ教員ノ住宅ヲ建設シ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與シ若クハ教員ニ住宅ヲ供給スル爲賃借料ヲ支拂フ場合ニ於テ市町村市町村組合又ハ其區ニ對シテ之ヲ爲スモノトス (明治四十年八月文部省令第十號ヲ以テ改正)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

前項補助ノ歩合及條件並補助金交付ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第三條 住宅費補助金ノ殘餘ハ市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸資金ニ編入スヘシ

第四條 本令中市町村、町村學校組合及其ノ區ニ關スル規定ハ市町村制ヲ施行セサル地方ノ小學校設置區域ニ適用ス

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

○教育資金使用規則

明治三十三年七月七日  
愛媛縣令第六十五號

明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第九條ニ依リ教育資金使用規則左之通之ヲ定ム

教育資金使用規則

第一條 教育基金令第五條ニ依リ設備費ヲ貸付スルノ順次ハ校地校舎ノ設備ノ最モ不完全ニシテ新築改築増設等ヲ急要ト認ムルモノヲ先キニシ之ニ次クモノヲ後ニスルモノトス

但災害ニ罹リ復舊ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二條 左ノ諸號ニ該當スルトキハ設備費ヲ貸付セサルモノトス

一 小學教育ニ屬スル經常費支出額其市町村ノ經常費支出總額ノ五分ノ二以内ナルトキ

二 市町村ノ資力學校設備ノ費用ヲ支出スルニ堪ユルト認ムルトキ

第三條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スルトキハ其總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常小學校ノ設備費トシ之ニ對シ貸付金額ヲ定ムルモノトス

第四條 區ノ負擔ニ屬スル設備費ニ就キ其ノ市町村等ヨリ貸付ヲ申請シタルトキハ其區ヲ以テ市

町村ト同視シ之ヲ處理スルモノトス

但市町村經常費中其區民負擔額ノ判明ナラサルモノハ其戶數ニ比例シテ之ヲ定ム

町村組合町村學校組合ニ就キテモ亦同シ

第五條 貸付金額ハ五拾圓ヲ以テ單位トナスモノトス

第六條 貸付金額ノ利子ハ一ケ年度ヲ九月三月ノ二期ニ區分シテ之ヲ徵收スルモノトス

但利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月迄之ヲ付スルモノトス

第七條 貸付金ノ償還期ハ毎年三月限トス

第八條 貸付金ヲ受ケタル後正當ノ理由ナクシテ其事業ニ着手セズ或ハ中止シ若クハ變更シタルトキハ其期限ニ拘ハラズ貸付金ノ償還ヲ命スルコトアルモノトス

第九條 教育資金ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ毎年一月限其金額償還期限貸付ヲ要スル事由並ニ左ノ調書ヲ具シ町村ニ於テハ所屬郡長ヲ經テ市ニ於テハ直ニ知事ニ申請スヘキモノトス

但償還期限ハ可成短期ヲナスヲ要シ且申請期限ハ非常變災等特別ノ場合ハ本文ニ依ラサルコトヲ得

一 申請ニ關スル議決書寫

二 事業ニ關スル校舎校地等ノ平面圖

三 事業設計書

四 事業當該年度歲入出豫算表

(歲出豫算表ハ各款費目總額ノミヲ掲クヘシ)

三十四年縣令第二號ニテ上附則第十條削除第

五最近年度經常費支出決算總額並ニ同小學教育費支出決算總額  
六元利金償還年次表（別記書式ニ依ル）  
七基本財産ノ有無並ニ其額  
八着手及ビ落成期日  
九學齡兒童數並ニ就學兒童數

郡長ハ前項申請書ヲ受理セシトキハ事實ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ副申スヘシ

第十條 教育資金ハ教育基金令第八條ニ依リ市町村立小學校教員獎勵其ノ他普通教育ニ關スル費用ニ充ツルコトアルヘシ  
但其細則ハ必要ニ應シ便宜之ヲ定ム

書式

元利金償還年次表

| 年 度   | 償 還 元 金 |     | 期 別 |     | 利 金 | 計 |
|-------|---------|-----|-----|-----|-----|---|
|       | 前 期     | 后 期 | 前 期 | 后 期 |     |   |
| 何 年 度 |         |     |     |     |     |   |
| 計     |         |     |     |     |     |   |

○普通教育獎勵資金管理及特別會計設置規則

明治三十九年九月十四日 愛媛縣令第四十七號

普通教育獎勵資金管理及特別會計設置規則縣參事會ノ議決ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム

普通教育獎勵資金管理規則

第一條 普通教育獎勵ノ爲メ國庫ヨリ交付サレタル金員ハ普通教育獎勵資金トシ特別會計ヲ設置シ之ヲ整理ス

第二條 普通教育獎勵資金ノ使用ハ左ノ場合ニ限ルモノトス

- 一、貧困兒童ノ就學ニ關スル獎勵
  - 二、山間僻陬其ノ他特別ノ事情ニ依リ設備困難ナル小學校ニ對スル補助
  - 三、普通教育ニ關スル戰時紀念事業等ノ經營ニシテ其成績優良ナルモノ、獎勵
  - 四、盲啞兒童ノ教育施設ニ關スル獎勵
  - 五、其他普通教育ニ關シ特ニ必要ト認メタルモノ、獎勵
- 第三條 普通教育獎勵資金ヨリ生スル收入ハ之ヲ資金ニ編入スルモノトス
- 第四條 普通教育獎勵資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度へ繰越スヘシ
- 第五條 本則ニ規定スルモノ、外ハ總テ縣有財産管理規則ニ依ル

附 則

第六條 本規則ハ明治三十九年度ヨリ施行ス



○貧困兒童補助規程

明治三十九年九月二十一日  
愛媛縣令第五十號

貧困兒童補助規程左ノ通之ヲ定ム

貧困兒童補助規程

第一條 市町村ニ於テ貧困ナル兒童ニ學資食費被服費等ヲ補給シテ義務教育ヲ受ケシムルトキハ普通教育獎勵金ヲ以テ之ヲ補助ス

第二條 補助金ハ市町村ノ負擔ト同額以內トス

第三條 市町村ニ於テ補助ヲ出願セントスルトキハ當該經費收支豫算補助方法書及別記甲乙二表ヲ添ヘ毎年四月十日限り之ヲ提出スヘシ

第四條 郡長ハ町村提出ノ願書ヲ精査シ適當ト認メタルトキハ第三條甲表ニ依リ全郡ヲ統計シ毎年四月末日限り願書ト共ニ進達スヘシ

附 則

第五條 明治三十九年度ニ限り第三條ノ願書提出期限ハ十月十日限り第四條ノ統計表等進達期限ハ十月二十日限トス

甲 表

|                 |       |                            |               |                  |             |                 |
|-----------------|-------|----------------------------|---------------|------------------|-------------|-----------------|
| 町村名             | 學齡兒童數 | 不<br>就<br>學<br>兒<br>童<br>數 | 同上ノ内貧<br>困兒童數 | 同上ノ内補助<br>費支給兒童數 | 同上支給金<br>總額 | 縣補助出<br>願<br>總額 |
| 計<br>(限郡ニ<br>ル) |       |                            |               |                  |             |                 |

乙 表

|             |         |     |         |
|-------------|---------|-----|---------|
| 補助費支給貧困兒童氏名 | 同上保護者氏名 | 住 所 | 生 活ノ概 況 |
|-------------|---------|-----|---------|

○雜

○學事ニ關スル履歷書式

明治三十三年九月八日  
愛媛縣令第八十號

明治十八年(六月)甲第九十二號布達學事ニ關スル履歷書式左ノ通更正ス

但小學校教員就職ノ爲メ差出履歷書ハ業務ノ項ヲ別紙ニ認メ且ツ住所族籍氏名生年月日ヲ前記スヘシ

(用紙小判形ニシテ十二行ニ認ムヘシ)

履 歷 書

住所族籍

氏 名

生年月日

學 業

自 年 月 日 年 月 日 何學校ニ於テ何科修業

卒業証書寫  
別紙ノ通

|                  |             |                       |
|------------------|-------------|-----------------------|
| 自<br>年<br>月<br>日 | 年<br>ヶ<br>月 | 何所某ニ就キ何々修業            |
| 年<br>月<br>日      |             | 何々ニ於テ何免許狀ヲ受ク 免許狀寫別紙ノ通 |
| 年<br>月<br>日      |             | 何々ニ於テ何証明書ヲ受ク 証明書寫別紙ノ通 |

業務

|                  |             |   |
|------------------|-------------|---|
| 自<br>年<br>月<br>日 | 年<br>ヶ<br>月 | 何々 辭令書ノ月俸 數次増俸シタル者 何府縣 文ヲ記ス 月俸 數次増俸シタル者 何府縣 何部等 |
| 自<br>年<br>月<br>日 | 年<br>ヶ<br>月 | 何業ニ從事   |

賞罰

|             |            |       |
|-------------|------------|-------|
| 年<br>月<br>日 | 何々ニ付キ何賞ヲ受ク | 何 府縣等 |
| 年<br>月<br>日 | 何々ニ付キ何罰ヲ受ク | 何 府縣等 |

右之通相違無之候也

年月日

右 何 某 印

○學校ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル者取締方

明治十五年一月十七日 愛媛縣乙第八號

各郡町村 學務委員

從來學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其行為ノ遊興弄戲ニ屬スルモノ並ニ言論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上妨害少ナカラサル儀ニ付右ニ充用セシメサルハ勿論都テ學校監督上ニ不都合無之様取締可致其筋ヨリ達ノ次第モ有之候條此段相違候事

○學事集會規則

明治十九年十二月十四日 愛媛縣達甲第五十號

學事集會規則別紙ノ通相定ム (別紙)

學事集會規則

- 第一條 學事集會ハ學事ノ改良上進ヲ圖ランカ爲メ郡長之ヲ開設ス
- 第二條 學事集會ノ會員ハ「戶長」小學校長及小學簡易科教員等トシ其人員ハ郡長ニ於テ便宜之ヲ定ム
- 但時宜ニ依リ「戶長」ト小學校長等ヲ區別シテ開會スルコトヲ得
- 第三條 學事集會ハ談話會決議會ノ二種トス其談話會ハ各自處務上ニ關シ既往ノ狀況ト將來ノ目

十八年布告 第二十三號 員消滅 第二十三勅 令及第二十 五號及第十 五號ニテ小 學校ノ廉消 滅

二十三年勅 令第二十 五號及第十 五號ニテ小 學校ノ簡易 科教員消滅

三十三年文  
部省令第十  
四號ニテ自  
然消滅

的トヲ陳述スルヲ主トシ決議會ハ事件ノ利害得失ヲ論究シテ可否ヲ決スルモノトス  
第四條 學事集會ニ於テ談話ノ事件及決議ノ議案ハ郡長之ヲ發付ス  
第五條 學事集會ニ於テ談話又ハ決議ニ附スヘキ事件ノ要目ハ左ノ如シ

- 一 授業法學校管理法ニ關スル事
  - 一 學校風儀ニ關スル事
  - 一 幼兒保育法ニ關スル事
  - 一 生徒衛生上ニ關スル事
  - 一 生徒試驗ニ關スル事
  - 一 生徒獎勵ニ關スル事
  - 一 夜學方法ニ關スル事
  - 一 校內清潔方法ノ事
  - 一 兒童就學勸誘方法ニ關スル事
  - 一 教員學術研究ニ關スル事
  - 一 貧民子女就學方法ノ事
  - 一 學資金増殖方法ニ關スル事
  - 一 學資金管理方法ニ關スル事
- 其他學事ニ關スル公布令達等實施方法ニ關スル事  
第六條 學事集會ノ開設ハ毎年一回トス

ニテ達乙第五六號  
ニテ第一科長消  
滅ニテ第一訓第五  
號ニテ達乙第  
五號廢止ニテ第  
三號廢止ニテ第  
一訓第五號ニ  
テ課長廢止ニテ  
訓令第五號ニ  
第九條中改正  
全上ニテ第十一  
條削除

但開會日數ハ一週間以內タルヘシ  
第七條 學事集會ノ會長ハ郡長トス  
但事故アルトキハ第二科長ヲシテ會長タラシムルコトヲ得  
第八條 學事集會ノ細則ハ郡長之ヲ定ム  
第九條 學事集會ノ開會ハ其郡度郡長ヨリ知事ニ開申スヘシ  
第十條 學事集會ニ於テ談話若クハ決議シタル事項ハ開會後十日以內郡長ヨリ知事ニ開申スヘシ  
第十一條  
第十二條 學事集會ニ於テハ學務外ノ事項又ハ成規ニ觸ル事項ヲ談話若クハ討議スルヲ得ス

○小學校ニ於テ補習科ヲ設置セントスルトキノ稟請方

明治二十五年九月十四日  
愛媛縣訓令第五十五號

|   |   |   |
|---|---|---|
| 郡 | 役 | 所 |
| 市 | 役 | 所 |
| 町 | 村 | 役 |
| 小 | 學 | 校 |

小學校ニ於テ補習科ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ詳具シテ稟請スヘシ  
一 設置ノ事由 (其要領ヲ記載スルヲ要ス)

- 一 修業年限 (開始ノ年月日ヲモ記載スルヲ要ス)
- 一 教科目 (正教科ト隨意教科目トヲ區別トスルヲ要ス)
- 一 教授時間 (每週教授時間ト毎日始業終業ノ時限ヲ記スルヲ要ス)
- 一 教科課程及時間割 (小學校教則ニ準據シテ製表スルヲ要ス)
- 一 兒童及其學級數 (男子女兒ヲ區別スルヲ要ス)
- 一 教員ノ配置 (人員氏名并ニ小學校教員外ニ教授ヲ擔當セシムルトキハ其者ノ履歷書ヲ添付ス)
- 一 經費見込額 (教員報酬金額等總テ補習科ニ要スル費用ヲ記載ス)
- 一 高等小學校ノ距離 (尋常小學校ノ補習科ニ限リ最近高等小學校名及其距離ヲ記ス)

○御影並ニ勅語謄本奉守規程

明治三十八年五月三十日  
愛媛縣訓令第二十八號

學 校

御影並ニ教育ニ關スル勅語謄本奉守規程左ノ通之ヲ定ム

明治二十八年愛媛縣訓令第五號御影並ニ勅語謄本取扱規程ハ之ヲ廢止ス

御影並ニ教育ニ關スル勅語謄本奉守規程

第一條 御影ハ額面トシ白木ノ櫃ニ納メ校内清潔ナル場所ヲ選ヒ一區ヲ劃シ銷鑰ヲ施シ之ヲ奉置スヘシ

教育ニ關スル勅語謄本ハ白木ノ匣ニ納メ鄭重ニ奉置スヘシ

第二條 奉置所ハ時々點檢シテ奉守上過誤ナキヲ期スヘシ

第三條 御影ハ校内儀式場ノ外ニ奉掲スルコトヲ得ス

第四條 御影ヲ奉守セル學校ニ於テハ必直ヲ設クヘシ

第五條 御影並ニ教育ニ關スル勅語謄本ヲ奉守セル學校ニ於テハ豫メ非常變災ノ場合ニ於ケル處置方法ヲ規定シ置クヘシ

第六條 御影ハ變災又ハ其他ノ事故ニ依リ一時學校外ニ奉遷ヲ要スルトキハ事情ヲ具シ監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 御影並ニ教育ニ關スル勅語謄本ヲ拜戴セル學校ヲ廢止シタルトキハ直ニ奉還スヘシ

○小學校教員教務研究會準則

明治二十八年二月十四日  
愛媛縣訓令第六號

郡 市

郡市長ハ其管内各小學校ノ教育ヲシテ適切完備ナラシメンカ爲メニ左ノ準則ニ基ツキテ規程ヲ設ケ小學校教員教務研究會ヲ開設セシムヘシ  
但シ本規程ヲ設ケタルトキハ其條項ヲ具シテ直ニ開申スヘシ

小學校教員教務研究會準則

第一條 小學校教員教務研究會ハ小學校ノ教科用圖書ヲ講究シ及教授管理ニ關スル方法ヲ研究セ